



マツダ先進安全技術
i-ACTIVSENSE ガイドブック

本ガイドブックは、マツダの安全思想
マツダ・プロアクティブ・セーフティと
マツダ先進安全技術i-ACTIVSENSEの
機能について説明しています。

各機能の役割や正しい作動条件をご理解いただき、
お客様に安全・安心なカーライフを
楽しんでもいただきたいと思います。
走る歓びのために、確かな安心を。

警告

マツダ先進安全技術は、あくまで、運転者の安全運転を前提としたシステムであり、
運転負荷や事故被害の軽減を目的としています。したがって作動には一定の条件があり、
各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心掛けてください。
その他、ご理解いただきたい注意事項がありますので、
運転前に必ず取扱説明書をご覧ください。

目次

マツダの安全思想	P004	
安全運転をサポートする人間中心の基本設計	P006	
人とクルマのつながりを広げる、コネクティッドサービス	P009	
安全運転をサポートする電子キー、ドライビングサポートプラス	P011	
万が一の事故や衝突による被害を軽減するための技術	P014	
i-ACTIVSENSEについて		
i-ACTIVSENSE、i-ACTIVSENSEのカメラ/センサー配置と役割	P017	
フォワードセンシングカメラ(FSC)について	P020	
ドライバー・モニタリングカメラについて	P027	
レーダーセンサー(フロント/フロントサイド/リアサイド)	P030	
超音波センサー(フロント/リア/リアコーナー/リアサイド)	P032	
先進安全技術 i-ACTIVSENSE一覧	P034	
① 走行時の安全をサポート		
スマート・ブレーキ・サポート [前方検知機能] (SBS)	P040	
スマート・ブレーキ・サポート [右直事故回避アシスト機能] (SBS)	P047	
スマート・ブレーキ・サポート [対向車衝突被害軽減機能] (SBS)	P052	
スマート・ブレーキ・サポート [前進時左右接近物検知機能] (SBS-FC)	P056	
スマート・ブレーキ・サポート [交差点事故回避アシスト機能] (SBS)	P060	
スマート・ブレーキ・サポート [後方検知機能] (SBS-R)	P063	
スマート・ブレーキ・サポート [後進時左右接近物検知機能](SBS-RC)	P068	
アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート(アドバンストSCBS)	P073	
スマート・ブレーキ・サポート (SBS)	P080	
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)	P086	
② 発進・後退時の安全をサポート		
AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]	P091	
前側方接近車両検知(FCTA)	P096	
後側方接近車両検知 (RCTA) / リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)	P101	
360°ビュー・モニター	P106	
③ 夜間の安全運転をサポート		
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)	P111	
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)	P115	
アダプティブ・フロントライティング・システム (AFS)	P117	
④ ドライバーに危険認知を促進		
レーンキープ・アシスト・システム (LAS)	P118	
車線逸脱警報システム (LDWS) LDWS:Lane Departure Warning System	P123	
緊急時車線維持支援 [ロードキープアシスト機能/ 側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能] (ELK)	P128	
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)	P138	
⑤ 走行時の運転負担を軽減		
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)	P144	
クルージング&トラフィック・サポート (CTS)	P151	
⑥ ドライバーの異常を検知、被害軽減を支援		
ドライバー異常時対応システム (DEA) *DEA: Driver Emergency Assist	P165	

マツダの安全思想

マツダ・プロアクティブ・セーフティ

MAZDA PROACTIVE SAFETY

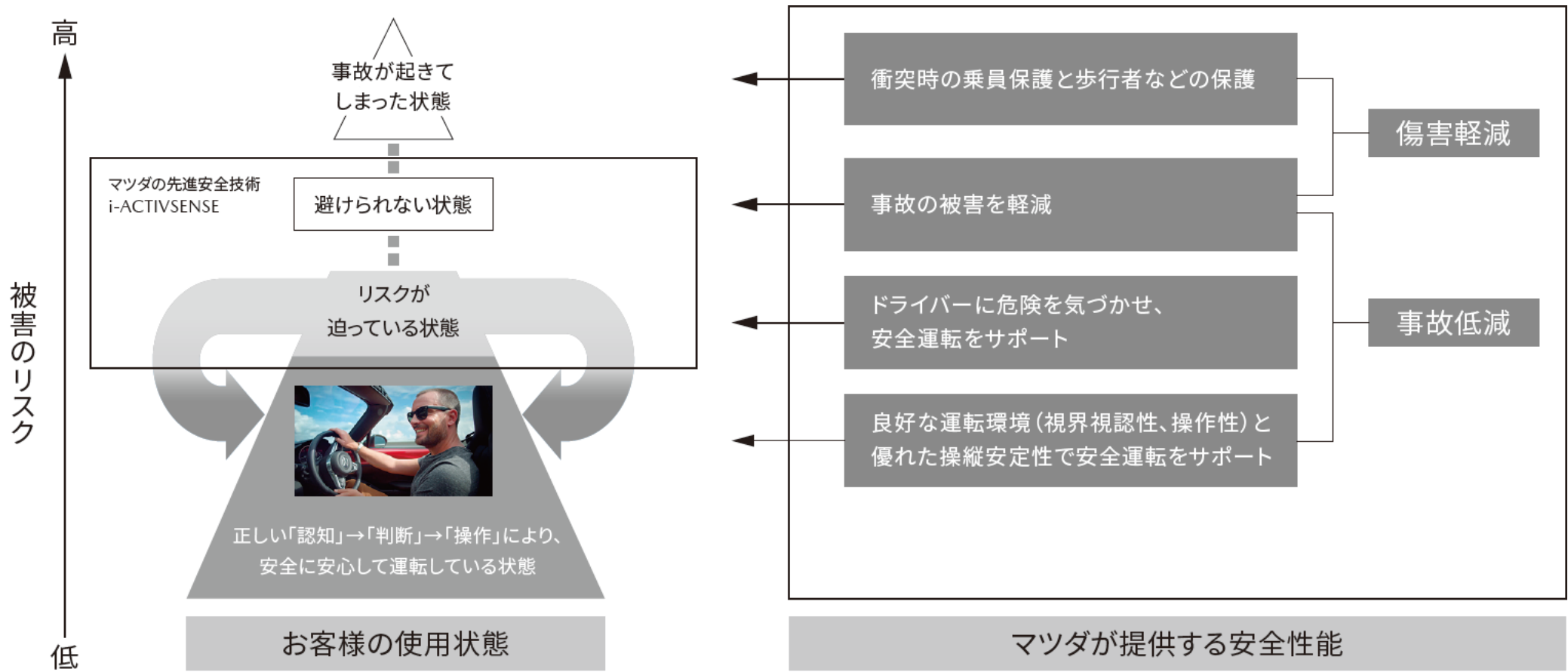
目前に迫った事故を避ける、または被害を軽減するための被害軽減ブレーキは、
今や、どんな自動車にも不可欠な安全技術になりました。

しかしマツダは、それだけでは満足はしません。
危険な状況になってからそれに対処するのではなく、
事故や危険につながる、もっともっと前の段階から、
安全について考え、設計する。

それによって、ドライバーが安心して運転できるように、
そして、クルマに乗る人が走る歓びを思う存分満喫できるように。

マツダ・プロアクティブ・セーフティ。
これが、マツダの安全に対する独自の考え方です。

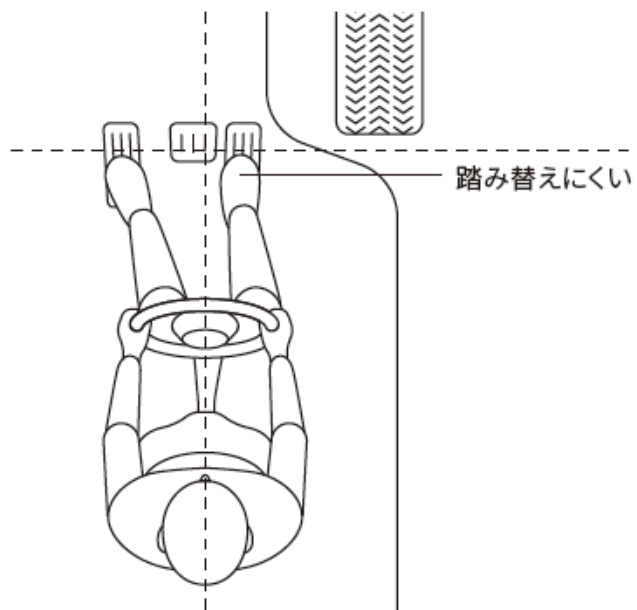
マツダの安全思想



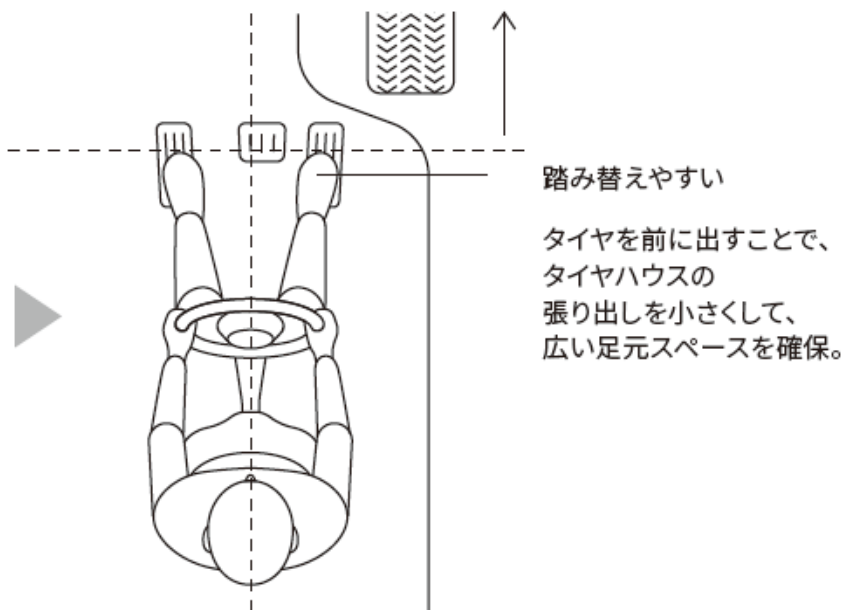
安全運転をサポートする人間中心の基本設計

良好な運転環境(視覚視認性、操作性)と優れた操作性で安全運転をサポート。

マツダが考える理想状態ではないペダルレイアウト



マツダが考える理想のペダルレイアウト



ペダルレイアウト

リラックスした運転環境を確保します。

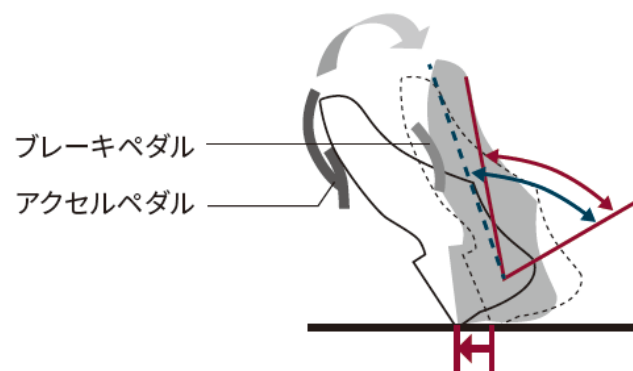
人間は内側より外側に足を置いたほうが動かしやすいため、マツダのペダルは外側に配置されています。

運転者の疲労を軽減するだけでなく、危険な目に遭った際、瞬時に動けるようサポートします。

安全運転をサポートする人間中心の基本設計

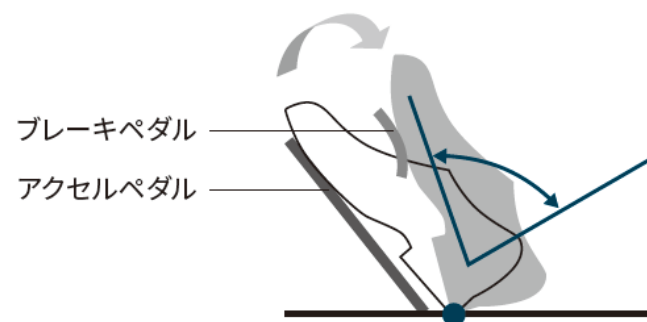
良好な運転環境(視覚視認性、操作性)と優れた操作性で安全運転をサポート。

吊り下げ式



かかとが前にズレるので、ブレーキへ踏み替え時に足首を持ち上げる角度がきつくなる。

オルガン式



かかとが動かないので、ブレーキへ踏み替えしやすい。

オルガン式アクセルペダル

アクセルとブレーキの踏み替えがしやすくなります。

かかとをフロアにつけてペダルを踏み込んだとき、
かかとがずれにくく踏み込む足と
ペダルが同じ軌跡を描くため、
アクセルペダルがコントロールしやすくなります。

安全運転をサポートする人間中心の基本設計

良好な運転環境(視覚視認性、操作性)と優れた操作性で安全運転をサポート。

ヘッズアップコクピット

意識の“わき見”を防ぐための、コクピット周辺のレイアウトを整理。



*画像は点灯状態を演出しています。*モニター画面はハメ込み合成です。

① 意識が離れることを防止

視線移動の少ない運転者の正面のゾーンに走行情報を配置。

運転に必要な情報とそれ以外を明確にすることで、
不要なものに意識を奪われないようなレイアウトに。

② 目が離れることを防止

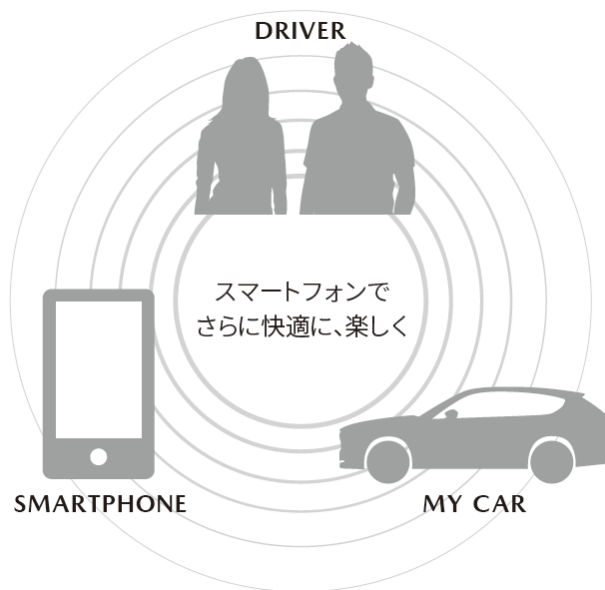
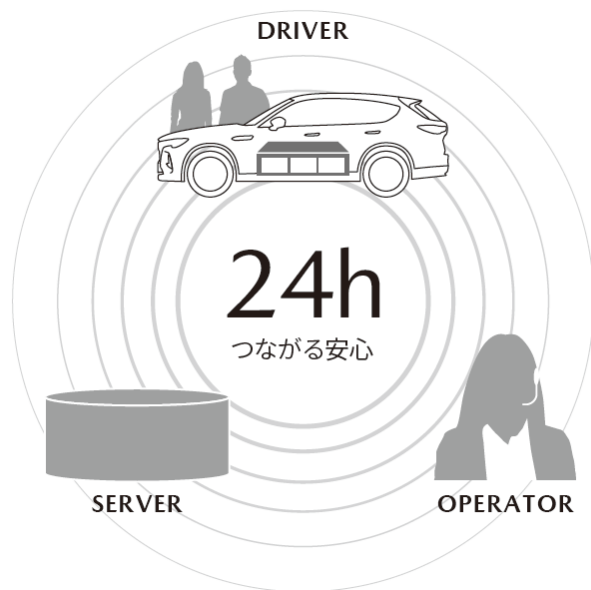
人間の有効視野の範囲内であるフロントガラスに
情報を投影するアクティブ・ドライビング・ディスプレイを開発。
また、視野の妨げにならないよう、上方にセンターディスプレイを搭載。

③ 手が離れることを防止

センターディスプレイの操作は、
タッチパネル方式ではなくコマンダーコントロール。
手元を見ることなく、より安全に情報操作が可能。

人とクルマのつながりを広げる、コネクティッドサービス

コネクティッドサービスは、重大な事故や急病、故障等もしもの場面でも安心と安全を感じていただけるよう、24 時間様々な場面でお客をサポートします。また、スマートフォンアプリ「MyMazda(マイマツダ)」と連携してクルマと繋がることができ、お客様のカーライフがもっと便利になります。



コネクティッドサービスについて、
詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/>



人とクルマのつながりを広げる、コネクティッドサービス

- ＊ コネクティッドサービスはマツダ株式会社が提供するサービスです。
- ＊ サービスのご利用にあたっては、別途店頭ご契約手続きおよびサービス開始手続きが必要となります。
- ＊ 車載通信機単体でも一部サービスはご利用いただくことができますが、お客様のスマートフォンから専用アプリ「MyMazda」をダウンロードいただくことで、より多くのサービスをご利用いただけます。
- ＊ 通信環境等により、サービスがご利用いただけない場合があります。また、各種機能の作動には一定の条件があります。
詳しくはWEB サイトをご確認ください。<https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/>
- ＊ 安全のため、走行中は一部の操作や画面表示が制限されます。
- ＊ サービス内容は2024年8月現在のものです。予告なく変更・中止される場合があります。
- ＊ コネクティッドサービスの内容および契約手続きの詳細は、営業スタッフにおたずねください。
- ＊ 車載通信機で使用している内部電池には寿命があります

コネクティッドサービスについて、
詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/>



安全運転をサポートする電子キー、ドライビングサポートプラス 〈ショップオプション〉

ショップオプションの電子キーでドアロックを解錠すると、ドライビングサポートプラスを始動。ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、EVシステム/エンジンの出力抑制を図ることで、車両が急加速しないよう支援します。

ドライビングサポートプラス用 アドバンストキーレス



安全運転をサポートする電子キー、ドライビングサポートプラス 〈ショップオプション〉

【作動条件】

- セレクトレバーがP/ N 以外するとき。
- 車速が前進時約30km/h以下、後退時約15km/h以下するとき。

【作動しない条件】

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約2秒間。
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、
またはブレーキペダルを離したあと約2秒間。
- 急な上り坂に自車がいるとき。

※標準装備のキーを同時に携帯すると、ドライビングサポートプラスが作動しない場合がございます。

※ドライビングサポートプラスは、一部車種に設定されています。

マルチインフォメーションディスプレイ表示例



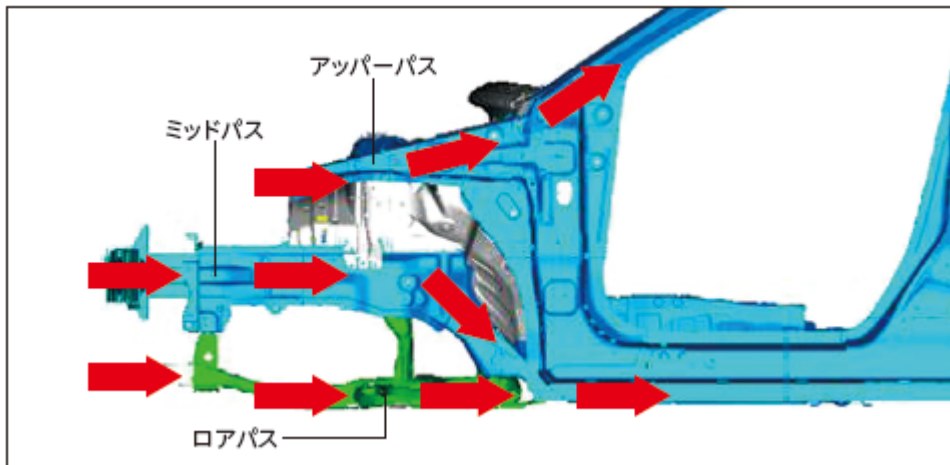
安全運転をサポートする電子キー、ドライビングサポートプラス 〈ショップオプション〉

注意事項

ドライビングサポートプラスは、ドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。

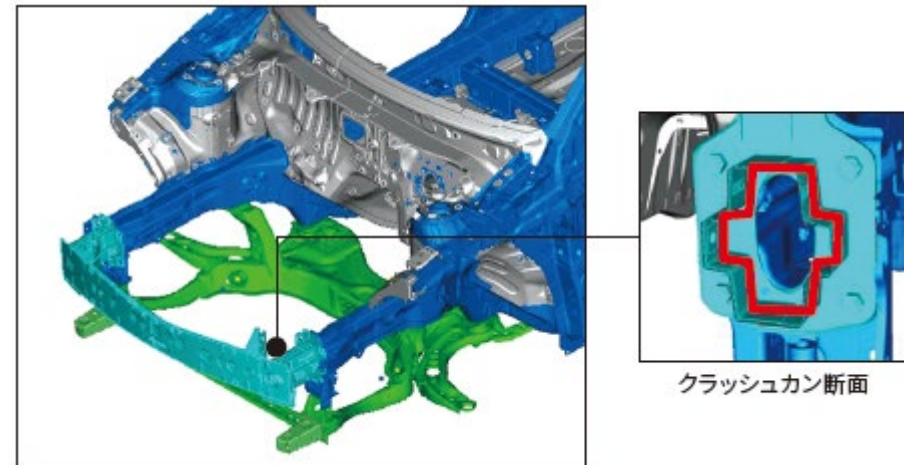
万が一の事故や衝突による被害を軽減するための技術

事故から乗員を守ることを目指したボディ構造



エネルギーを効果的に吸収・分散する マルチロードパス構造

マルチロードパス構造は、アッパーパス、ミッドパス、ロアパスによって前方からの衝撃を多方向に吸収・分散する仕組みです。

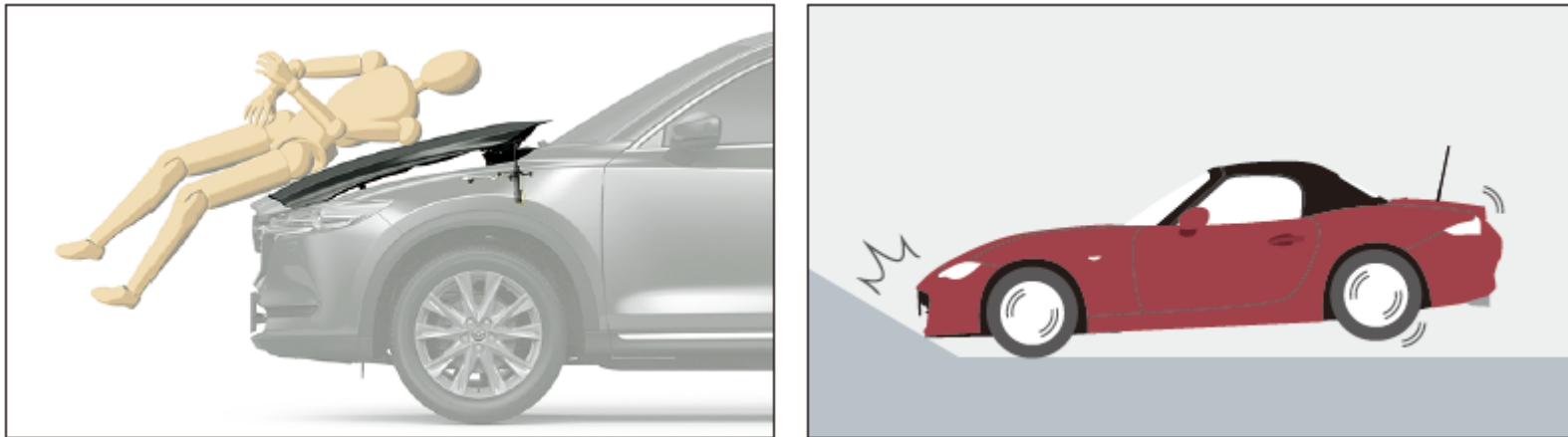


マツダ独自の十字断面構造

フレームにはマツダ独自の十字クラッシュカン構造を採用しています。外周の辺の長さや板厚が同じでも、稜線が増えることで強度が大きくアップ。軽量化に貢献するとともに、ぶつかったときにはきれいにつぶれる構造となっています。

万が一の事故や衝突による被害を軽減するための技術

万が一の衝突時、歩行者への被害を軽減するための技術



アクティブボンネット(歩行者保護システム)

一定以上の衝撃を感知すると、ボンネット後部を瞬時に持ち上げてエンジンとの間にスペースを確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。路面、駐車場、踏切等の段差や急な坂道への出入りにおいて、バンパーや車両下部に衝撃が入ると作動する場合があります。速度を落とし、十分注意して走行してください。

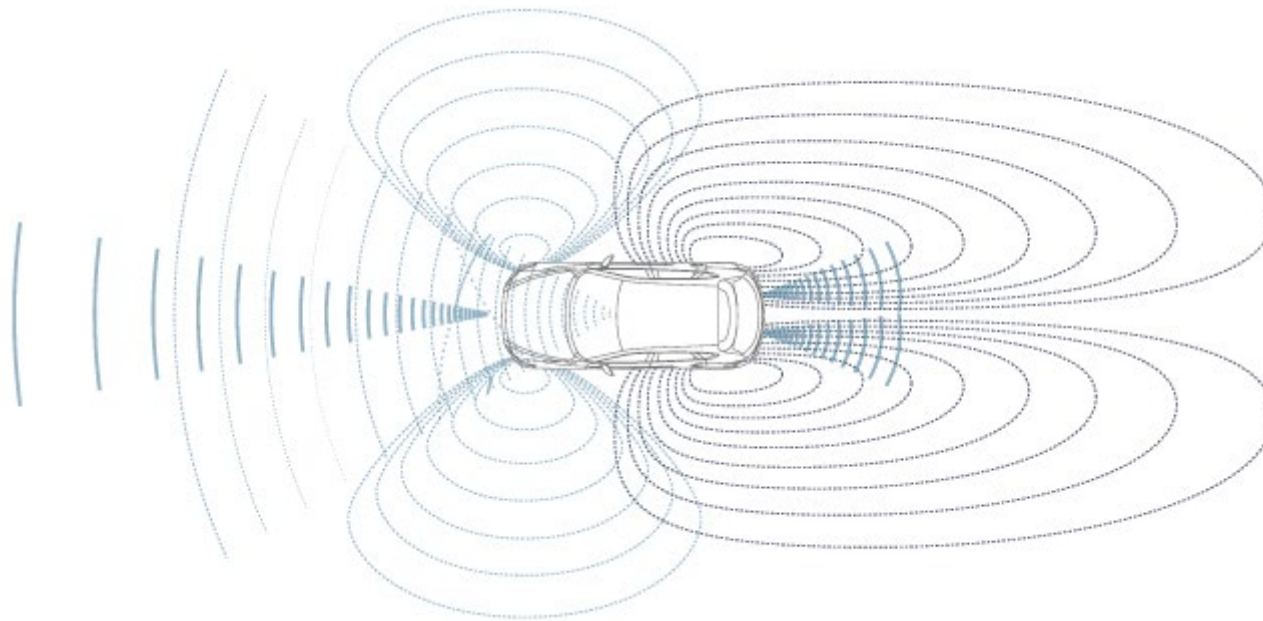
(設定車種については、営業スタッフにご確認ください。)

i-ACTIVSENSE

危険な状況に陥ってから対処するのではなく、危険自体を回避する、それがマツダの安全思想です。

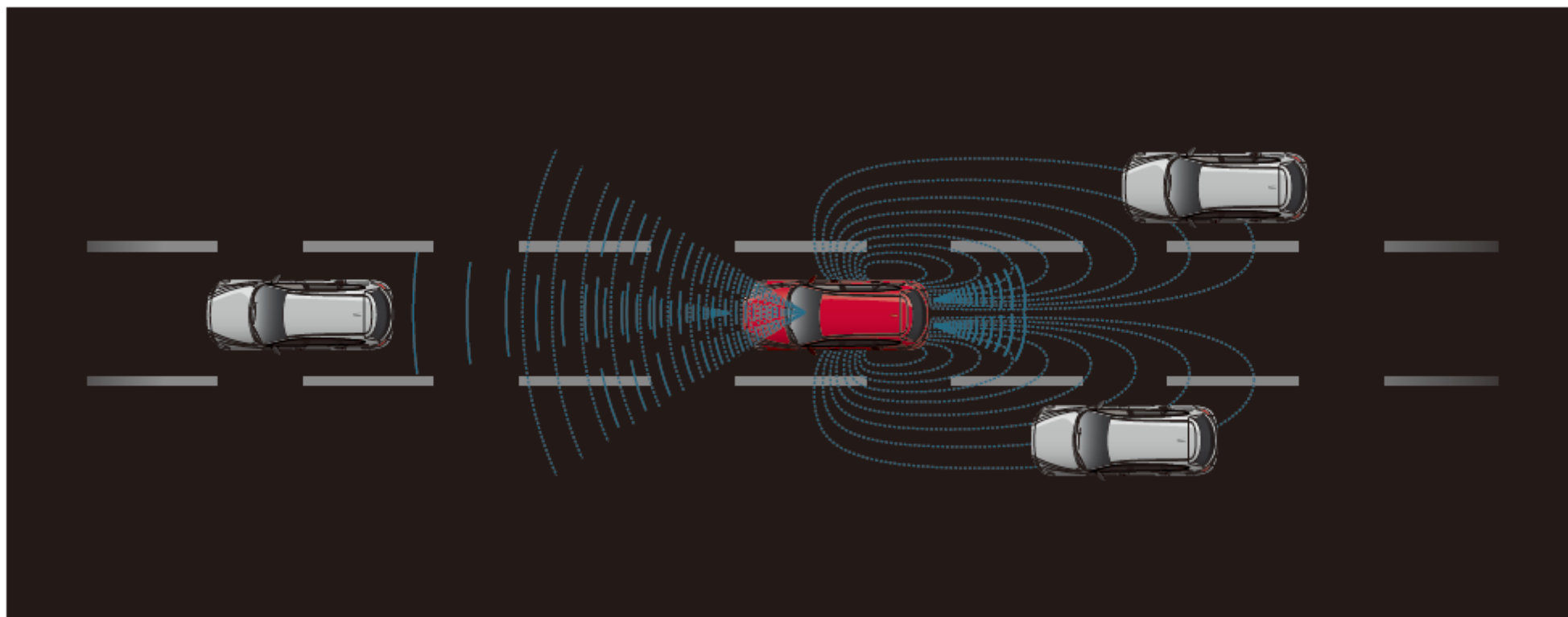
この考えに基づき開発したのが「i-ACTIVSENSE」という先進安全技術群。

さまざまな運転環境での認知・判断・操作をサポートし、事故のリスクを最小限に抑えます。



i-ACTIVSENSEのカメラ/センサー配置と役割

運転者が安全に運転できる状態を保てるよう、“危険”に目を光らせる各種デバイスを紹介します。

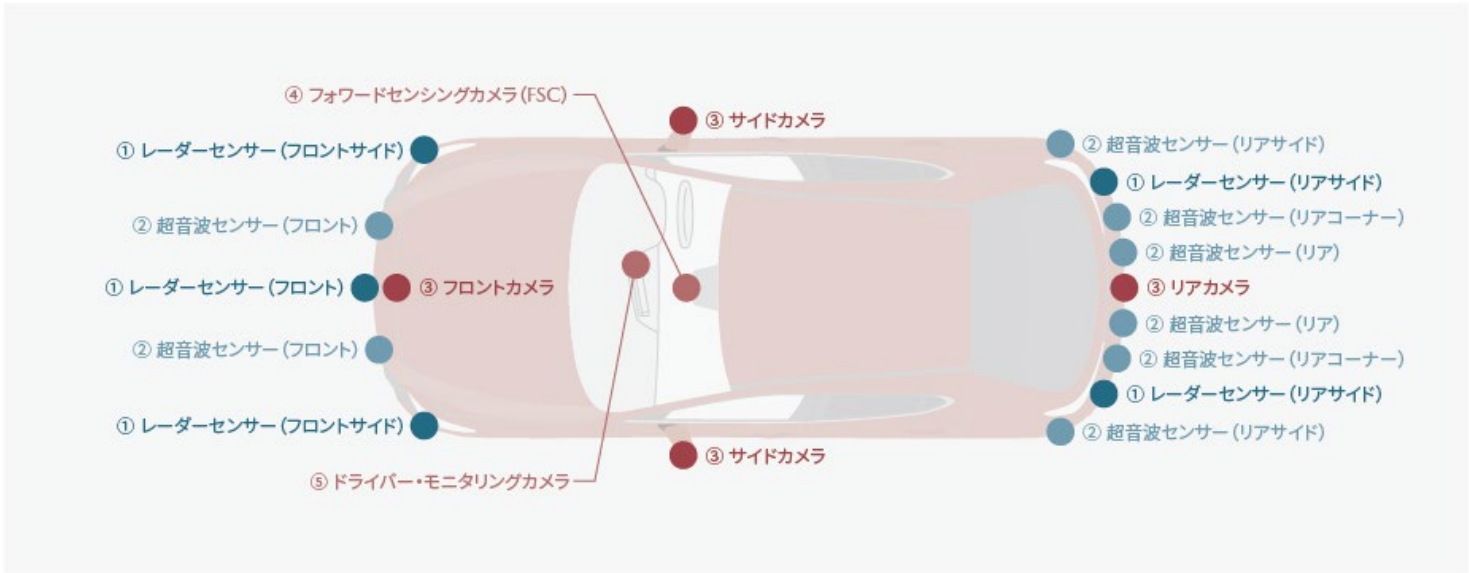


i-ACTIVSENSEのカメラ/センサー配置と役割

運転者が安全に運転できる状態を保てるよう、“危険”に目を光らせる各種デバイスを紹介します。

各センサーの設置場所

マツダの車は、多くのカメラ/センサーを使い分けることにより、危険から運転者を360°守ることを目指します。



- | | |
|---------------------------------|----------------------------------|
| ① レーダーセンサー (フロント/フロントサイド/リアサイド) | ② 超音波センサー (フロント/リア/リアコーナー/リアサイド) |
| ③ フロントカメラ/サイドカメラ/リアカメラ | ④ フォワードセンシングカメラ (FSC) |
| ⑤ ドライバー・モニタリングカメラ | |

i-ACTIVSENSEのカメラ/センサー配置と役割

運転者が安全に運転できる状態を保てるよう、“危険”に目を光らせる各種デバイスを紹介します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 衝突事故などで衝撃が加わった場合は各センサーの位置がずれることがあります。
ただちにシステムの使用を中止し、必ずマツダ販売会社で点検を受けてください。
- 各システムの正しい作動のため、レーダーセンサー(フロント/フロントサイド/リアサイド)付近はいつもきれいにしておいてください。またステッカーなども貼り付けないでください。

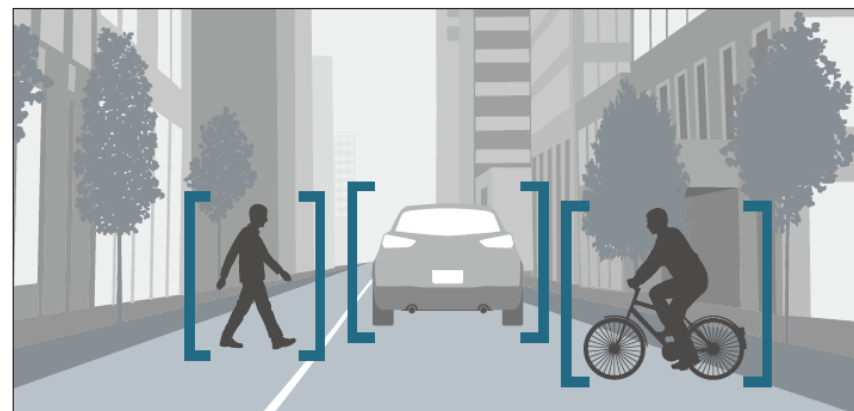
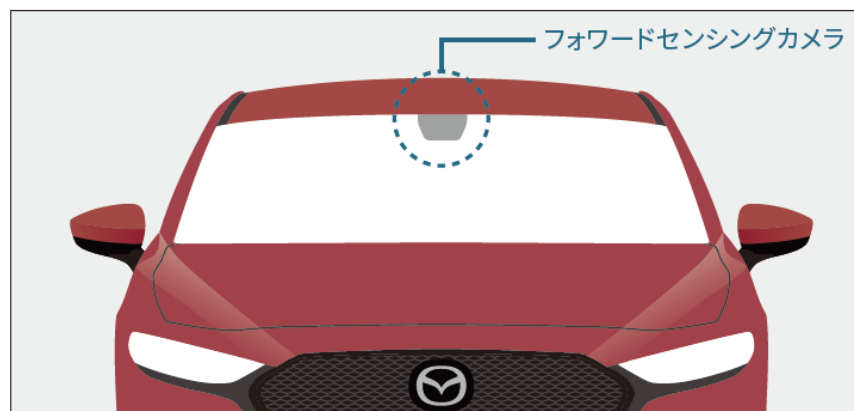
フォワードセンシングカメラ(FSC)

多くの安全装備を機能させるため、重要な役割を担うFSC。運転をより安全・より安心に行っていただくためにも、役割や機能をご紹介します。

FSCの役割と装着位置

○ FSCは、前方の状況(車両、歩行者、自転車、車線表示、交通標識、周囲の明るさなど)を検知するためのもので、マツダの多くの安全技術で利用されています。

○ FSCは、ルームミラー付近に設置されています。



FSC検知イメージ

フォワードセンシングカメラ(FSC)

多くの安全装備を機能させるため、重要な役割を担うFSC。運転をより安全・より安心に行っていただくためにも、役割や機能をご紹介します。

FSCを利用しているマツダの安全技術

- アダプティブ・LED・ヘッドライト(ALH)
- ハイ・ビーム・コントロールシステム(HBC)
- レーンキープ・アシスト・システム(LAS)/車線逸脱警報システム(LDWS) *LDWS:Lane Departure Warning System
- 緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能](ELK)
- 交通標識認識システム(TSR) *TSR:Traffic Sign Recognition system
- ドライバー・アテンション・アラート(DAA)
- ドライバー・モニタリング
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール(MRCC)
- クルージング&トラフィック・サポート(CTS)
- AT誤発進抑制制御[前進時]
- スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能](SBS)
- スマート・ブレーキ・サポート[右直事故回避アシスト機能](SBS)
- スマート・ブレーキ・サポート[対向車衝突被害軽減機能](SBS)
- スマート・ブレーキ・サポート[交差点事故回避アシスト機能](SBS)
- アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート(アドバンストSCBS)
- スマート・ブレーキ・サポート(SBS)
- ドライバー異常時対応システム(DEA)

フォワードセンシングカメラ(FSC)

多くの安全装備を機能させるため、重要な役割を担うFSC。運転をより安全・より安心に行っていただくためにも、役割や機能をご紹介します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

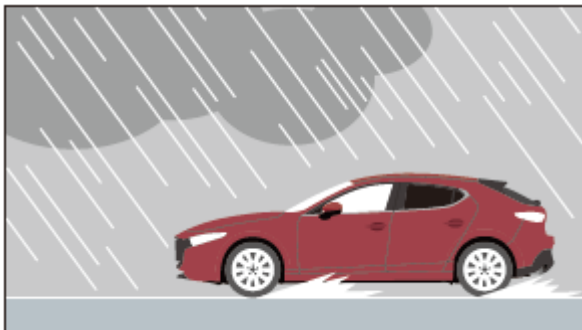
警告

- FSC付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常に綺麗な状態にしてください。
- フロントガラスの手入れをするときは、ガラスクリーナーなどが、FSCのレンズに付着しないようにしてください。また、FSCのレンズには触れないでください。
- インstrumentパネルの上に光を反射するものを置かないでください。
- サスペンションの改造はおやめください。(車高や傾きが変わると誤作動の原因になります。)
- 飛び石などで、フロントガラスに傷などが認められるときは、フロントガラスの交換が必要です。お近くのマツダ販売会社にてご相談ください。

フォワードセンシングカメラ(FSC)

多くの安全装備を機能させるため、重要な役割を担うFSC。運転をより安全・より安心に行っていただくためにも、役割や機能をご紹介します。

FSCが正確に対象物を検知できない場合があります。



天候条件

- 雨、雪、霧など天候が悪いとき。
- ウィンドーウォッシャー使用中や降雨時にワイパーを使用していないとき。



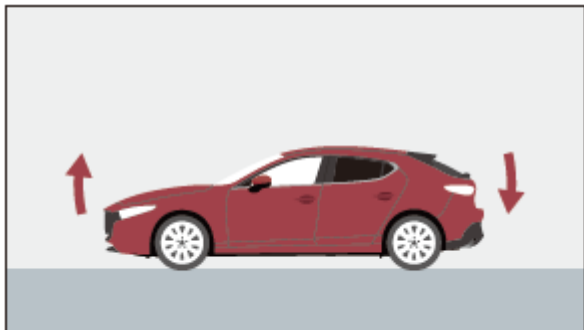
進路条件

- 急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき。
- 下り坂や凸凹な道路を走行しているとき。
- 濡れた路面の積雪や砂利道などの滑りやすい路面を走行しているとき。

フォワードセンシングカメラ(FSC)

多くの安全装備を機能させるため、重要な役割を担うFSC。運転をより安全・より安心に行っていただくためにも、役割や機能をご紹介します。

FSCが正確に対象物を検知できない場合があります。



車両の傾きがあり、 カメラが正しく検知しない場合

- タイヤチェーン、応急用スペアタイヤを使用しているとき。
- 重い荷物の積載などにより車両が傾いているとき。
- 偏摩耗の著しいタイヤを装着して走行しているとき。

危険な運転を行った場合

- 自車が車線変更をして対象物に接近したとき。
- 対象物との距離が極端に近い状態で走行しているとき。

フォワードセンシングカメラ(FSC)

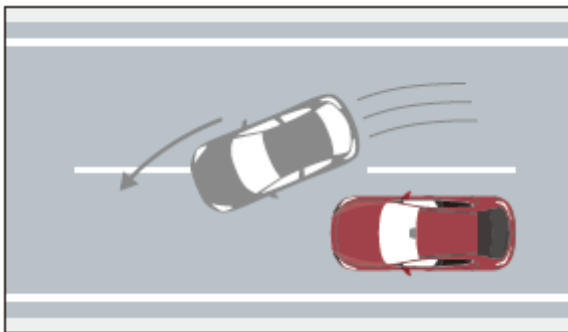
多くの安全装備を機能させるため、重要な役割を担うFSC。運転をより安全・より安心に行っていただくためにも、役割や機能をご紹介します。

FSCが正確に対象物を検知できない場合があります。



カメラ機能の限界①

- 夜間や夕方、朝方、トンネルや屋内の駐車場など周囲が暗いとき。
- 前方から強い光を受けたとき。
(逆光や対向車のヘッドランプ上向き〈ハイビーム〉など。)
- トンネルの出入り口を走行しているとき。
- 車両前方にたくさんの光を発するものがあるとき。
- 前方車の排気ガス、砂や雪、マンホールやグレーチングなどからの水蒸気などによる煙、水しぶきが巻きあがっているとき。
- フロントガラスに氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなどの異物が付着しているとき。



カメラ機能の限界②

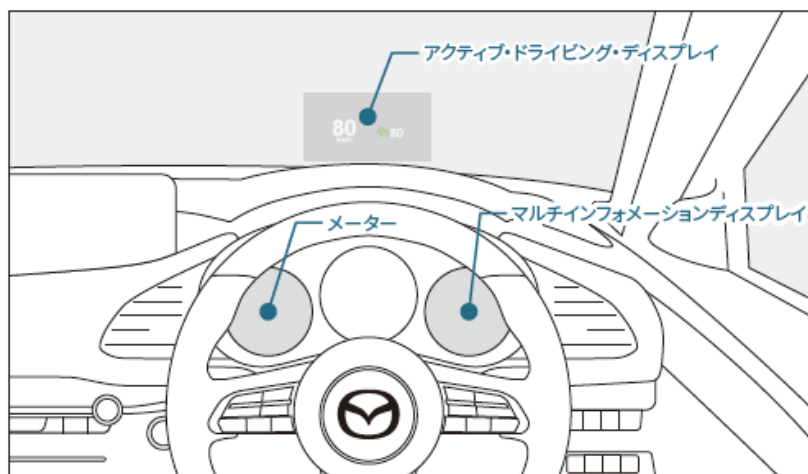
- 対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだとき。
- 夜間、またはトンネル内でヘッドランプを点灯していないとき。
- 前方車のテールランプ(尾灯/制動灯など)が消灯、または装備されていないとき。

フォワードセンシングカメラ(FSC)

多くの安全装備を機能させるため、重要な役割を担うFSC。運転をより安全・より安心に行っていただくためにも、役割や機能をご紹介します。

機能が一時停止して、警告灯/警告表示(橙色)が点灯する場合があります。

FSCは、逆光や霧の場合、高温で正常に機能できない場合、ガラスの汚れや曇りを検知した場合、FSCに関する機能を一時的に停止し、下の警告灯/警告表示(橙色)が点灯しますが、故障ではありません。エアコンを作動してFSC周辺の温度を下げたり、ガラスの汚れを取り除く、または曇り取りスイッチを押して曇りを取ってください。



i-ACTIVSENSE警告など

ドライバー・モニタリングカメラについて

ドライバー・モニタリングカメラは、運転者の顔や上半身の様子を観察し、運転者の状態を推定します。

ドライバー・モニタリングカメラの搭載位置と利用している安全技術

○ドライバー・モニタリングカメラはセンターディスプレイに搭載されています。

○次の安全技術がドライバー・モニタリングカメラを利用しています。

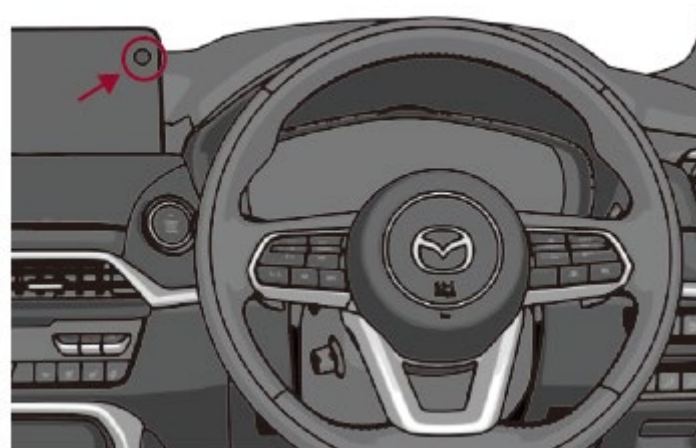
- ドライバー・モニタリング
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 前進時検知機能
- ドライバー異常時対応システム (DEA)

ドライバー・モニタリング

○運転者の危険な状態・行動を検知して、運転者に危険を知らせるシステムです。
運転者の眠気を検知する機能と脇見を検知する機能を搭載しております。

＊スマート・ブレーキ・サポート (SBS) 前進時検知機能とドライバー異常時対応システム (DEA) の機能の詳細はそれぞれP40～46、P156～178をご確認ください。

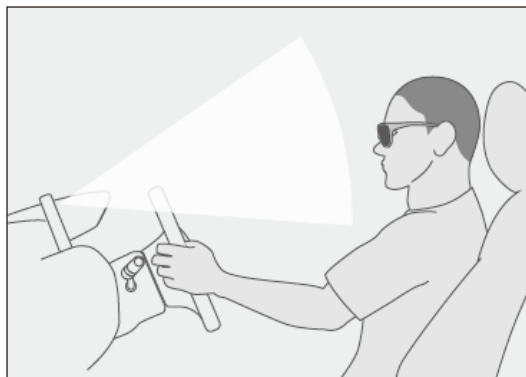
ドライバー・モニタリングカメラ搭載位置



ドライバー・モニタリングカメラについて

ドライバー・モニタリングカメラは、運転者の顔や上半身の様子を観察し、運転者の状態を推定します。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、
各システムが正常に作動しないことや、正常に検出できずシステムが作動することがあります。



- メガネやサングラスを着用しているとき。



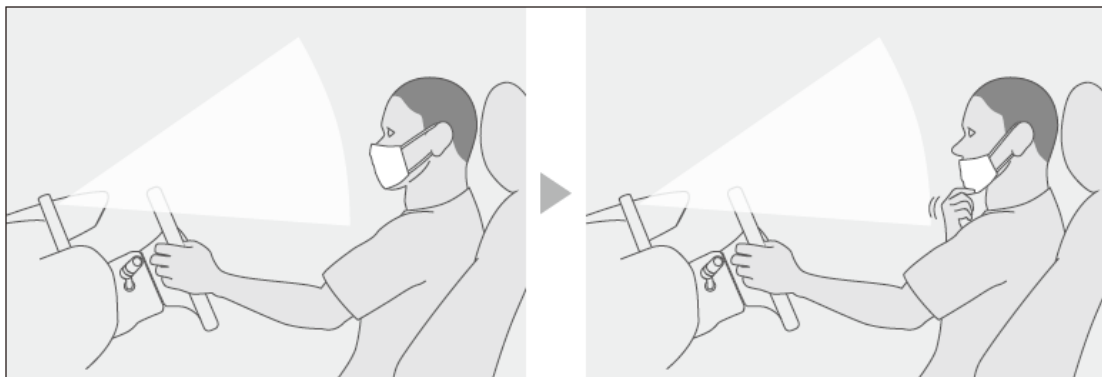
- 帽子、前髪などで目の一部が隠れたり、マフラー、マスク、髭、手などで顔の一部が隠れたりしているとき。

- 光環境条件が大きく変化したとき。
(西日などによる逆光、側光、順光および対向車のヘッドランプなど)
- 車室内で、近赤外線を発する機器を使用しているとき
- 車室内が高温になっているとき
- 手や腕などでドライバー・モニタリングカメラが
さえぎられているとき
- 助手席や後席の乗員が身を乗り出すなどして、ドライバー・
モニタリングカメラの検知範囲に複数の顔があるとき
- 窓から顔を出すなどして、顔がドライバー・モニタリングカメラの
検知範囲から大きく外れているとき

ドライバー・モニタリングカメラについて

ドライバー・モニタリングカメラは、運転者の顔や上半身の様子を観察し、運転者の状態を推定します。

マスク着用時に運転中にマスクをずらすなどした場合、
顔が下を向いて脇見をしていると判断し、システムが作動することがあります。



○ 運転中にマスクをずらすなどしたとき。

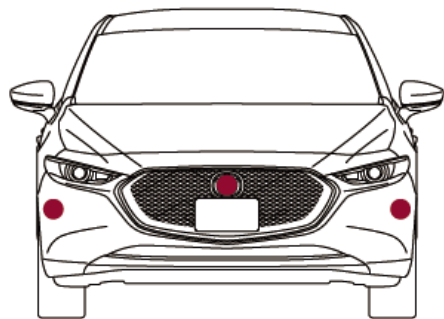
レーダーセンサー(フロント/フロントサイド/リアサイド)

レーダーセンサー(フロント/フロントサイド/リアサイド)から送信される電波が前方/後方からの接近車両、障害物に反射し、戻ってきた電波を検知します。

レーダーセンサー(フロント/フロントサイド/リアサイド)を利用しているマツダの安全技術

- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール(MRCC)
- クルージング&トラフィック・サポート(CTS)
- 前側方接近車両検知(FCTA)
- 後側方接近車両検知(RCTA)
- スマート・ブレーキ・サポート[前進時左右接近物検知機能](SBS-FC)
- スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物検知機能](SBS-RC)
- スマート・ブレーキ・サポート(SBS)
- スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能](SBS)
- スマート・ブレーキ・サポート[右直事故回避アシスト機能](SBS)
- スマート・ブレーキ・サポート[対向車衝突被害軽減機能](SBS)
- ブラインド・スポット・モニタリング(BSM)
- 緊急時車線維持支援
[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/
対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

レーダーセンサー(フロント/フロントサイド)



レーダーセンサー(リアサイド)



レーダーセンサー(フロント/フロントサイド/リアサイド)

レーダーセンサー(フロント/フロントサイド/リアサイド)から送信される電波が前方/後方からの接近車両、障害物に反射し、戻ってきた電波を検知します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

注意

- 次の場合は、フロントサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないことがあります。
- レーダーセンサー付近の部品に異物が付着した場合は、異物を取り除いてください。
- 詳しくは取扱説明書をご覧ください。

超音波センサー(フロント/リア/リアコーナー/リアサイド)

超音波センサー(フロント/リア/リアコーナー/リアサイド)から送信される超音波が前方/後方の障害物に反射し、戻ってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。

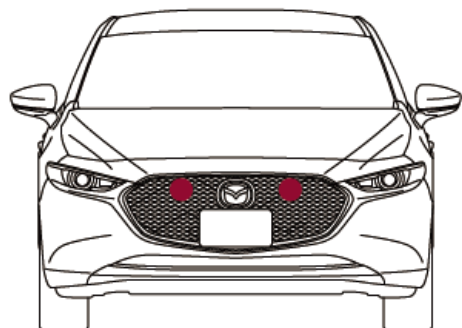
超音波センサー(フロント/リア/リアコーナー/リアサイド)を利用しているマツダの安全技術

○ AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]

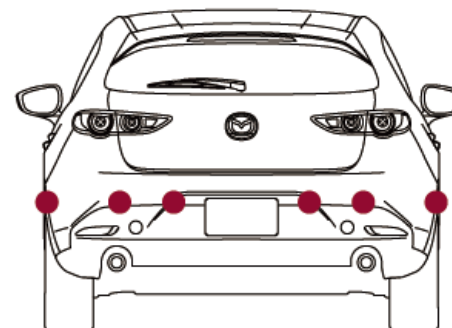
○ スマート・ブレーキ・サポート[後方検知機能] (SBS-R)

○ スマート・シティ・ブレーキ・サポート[後退時] (SCBS R)

超音波センサー(フロント)



超音波センサー(リア/リアコーナー/リアサイド)



超音波センサー(フロント/リア/リアコーナー/リアサイド)

超音波センサー(フロント/リア/リアコーナー/リアサイド)から送信される超音波が前方/後方の障害物に反射し、戻ってきた超音波を受信することによって対象物を検知します。

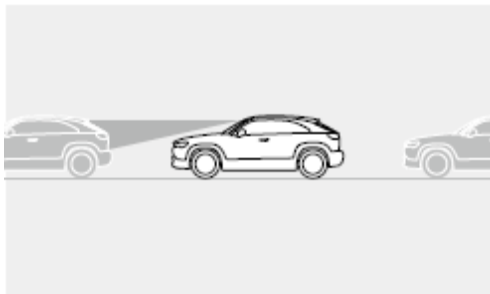
i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

注意

- 次の場合は、超音波センサーが対象物を検知できないことがあります。
- 対象物の種類や周囲の条件によっては、超音波センサーが対象物を検知できる距離が短くなったり、対象物を検知できなかったりすることがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 詳しくは取扱説明書をご覧ください。

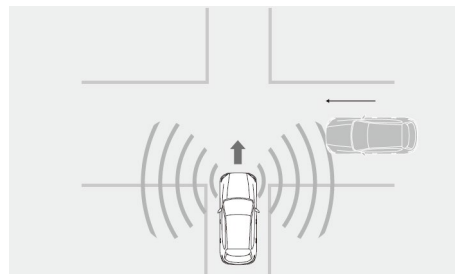
① 走行時の安全をサポート

スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能] (SBS)



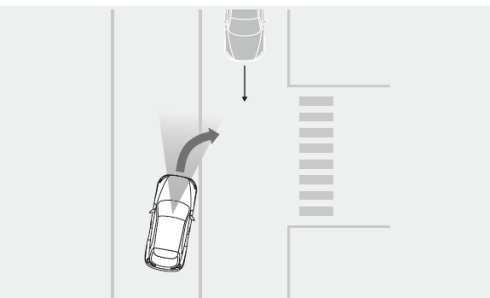
前方車、歩行者等と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

スマート・ブレーキ・サポート[前進時左右接近物検知機能] (SBS-FC)



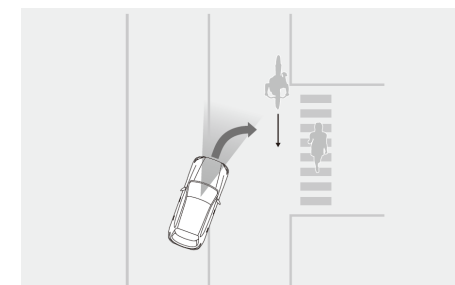
見通しの悪い道での出会いがしらで衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

スマート・ブレーキ・サポート[右直事故回避アシスト機能] (SBS)



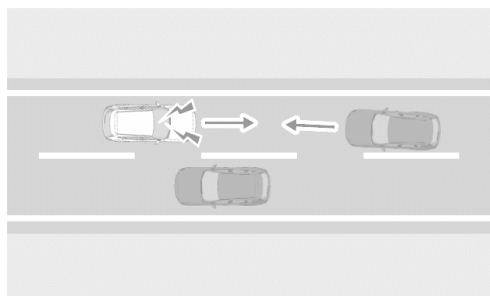
交差点右折時に対向車と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

スマート・ブレーキ・サポート[交差点事故回避アシスト機能] (SBS)



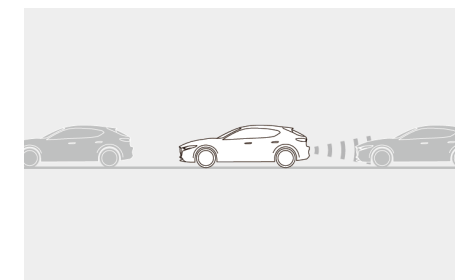
交差点右左折時に歩行者や自転車と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

スマート・ブレーキ・サポート[対向車衝突被害軽減機能] (SBS)



同一車線上の対向車と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

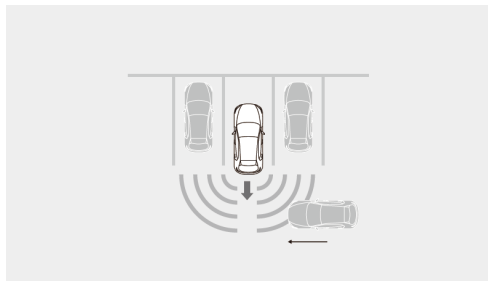
スマート・ブレーキ・サポート[後方検知機能] (SBS-R)



後ろにある自動車や障害物、歩行者と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

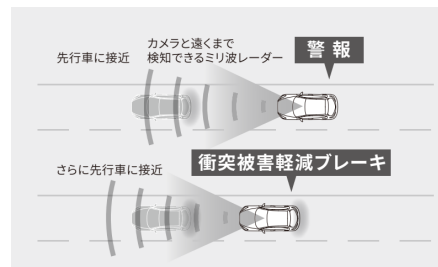
① 走行時の安全をサポート

スマート・ブレーキ・サポート[後進時左右接近物検知機能](SBS-RC)



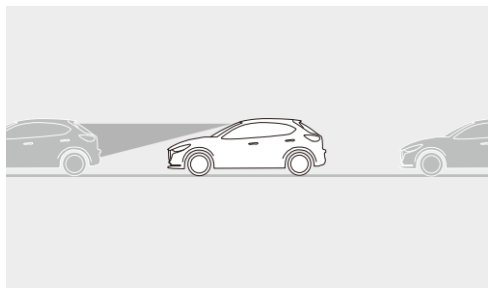
駐車場等から後退で発進する際に、接近する車両と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

スマート・ブレーキ・サポート(SBS)



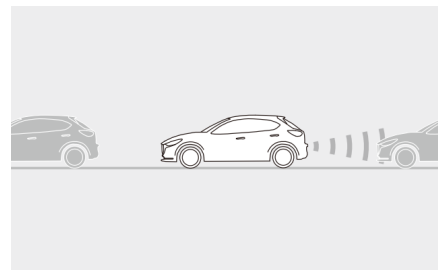
中/高速走行時に前方車と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート(アドバンストSCBS)



前方車、歩行者等と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート[後退時](SCBS R)



後ろにある自動車や障害物と衝突の恐れがあるとき、被害軽減ブレーキを作動させます。

② 発進・後退時の安全をサポート

AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]

■AT誤発進抑制制御[前進時]イメージ図



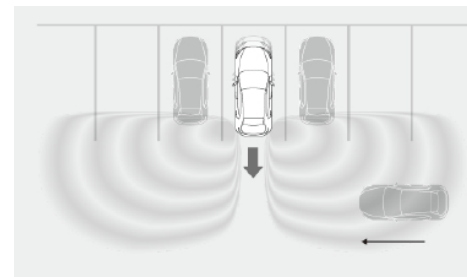
*カメラはフロントガラス上部に設置、超音波センサーはフロントバンパーに設置。

■AT誤発進抑制制御[後退時]イメージ図



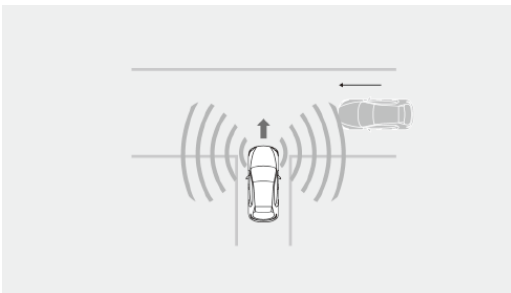
ペダル踏み間違い時の誤発進・急加速の抑制を図ります。

後側方接近車両検知 (RCTA) /リア・クロス・トラフィック・アラート (RCTA)



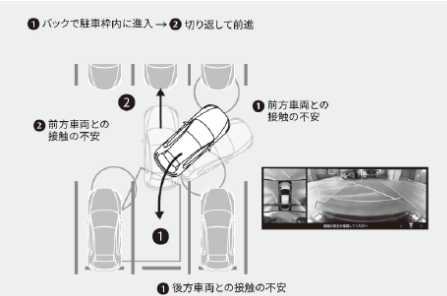
駐車場からバックで出てくるときに、自車に接近してくる車両を検知して運転者に危険を知らせます。

前側方接近車両検知(FCTA)



交差点などで自車が発進するとき接近する車両を検知し、運転者に危険を知らせます。

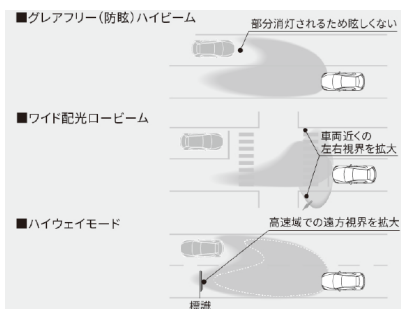
360°ビュー・モニター



狭い場所での駐車、狭い道でのすれ違いなど、見えない部分の危険察知をサポートします。

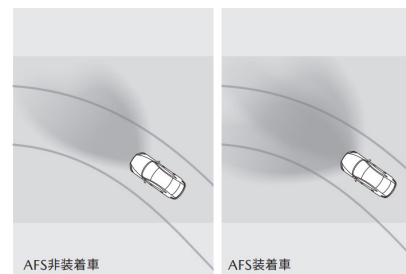
③ 夜間の安全運転をサポート

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)



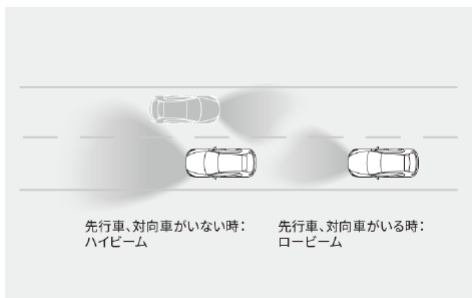
面倒な操作なしに夜でも前方の見やすい状況をつくり出します。

アダプティブ・フロントライティング・システム (AFS)



夜間のカーブ走行時、車速とステアリング舵角を検知して、カーブに応じた視界を確保します。

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)



ヘッドランプの上向き（ハイビーム）と下向き（ロービーム）を自動で切り替えます。

④ ドライバーに危険認知を促進

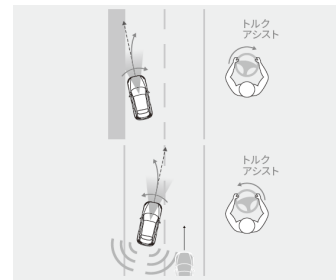
レーンキープ・アシスト・システム (LAS)

逸脱回避支援



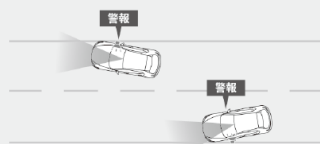
車線から逸脱する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線からの逸脱回避をサポートします。

緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能] (ELK)



路外へ逸脱する可能性があるとき等で、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

車線逸脱警報システム (LDWS) LDWS:Lane Departure Warning System



*アクセルやウィンカーなどの操作から意図的な運転と推定される場合は不要な警報を発しないよう工夫しています。

車線から逸脱する可能性があるとき、運転者に警告します。

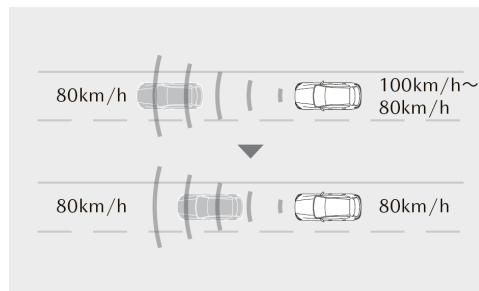
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)



ななめ後ろの死角にいるクルマの存在を知らせて、後方確認をサポートするシステムです。

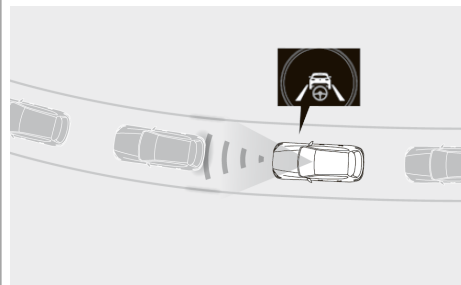
⑤ 走行時の運転負担を軽減

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)



高速道路等で、前方車との車間距離を保つよう、车速のコントロールを支援します。

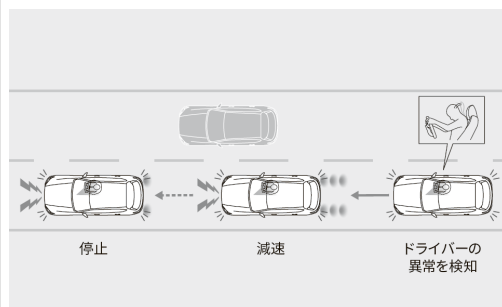
クルージング&トラフィック・サポート (CTS)



高速道路等で、前方車との車間距離を保ちつつ、ステアリングアシストを行うことで、走行を支援します。

⑥ ドライバーの異常を検知、被害軽減を支援

ドライバー異常時対応システム (DEA) *DEA: Driver Emergency Assist



運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合、車両を減速・停止させることで、被害軽減を図ります。

スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能] (SBS)

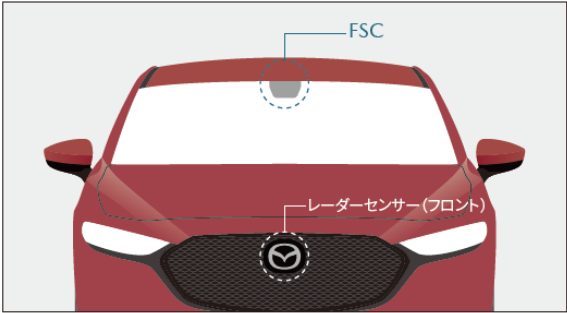
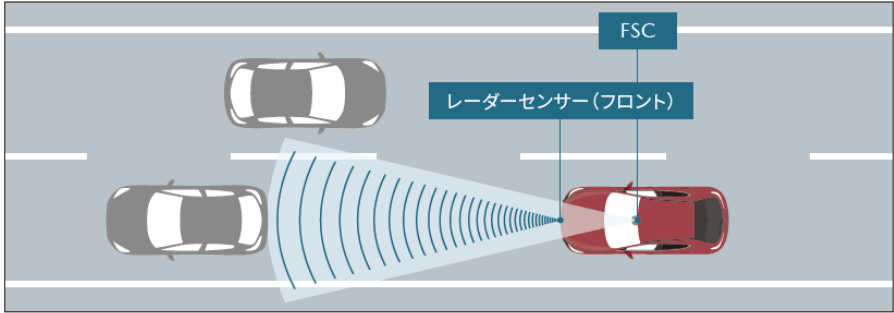
運転
支援機能

低/中速域

前方車、歩行者、自転車および自動二輪車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ(FSC)とレーダーセンサー(フロント)で、前方の車両や歩行者、自転車、自動二輪車を検知します(夜間の歩行者も検知できます)(自動二輪車の検知機能は一部車種のみ)。
- 衝突の可能性ありと判断したときにディスプレイや衝突警報音により、運転者に危険を知らせます。
- 衝突を回避できないと判断したときは、衝突被害軽減ブレーキを作動させます。
- 運転者がブレーキを踏んだときは、素早く確実にかかるよう補助します。
- (ドライバー・モニタリング装着時)ドライバー・モニタリングカメラで、運転者が正面を注視していないと判断した場合に対象物への衝突の可能性があるときは、通常より早期に衝突警報を行います。

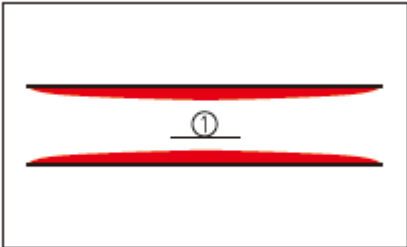


スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能] (SBS)

運転
支援機能

低/中速域

前方車、歩行者、自転車および自動二輪車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

作動条件	
【対象が前方車の場合】 ○ 車速が約4km/h以上のとき。※ 【対象が歩行者・自転車の場合】 ○ 車速が約10km/h～約80km/hのとき。 ※一部車種は作動速度が異なります。詳しくは各車種の取扱説明書をご確認ください。	
作動時の表示/警告音	
【作動時の表示】 対象物と衝突の可能性がある場合、警報音が鳴り続け、下記衝突警報が表示されます。 マルチインフォメーションディスプレイ  アクティブ・ドライビング・ディスプレイ  ※ ①に「ブレーキ!」と表示されます。 ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。	
【知識】 ○ 衝突被害軽減ブレーキ作動中およびブレーキアシスト中は、衝突警報音が断続的に鳴ります。 ○ 衝突警報の作動距離や音量を変更できます。→詳しくはマツダ コネクト取扱書「設定」をご覧ください。	

スマート・ブレーキ・サポート [前方検知機能] (SBS)

運転
支援機能

低/中速域

前方車、歩行者、自転車および自動二輪車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 衝突時の被害軽減を図る運転支援機能であり、機能には限界があります。
- 対象物、天候条件、道路状況などによっては対象物の検知に限界があり、システムが正常に作動しない場合があります。
- システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

＊本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能] (SBS)

運転
支援機能

低/中速域

前方車、歩行者、自転車および自動二輪車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

注意事項
※対象物(特殊な外観をした車両、部分的に見えている、隠れている、もしくは背景に溶け込んでいる車両と歩行者など)、天候状況(雨・雪・霧など)、道路状況(カーブが連続する道路、夜間や夕暮れなど視界の悪い時など)などの条件によっては適切に作動しない場合があります。 ※対象物(レーダー波または超音波を反射しにくい形状の車両など)、天候状況(雨・雪・霧など)、道路状況(カーブが多い、坂の繰り返しなど)などの条件によっては適切に作動しない場合があります。 ※本機能はドライバーの安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減を目的としています。したがって、各機能には限界がありますので過信せず、安全運転を心がけてください。 ※機能の詳細については、各車種の取扱説明書をご確認ください。

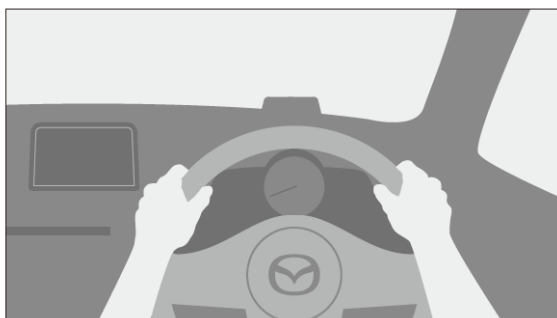
スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能] (SBS)

運転
支援機能

低/中速域

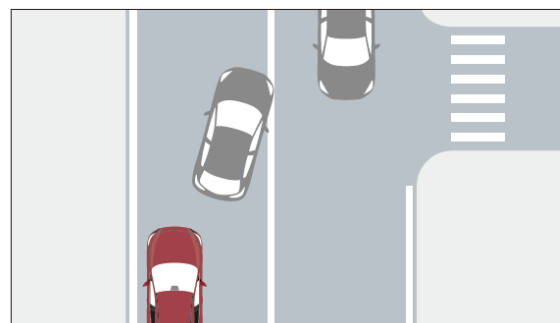
前方車、歩行者、自転車および自動二輪車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



運転者の操作を優先する場合

- 運転者が意図的に運転操作（アクセル操作、ハンドル操作）を行なったとき。
→回避操作とみなし、システムは作動しません。
- ブレーキペダルを踏んでいるとき。
- セレクトレバーを操作しているとき。



車両・道路条件

- 前方車と部分的な接触の可能性があるとき。
（前方車が自車の正面にないとき。）
- 濡れた路面や積雪、じゃり道などの滑りやすい路面を走行しているとき。

スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能] (SBS)

運転
支援機能

低/中速域

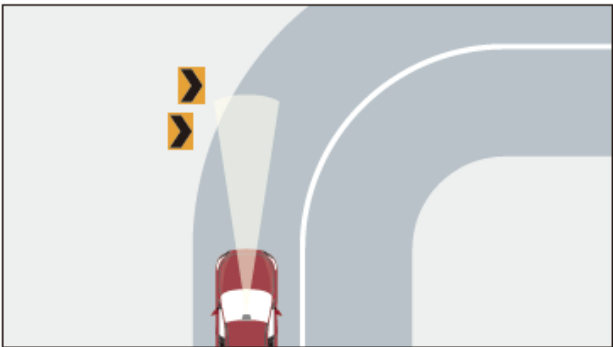
前方車、歩行者、自転車および自動二輪車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合には衝突の可能性がある判断し、システムが作動することがあります。



道路条件①

- ETCゲートを通過するとき。
（ETCバーを障害物と認識する場合があります。）
- 低いゲート、狭いゲートを通過するとき。



道路条件②

- カーブで対向車両とすれ違うとき。
- カーブ入り口路側物があるとき。
（カメラが対向車、路側物を検知し、衝突の可能性ありと判断することがあります。）
- 動物・壁・立木。

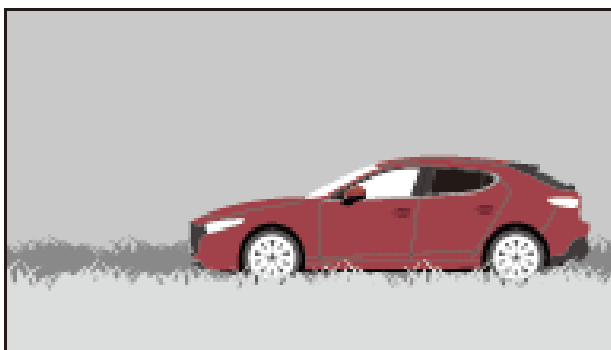
スマート・ブレーキ・サポート[前方検知機能] (SBS)

運転
支援機能

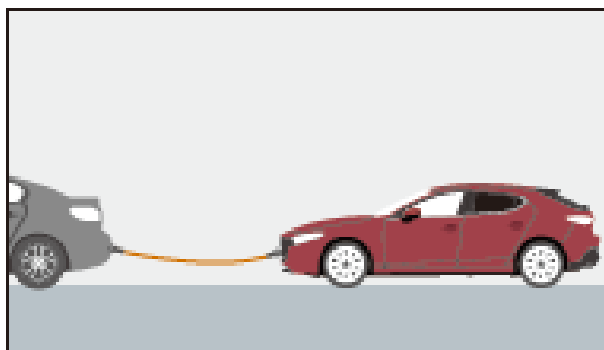
低/中速域

前方車、歩行者、自転車および自動二輪車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

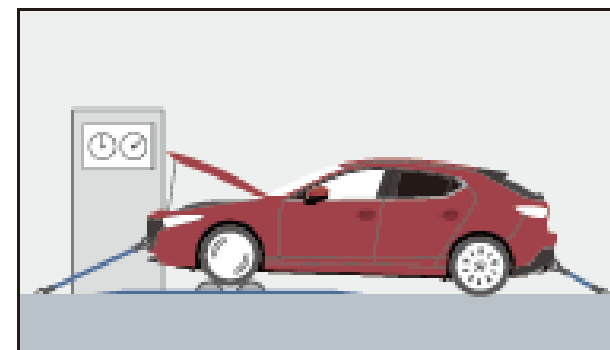
以下のような場合には誤って作動しないように、システムを停止してください。



○ 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき。



○ けん引されるとき、または他の車両をけん引するとき。



○ 整備や出力測定などでシャシーローラー(シャシーダイナモ)を使用するとき。

*システムの停止方法については各車種の取扱説明書をご覧ください。

スマート・ブレーキ・サポート

[右直事故回避アシスト機能] (SBS)

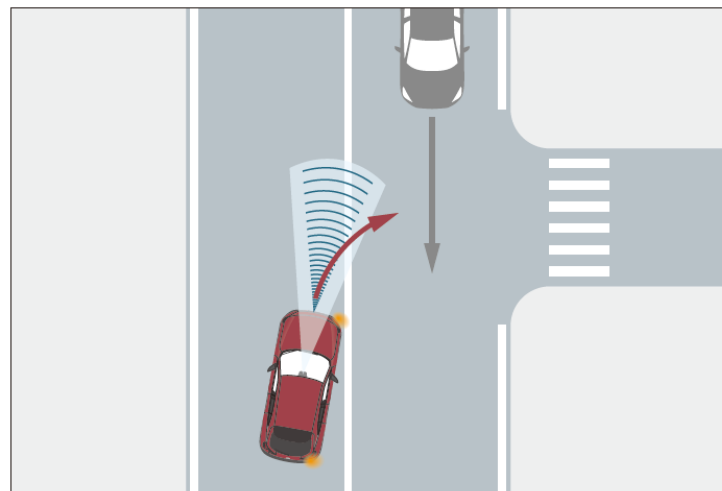
運転
支援機能

徐行時/
低速域

交差点右折時に対向車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ(FSC)とレーダーセンサー(フロント)で、対向車を検知します。
- 衝突の可能性ありと判断したときにディスプレイや衝突警報音により、運転者に危険を知らせます。
- 衝突を回避できないと判断したときは、衝突被害軽減ブレーキを作動させます。



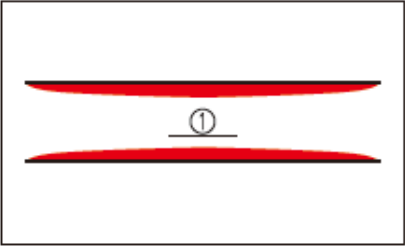
スマート・ブレーキ・サポート

[右直事故回避アシスト機能] (SBS)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

交差点右折時に対向車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

作動条件	
○ 車速が約4km/h～約20km/hのとき。 ○ 右ウインカーを点けて右折しているとき。 ○ 自車と対向車との間の中央線を認識できているとき。	
作動時の表示/警告音	
【作動時の表示】 対向車と衝突の可能性がある場合、警報音が鳴り続け、下記衝突警報が表示されます。 マルチインフォメーションディスプレイ  アクティブ・ドライビング・ディスプレイ  ※ ①に「ブレーキ!」と表示されます。 ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。	
【知識】 ○ 衝突被害軽減ブレーキ作動中も、衝突警報音が断続的に鳴ります。 ○ 衝突警報の音量を変更できます。→詳しくはマツダ コネクト 取扱書「設定」をご覧ください。	

スマート・ブレーキ・サポート

[右直事故回避アシスト機能] (SBS)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

交差点右折時に対向車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 衝突時の被害軽減を図る運転支援機能であり、機能には限界があります。
- 対象物、天候条件、道路状況などによっては対象物の検知に限界があり、システムが正常に作動しない場合があります。
- システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

*本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

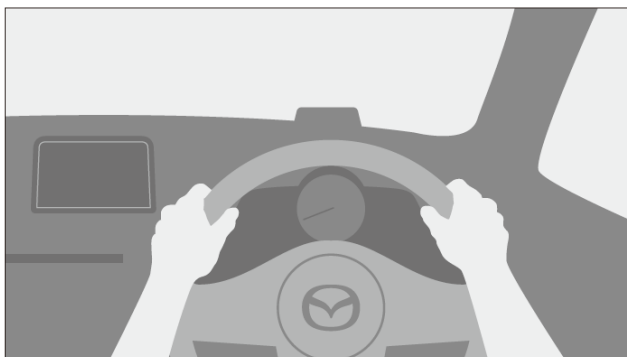
スマート・ブレーキ・サポート [右直事故回避アシスト機能] (SBS)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

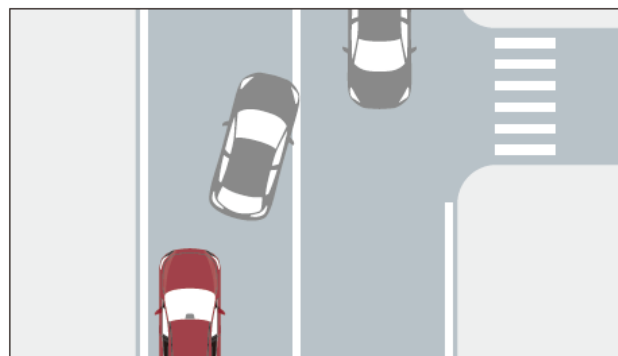
交差点右折時に対向車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



運転者の操作を優先する場合

- 運転者が意図的に運転操作（アクセル操作、ハンドル操作）を行なったとき。
→回避操作とみなし、システムは作動しません。
- ブレーキペダルを踏んでいるとき。
- セレクトレバーを操作しているとき。



車両・道路条件

- 前方車と部分的な接触の可能性があるとき。
（前方車が自車の正面にないとき。）
- 濡れた路面や積雪、じゃり道などの滑りやすい路面を走行しているとき。

スマート・ブレーキ・サポート

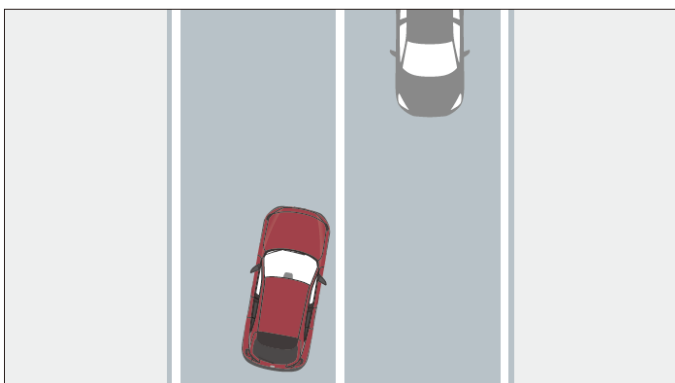
[右直事故回避アシスト機能] (SBS)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

交差点右折時に対向車へ衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合には衝突の可能性があると判断し、システムが作動することがあります。



車両・道路条件

- 対向車がいるときに、対向車線方向にハンドルを操作したとき。
- 対向車のすぐ後ろ、または前方を通過するとき。
- 対向車の急な右左折や減速などにより、移動を予測できないとき。

スマート・ブレーキ・サポート

[対向車衝突被害軽減機能] (SBS)

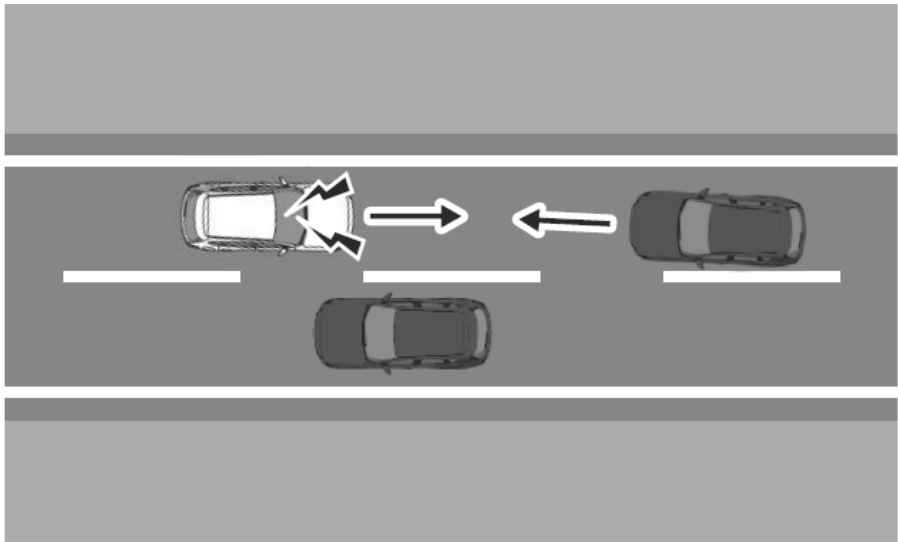
運転
支援機能

中/高速域

自車が同一車線上の対向車と衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで対向車と正面衝突した際の被害軽減を図ります。

機能の概要

- レーダーセンサー(フロント)およびフォワードセンシングカメラ(FSC)が検出する情報をもとに、自車が同一車線上の対向車と正面衝突する可能性があると判断した時に、警告表示および警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。
- さらに衝突を回避できない、と判断したときは衝突被害軽減ブレーキを作動させます。



スマート・ブレーキ・サポート

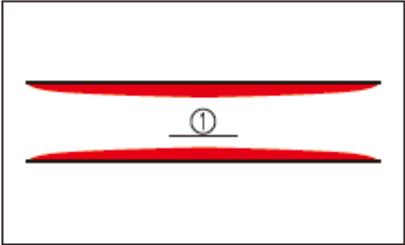
[対向車衝突被害軽減機能] (SBS)

運転
支援機能

中/高速域

自車が同一車線上の対向車と衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで対向車と正面衝突した際の被害軽減を図ります。

作動条件
○ 車速が45km/hから約100km/hのとき ○ DSCが作動していないとき ○ 対向車が自車と同じ車線内を走行しているとき ○ 車線の両側の境界を検知しているとき ○ 車線内に、対向車を回避行動をとるためのスペースがないとき

作動時の表示/警告音
【作動時の表示】 対向車と衝突の可能性がある場合、警報音が鳴り続け、下記衝突警報が表示されます。 マルチインフォメーションディスプレイ  アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 

スマート・ブレーキ・サポート

[対向車衝突被害軽減機能] (SBS)

運転
支援機能

中/高速域

自車が同一車線上の対向車と衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで対向車と正面衝突した際の被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 衝突時の被害軽減を図る運転支援機能であり、機能には限界があります。
- 対象物、天候条件、道路状況などによっては対象物の検知に限界があり、システムが正常に作動しない場合があります。
- システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながる恐れがあります。

*本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

スマート・ブレーキ・サポート

[対向車衝突被害軽減機能] (SBS)

運転
支援機能

中/高速域

自車が同一車線上の対向車と衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで対向車と正面衝突した際の被害軽減を図ります。

以下のような場合にはシステムが正常に作動しないことがあります。

運転者の操作を優先する場合

- 意図的に運転操作（アクセルペダル操作、ハンドル操作、セレクトレバー操作、方向指示器操作など）をおこなっているとき。

車両・道路条件

- 対向車が二輪車や自転車のとき。
- 対向車が停止しているとき
- 対向車の速度が遅すぎる、または速すぎる時。
- 対向車と部分的な接触の可能性があるとき。
- 車線がカーブしているとき。
- 車線の幅が約3mから約3.6mの範囲外の時。
- 対向車衝突被害軽減機能の作動後、状況によっては衝突前にブレーキが解除されることがあります。

以下のような場合には衝突の可能性があるとして判断しシステムが作動することがあります

- 最終的に衝突しない場合でも、対向車が自車の正面に非常に接近すると、対向車衝突被害軽減機能が作動することがあります。

スマート・ブレーキ・サポート

[前進時左右接近物検知機能] (SBS-FC)

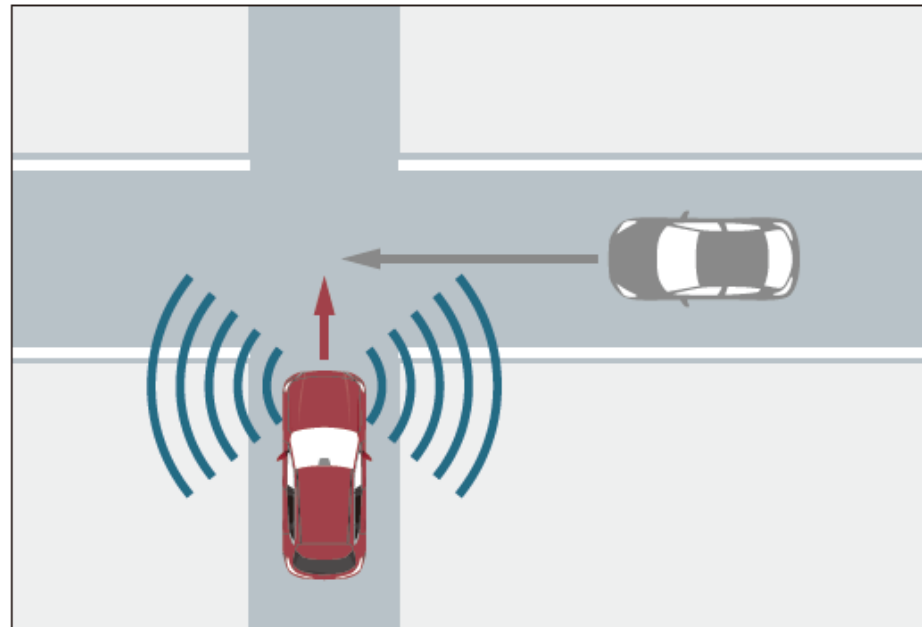
運転
支援機能

徐行時/
低速域

見通しの悪い道などでの出会い頭事故において、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突被害軽減を図ります。

機能の概要

- レーダーセンサー(フロントサイド)により、見通しの悪い道などで、前側方から接近してくる車両を検知します。。
- 衝突の可能性があると判断したとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させます。



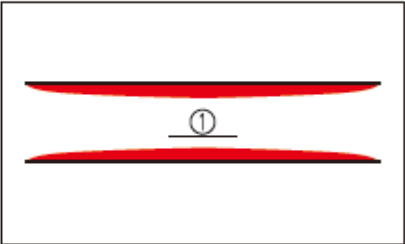
スマート・ブレーキ・サポート

[前進時左右接近物検知機能] (SBS-FC)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

見通しの悪い道などでの出会い頭事故において、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突被害軽減を図ります。

作動条件		
○ 自車が約5km/h～約20km/hで直進しているとき。 ○ 接近車両が約20km/h～約60km/hの範囲内で、一定速度で走行しているとき。 ○ 接近車両が自車と直交するよう直進しているとき。		
作動時の表示/警告音		
【作動時の表示】 接近車両と衝突の可能性がある場合、下記衝突警報が表示されます。 マルチインフォメーションディスプレイ  アクティブ・ドライビング・ディスプレイ  ※ ①に「ブレーキ!」と表示されます。 ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。		

スマート・ブレーキ・サポート

[前進時左右接近物検知機能] (SBS-FC)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

見通しの悪い道などでの出会い頭事故において、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 衝突時の被害軽減を図る運転支援機能であり、機能には限界があります。
- 対象物、天候条件、道路状況などによっては対象物の検知に限界があり、システムが正常に作動しない場合があります。
- システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

スマート・ブレーキ・サポート

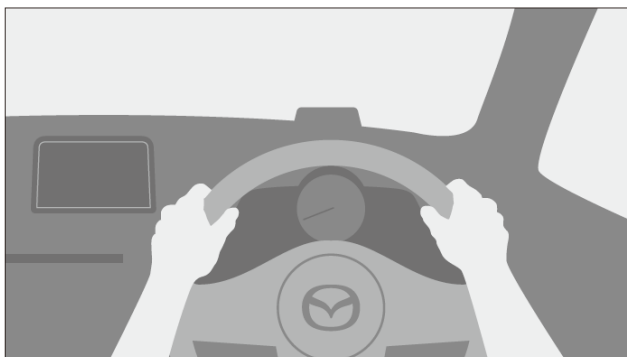
[前進時左右接近物検知機能] (SBS-FC)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

見通しの悪い道などでの出会い頭事故において、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



運転者の操作を優先する場合

- アクセルペダル操作またはブレーキペダル操作をしているとき。
- ハンドル操作をしているとき。
- 方向指示器を操作しているとき。

スマート・ブレーキ・サポート

[交差点事故回避アシスト機能] (SBS)

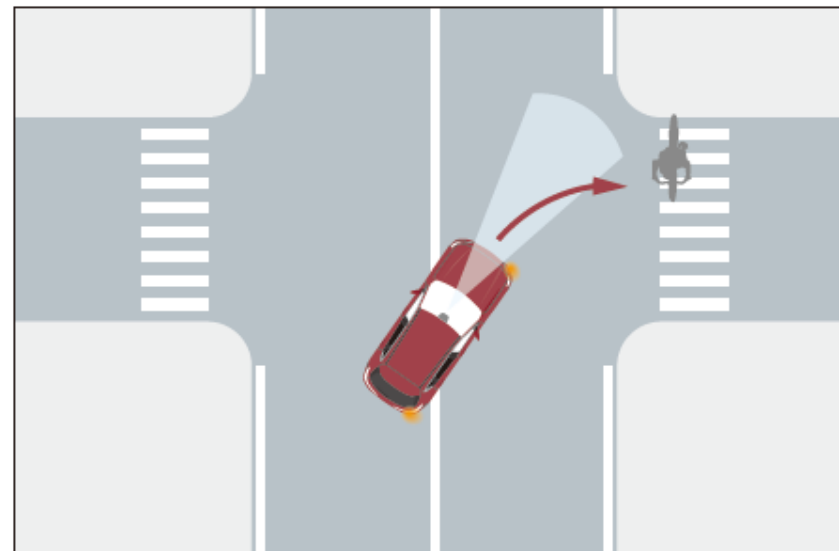
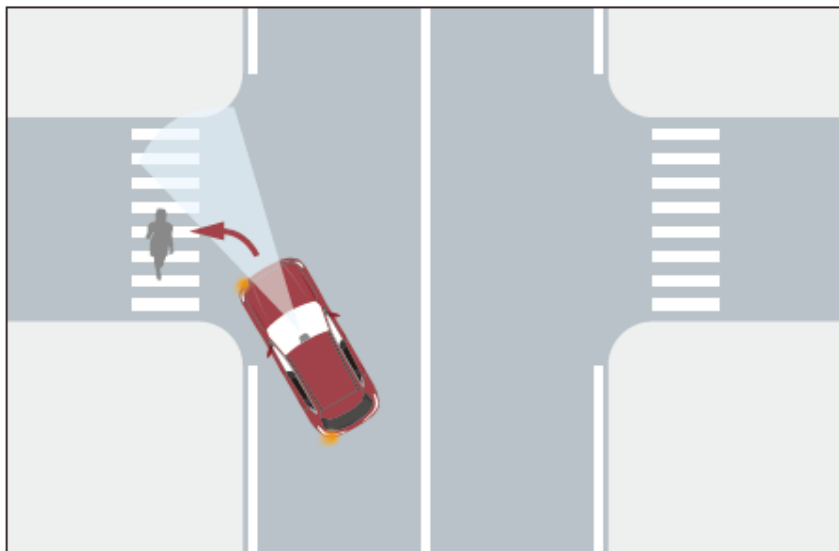
運転
支援機能

徐行時/
低速域

交差点右左折時に歩行者や自転車と衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ(FSC)で、歩行者や自転車を検知します。
- 衝突の可能性ありと判断したときにディスプレイや衝突警報音により、運転者に危険を知らせます。
- 衝突を回避できないと判断したときは、衝突被害軽減ブレーキを作動させます。



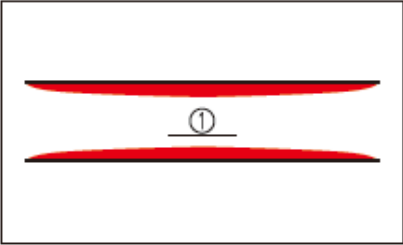
スマート・ブレーキ・サポート

[交差点事故回避アシスト機能] (SBS)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

交差点右左折時に歩行者や自転車と衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

作動条件	
○ 車速が約8km/h～約20km/hのとき。	
作動時の表示/警告音	
【作動時の表示】 歩行者や自転車と衝突の可能性がある場合、警報音が鳴り続け、下記衝突警報が表示されます。 マルチインフォメーションディスプレイ  アクティブ・ドライビング・ディスプレイ  ※ ①に「ブレーキ!」と表示されます。 ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。	

スマート・ブレーキ・サポート

[交差点事故回避アシスト機能] (SBS)

運転
支援機能

徐行時/
低速域

交差点右左折時に歩行者や自転車と衝突する可能性があるとき、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 衝突時の被害軽減を図る運転支援機能であり、機能には限界があります。
- 対象物、天候条件、道路状況などによっては対象物の検知に限界があり、システムが正常に作動しない場合があります。
- システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると思わぬ事故につながるおそれがあります。

＊本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

スマート・ブレーキ・サポート[後方検知機能](SBS-R)

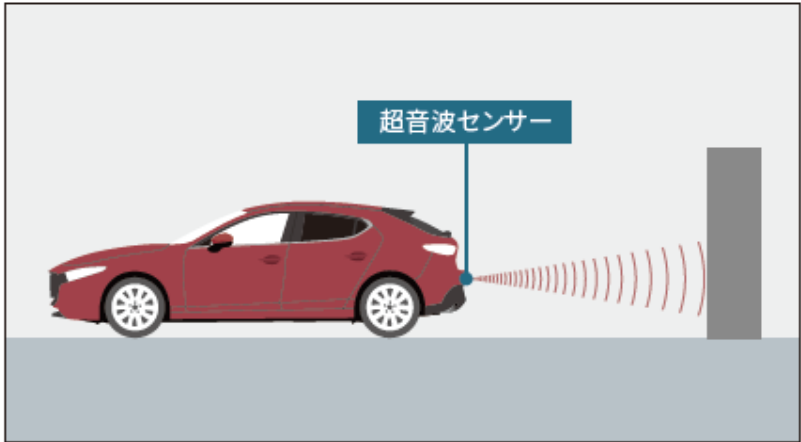
後ろにある障害物や歩行者を見落としてぶつかりそうになったときに、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

機能の概要

- 超音波センサー(リア/リアコーナー/リアサイド)とリアカメラにより、後退時に後方の障害物と歩行者を検知します(歩行者の検知機能は一部車種のみ)。※
- 衝突を回避できないと判断したときは、衝突被害軽減ブレーキを作動させます。

※一部車種は使用するカメラ、センサーが異なります。詳細は各車種の取扱説明書をご確認ください。

作動イメージ



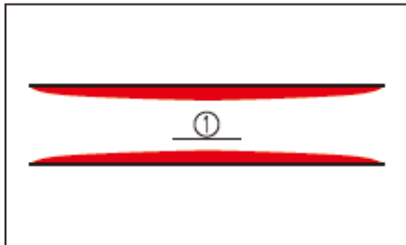
後退時は、超音波センサーが後方の障害物を検知しています



障害物に近づいても運転者がブレーキ操作を行わず、衝突を回避できないと判断したときは、衝突被害軽減ブレーキを作動させます。

スマート・ブレーキ・サポート[後方検知機能](SBS-R)

後ろにある障害物や歩行者を見落としてぶつかりそうになったときに、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

作動条件		
○ 車速が約2km/h～約8km/hのとき 【AT車】○ セレクトレバーをRの位置にしているとき。 【MT車】○ チェンジレバーをRの位置にしているとき。		
作動時の表示/警告音		
【作動時の表示】 衝突の可能性がある場合、警報音が鳴り続け、下記衝突警報が表示されます。		
マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ・ドライビング・ディスプレイ	
		※ ①に「ブレーキ!」と表示されます。 ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。

スマート・ブレーキ・サポート [後方検知機能] (SBS-R)

後ろにある障害物や歩行者を見落としてぶつかりそうになったときに、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

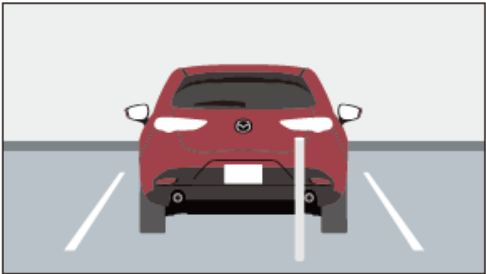
警告

○ 後退での出庫をサポートするシステムですが、作動には制約があります。必ず運転者が後方確認をしてください。

スマート・ブレーキ・サポート[後方検知機能](SBS-R)

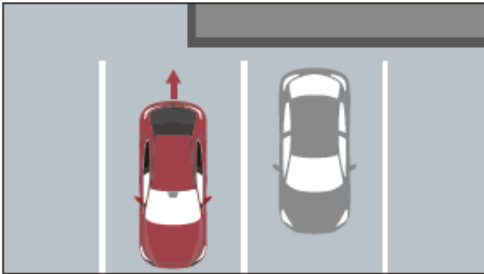
後ろにある障害物や歩行者を見落としてぶつかりそうになったときに、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



障害物の形状上検知できない場合

- 標識のポールなど、障害物が細いとき。
- 車両や壁のように、障害物が大きくないとき。
- 障害物が凹凸のある形状をしているとき。
- 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき。



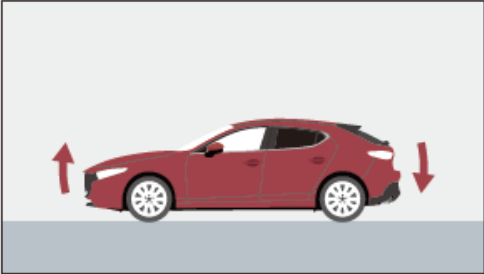
障害物の位置の関係で検知できない場合

- 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき。
- 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき。
- 障害物が極端に近いとき。



天候条件

- 雨、雪、霧など天候が悪いとき。
- 温度が低いとき、高いとき。
- 湿度が低いとき、高いとき。
- 風が強いとき。



車両の傾きがある場合、障害物を正しく認識しません。

- 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき。

その他

道路条件

- 走行路が平坦でないとき。
- カーブ、坂道のとき。

対象の車両の形状など

- 荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき。
- 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき。
- キャリアカーなど、特殊な形状の車両。

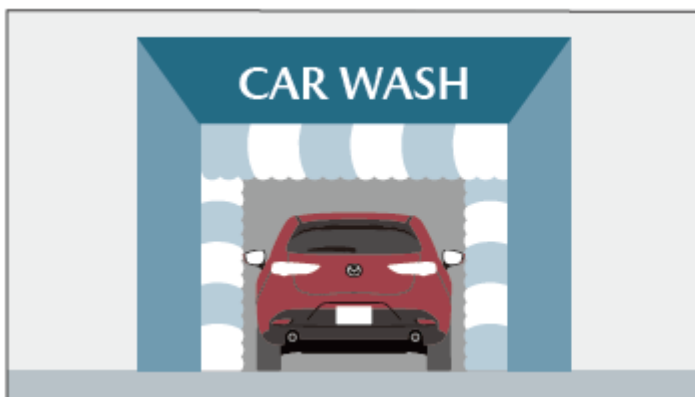
その他の要因

- 超音波センサー付近に、無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき。
- 他車のホーン、エンジン音、超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき。

スマート・ブレーキ・サポート[後方検知機能](SBS-R)

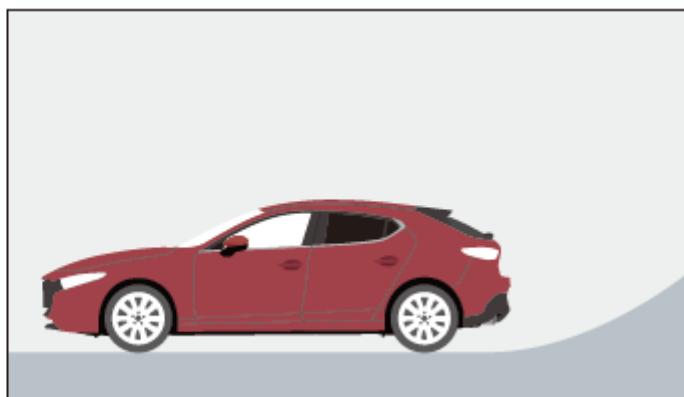
後ろにある障害物や歩行者を見落としてぶつかりそうになったときに、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合には衝突の可能性があると判断し、システムが作動することがあります。



道路条件①

- 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき。
(センサーがゲート等を障害物と認識する場合があります。)



道路条件②

- 急な登坂路があるとき。
(センサーが道路を障害物と認識することがあります。)
- 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行しているとき。
(センサーの照射範囲に入った場合、障害物と認識することがあります。)
- 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき。

スマート・ブレーキ・サポート

[後進時左右接近物検知機能] (SBS-RC)

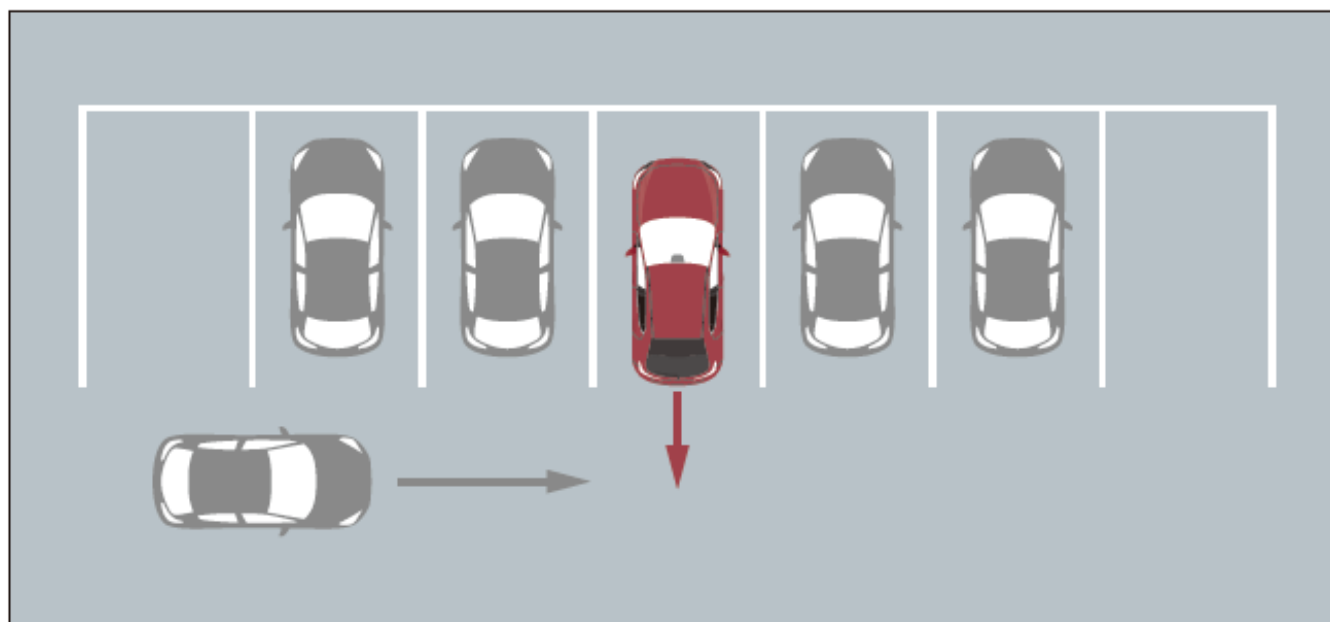
運転
支援機能

後退時

後側方から接近してきた車両を検知し、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで、衝突被害軽減を図ります。

機能の概要

- レーダーセンサー(リアサイド)により、後退中に後側方から接近してくる車両を検知します。
- 駐車場から後退する際に後側方から接近してくる車両に対して、衝突する可能性があると判断したときに、衝突被害軽減ブレーキを作動させます。

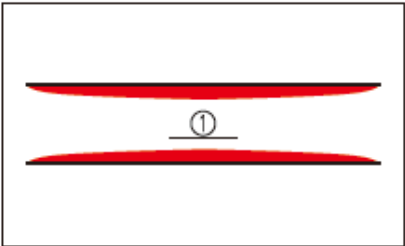


スマート・ブレーキ・サポート [後進時左右接近物検知機能] (SBS-RC)

運転
支援機能

後退時

後側方から接近してきた車両を検知し、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで、衝突被害軽減を図ります。

作動条件	
○車速が約10km/h以下のとき(一部車種は約15km/h以下のとき)。 【AT車】○セレクトレバーをRの位置にしているとき。 【MT車】○チェンジレバーをRの位置にしているとき。	
作動時の表示/警告音	
【作動時の表示】 衝突の可能性がある場合、警報音が鳴り続け、下記衝突警報が表示されます。 マルチインフォメーションディスプレイ  アクティブ・ドライビング・ディスプレイ  ※ ①に「ブレーキ!」と表示されます。 ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。	

スマート・ブレーキ・サポート

[後進時左右接近物検知機能] (SBS-RC)

運転
支援機能

後退時

後側方から接近してきた車両を検知し、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで、衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 後退での出庫をサポートするシステムですが、作動には制約があります。必ず運転者が後方確認をしてください。
- システムの作動対象は、壁、歩行者、二輪車や動物などに対しては作動しません。

スマート・ブレーキ・サポート

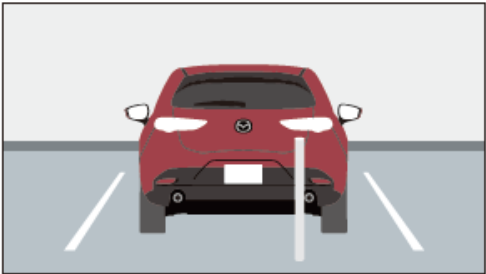
[後進時左右接近物検知機能] (SBS-RC)

運転
支援機能

後退時

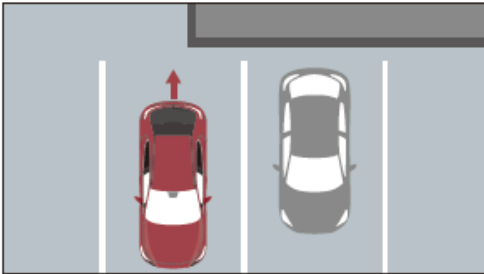
後側方から接近してきた車両を検知し、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで、衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



障害物の形状上検知できない場合

- 標識のポールなど、障害物が細いとき。
- 車両や壁のように、障害物が大きくないとき。
- 障害物が凹凸のある形状をしているとき。
- 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき。



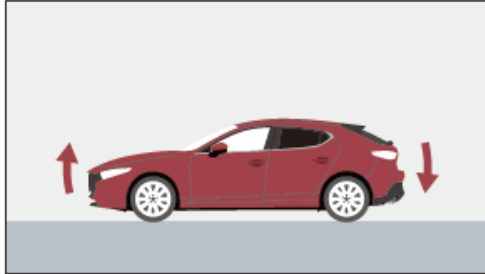
障害物の位置の関係で検知できない場合

- 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき。
- 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき。
- 障害物が極端に近いとき。



天候条件

- 雨、雪、霧など天候が悪いとき。
- 温度が低いとき、高いとき。
- 湿度が低いとき、高いとき。
- 風が強いとき。



車両の傾きがある場合、障害物を正しく認識しません。

- 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき。

その
他

道路条件

- 走行路が平坦でないとき。
- カーブ、坂道のとき。

対象の車両の形状など

- 荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき。
- 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき。
- キャリアカーなど、特殊な形状の車両。

スマート・ブレーキ・サポート

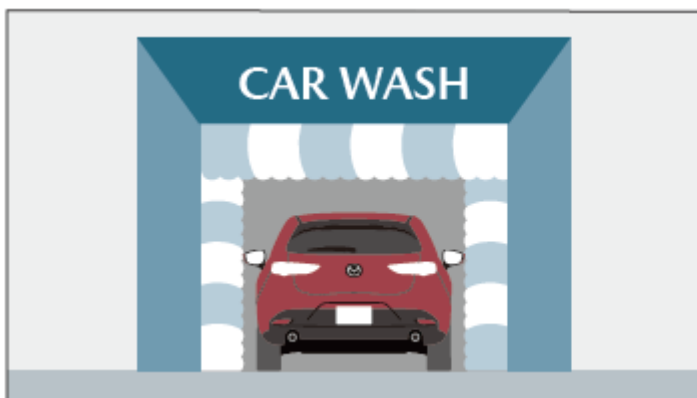
[後進時左右接近物検知機能] (SBS-RC)

運転
支援機能

後退時

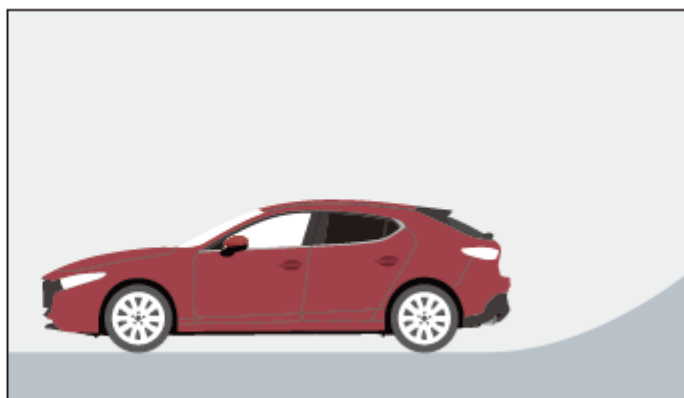
後側方から接近してきた車両を検知し、衝突被害軽減ブレーキを作動させることで、衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合には衝突の可能性があると判断し、システムが作動することがあります。



道路条件①

- 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき。
(センサーがゲート等を障害物と認識する場合があります。)



道路条件②

- 急な登坂路があるとき。
(センサーが道路を障害物と認識することがあります。)
- 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行しているとき。
(センサーの照射範囲に入った場合、障害物と認識することがあります。)
- 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき。

アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)

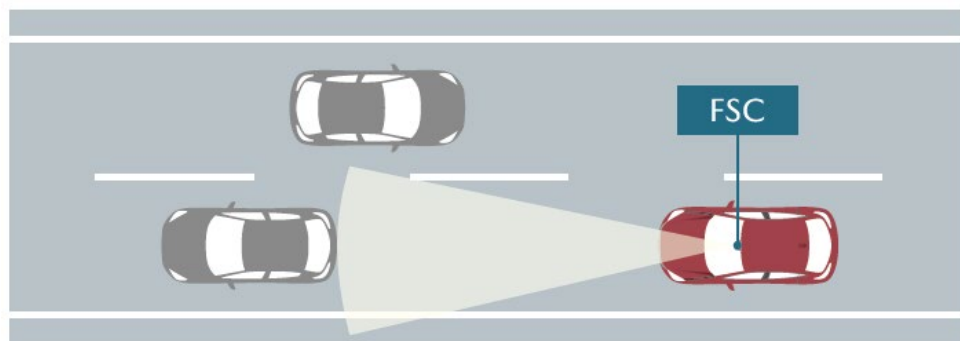
運転
支援機能

低/中速域

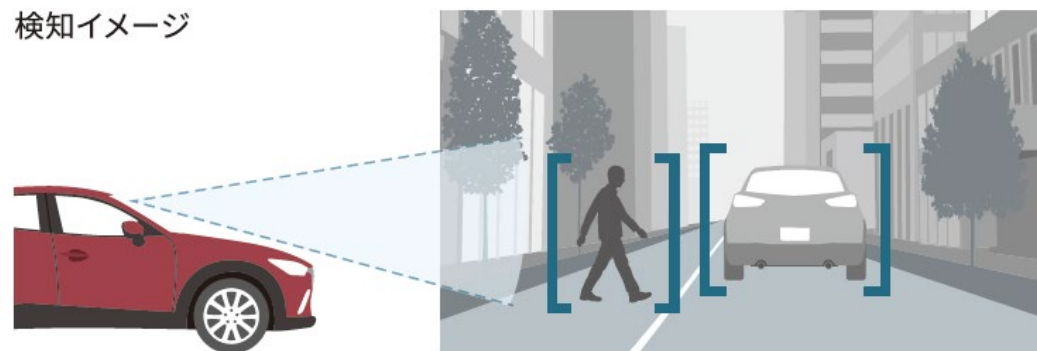
前方車や歩行者にぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ (FSC) で、前方の車両や歩行者を検知します。
- 衝突の可能性ありと判断したときにディスプレイや衝突警報音により、運転者に危険を知らせます。
- 衝突を回避できないと判断したときは、ブレーキ制御 (SCBSブレーキ) を行います。
- 運転者がブレーキを踏んだときは、素早く確実にかかるよう補助します。(ブレーキアシスト(アドバンストSCBSブレーキアシスト))
- 一部の車種には夜間の歩行者を検知できる機能がついています。



検知イメージ



アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)

運転
支援機能

低/中速域

前方車や歩行者にぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

作動条件							
【対象が前方車の場合】 ○ 車速が約4km/h～約80km/hのとき。							
【対象が歩行者の場合】 ○ 車速が約10km/h～約80km/hのとき。							
作動時の表示/警告音							
【作動時の表示】 前方車や障害物と衝突する可能性がある場合、衝突警報音が「ピピピピピ・・・」と鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。							
	<table><tr><td></td><td>衝突警報 【アクティブ・ドライビング・ディスプレイ】</td></tr><tr><td></td><td>SCBS表示灯 (赤) メーター内表示灯 (アドバンストSCBS) 作動中に表示灯 (赤) が点滅します。</td></tr><tr><td></td><td>衝突警報 【マルチインフォメーションディスプレイ】</td></tr></table>		衝突警報 【アクティブ・ドライビング・ディスプレイ】		SCBS表示灯 (赤) メーター内表示灯 (アドバンストSCBS) 作動中に表示灯 (赤) が点滅します。		衝突警報 【マルチインフォメーションディスプレイ】
	衝突警報 【アクティブ・ドライビング・ディスプレイ】						
	SCBS表示灯 (赤) メーター内表示灯 (アドバンストSCBS) 作動中に表示灯 (赤) が点滅します。						
	衝突警報 【マルチインフォメーションディスプレイ】						

※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。詳しくは取扱説明書をご確認ください。

アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)

運転
支援機能

低/中速域

前方車や歩行者にぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

○ システムの作動対象は、前方車 (4輪車両) および歩行者です。2輪車や動物、壁に対しては作動しません。

＊本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項 (p20～26) を併せてご確認ください。

アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)

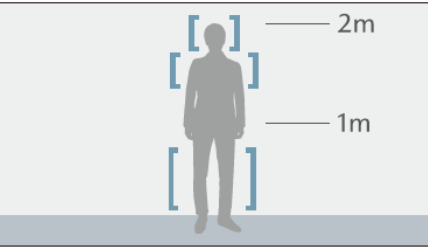
運転
支援機能

低/中速域

前方車や歩行者にぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

歩行者を認識できる場合と認識できない場合があります。

歩行者を認識できる場合



- 歩行者の身長が約1～2mのとき。
- 複数人で歩いているとき
- 頭部、両肩、脚などの輪郭が判別できるとき。

歩行者を認識できない場合



- 背景と同化した服を着用しているとき



- 歩行者が傘をさしている、大きな荷物を持っているなど、何かを持っているとき

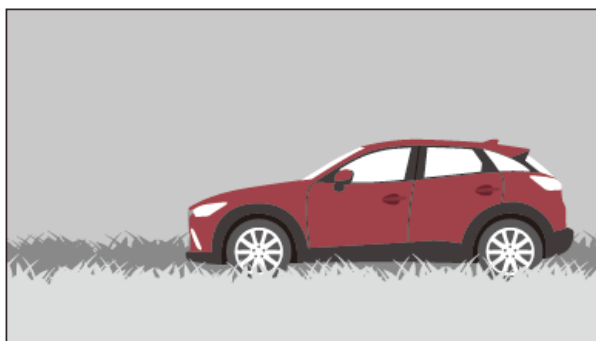
アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)

運転
支援機能

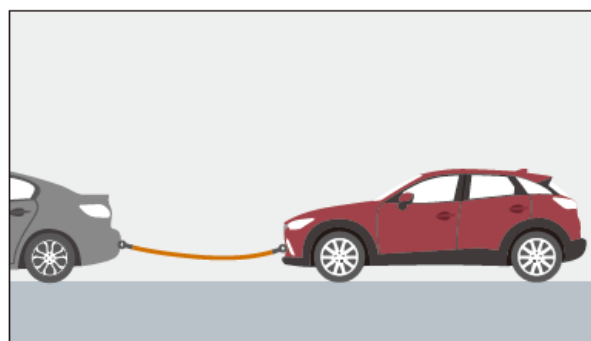
低/中速域

前方車や歩行者にぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

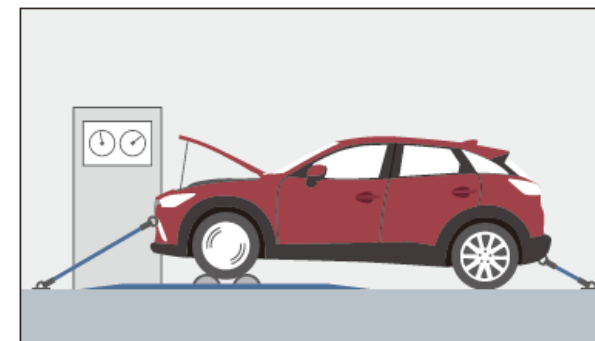
以下のような場合には誤って作動しないように、システムを停止してください。



○ 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき。



○ けん引されるとき、または他の車両をけん引するとき。



○ 整備や出力測定などでシャシーローラ(シャシーダイナモ)を使用するとき。

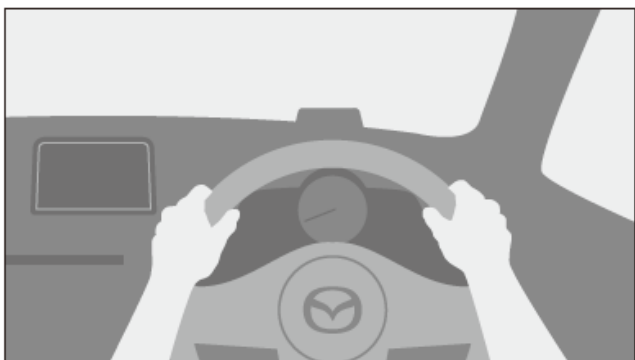
アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)

運転
支援機能

低/中速域

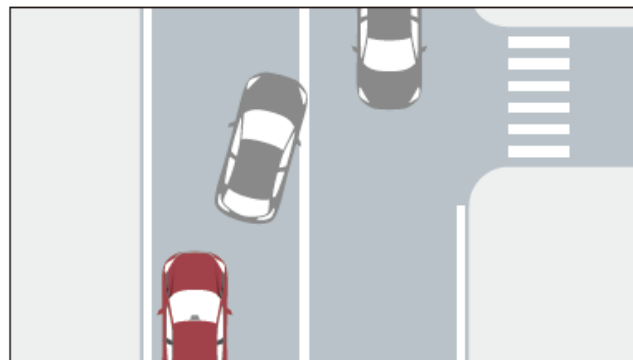
前方車や歩行者にぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合には、システムが作動しないことがあります。



運転者の操作を優先する場合

- 運転者が意図的に運転操作
(アクセル操作、ハンドル操作)を行なったとき。
→回避操作とみなし、システムは作動しません。
- ブレーキペダルを踏んでいるとき。
- セレクトレバーを操作しているとき。



- 前方車と部分的な接触の可能性があるとき。
(前方車が自車の正面にないとき。)
- 前方車が同程度の速度で走行しているとき。

アドバンスト・スマート・シティ・ブレーキ・サポート (アドバンストSCBS)

運転
支援機能

低/中速域

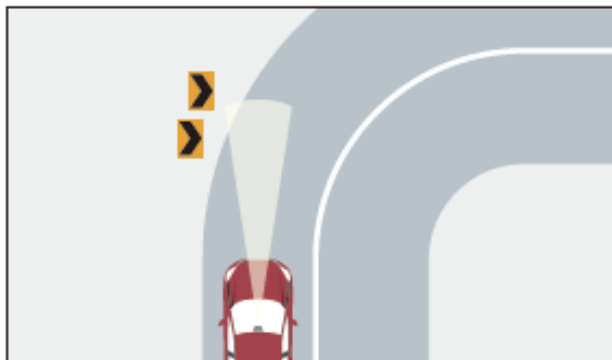
前方車や歩行者にぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御することで衝突回避のサポート、または衝突被害軽減を図ります。

以下のような場合には衝突の可能性があると判断し、システムが作動することがあります。



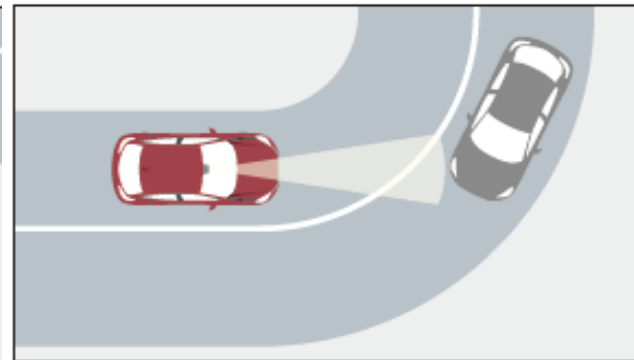
道路条件①

- ETCゲートを通過するとき。
(ETCバーを障害物と認識する場合があります。)
- 低いゲート、狭いゲートを通過するとき。



道路条件②

- カーブで対向車両とすれ違うとき。
- カーブ入り口路側物があるとき。
(カメラが対向車、路側物を検知し、
衝突の可能性があると判断することがあります。)

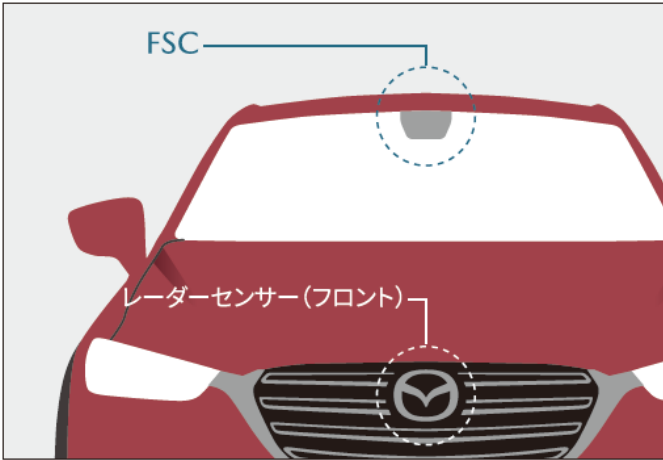
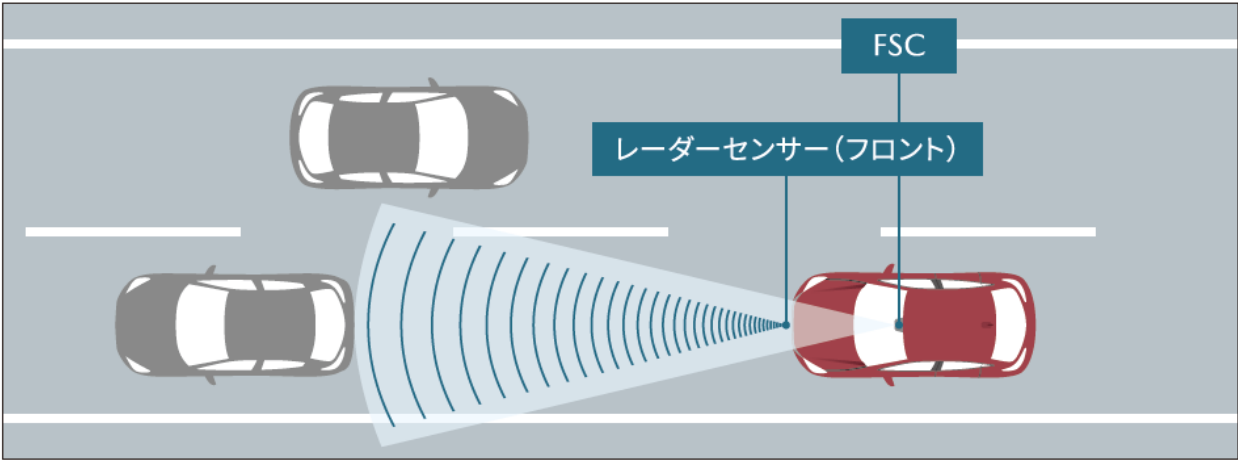


スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

約15km/h以上の中/高速走行時に前方車を検知し、警告やブレーキを制御することで、衝突時の被害軽減や衝突の回避をサポートします。

機能の概要

- レーダーセンサー (フロント) およびフォワードセンシングカメラ (FSC)が前方車に衝突する可能性があると判断したときに、警告表示および警報音により運転者に対して衝突の危険性を知らせます。
- さらに衝突を回避できない、と判断したときはブレーキを制御することで、衝突時の被害を軽減します。
- 運転者がブレーキを踏んだときは、素早く確実にかかるよう補助します。



スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

約15km/h以上の中/高速走行時に前方車を検知し、警告やブレーキを制御することで、衝突時の被害軽減や衝突の回避をサポートします。

作動条件							
○ 車速が約15km/h～のとき。							
作動時の表示/警告音							
【作動時の表示】 前方車や障害物と衝突する可能性がある場合、衝突警報音が「ピピピピピ・・・」と鳴り続け、マルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報が表示されます。							
	<table><tr><td></td><td>衝突警報 【アクティブ・ドライビング・ディスプレイ】</td></tr><tr><td></td><td>SBS表示灯 (赤) メーター内表示灯 SBS作動中に表示灯 (赤) が点滅します。</td></tr><tr><td></td><td>衝突警報 【マルチインフォメーションディスプレイ】</td></tr></table>		衝突警報 【アクティブ・ドライビング・ディスプレイ】		SBS表示灯 (赤) メーター内表示灯 SBS作動中に表示灯 (赤) が点滅します。		衝突警報 【マルチインフォメーションディスプレイ】
	衝突警報 【アクティブ・ドライビング・ディスプレイ】						
	SBS表示灯 (赤) メーター内表示灯 SBS作動中に表示灯 (赤) が点滅します。						
	衝突警報 【マルチインフォメーションディスプレイ】						
※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。							

スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

約15km/h以上の中/高速走行時に前方車を検知し、警告やブレーキを制御することで、衝突時の被害軽減や衝突の回避をサポートします。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

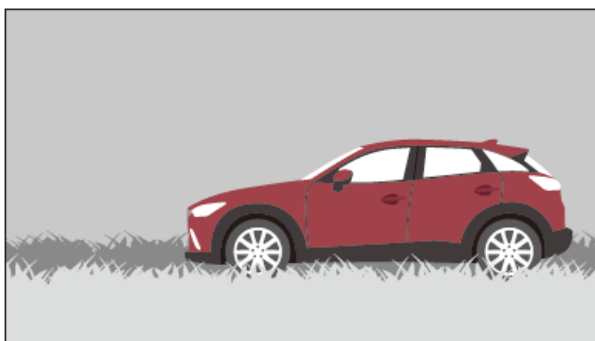
- システムの作動対象は、前方車 (4輪車両) および歩行者です。2輪車や動物、壁に対しては作動しません。
- SBSを作動しないようにすると、アドバンスドSCBSも作動しなくなります。

＊本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項 (p20～26) を併せてご確認ください。

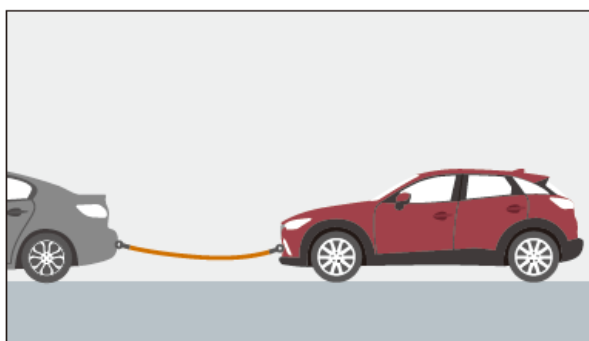
スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

約15km/h以上の中/高速走行時に前方車を検知し、警告やブレーキを制御することで、衝突時の被害軽減や衝突の回避をサポートします。

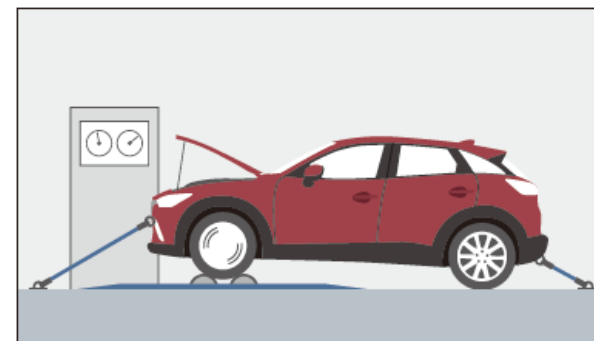
以下のような場合には誤って作動しないように、システムを停止してください。



- 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき。



- けん引されるとき、または他の車両をけん引するとき。

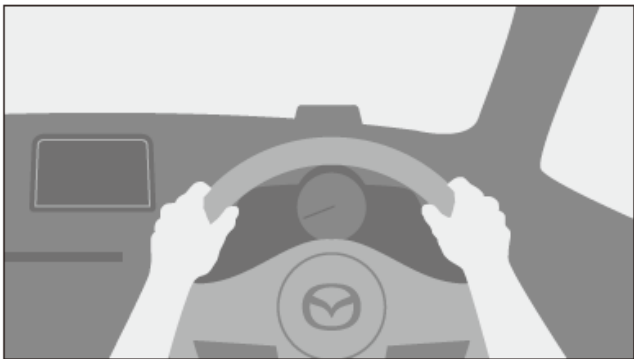


- 整備や出力測定などでシャシーローラ (シャシーダイナモ)を使用するとき。

スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

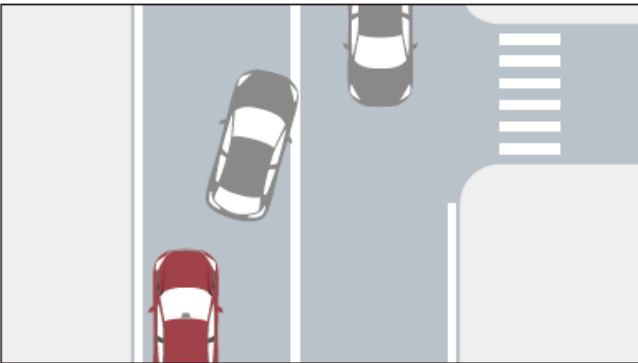
約15km/h以上の中/高速走行時に前方車を検知し、警告やブレーキを制御することで、衝突時の被害軽減や衝突の回避をサポートします。

以下のような場合には、システムが作動しないことがあります。

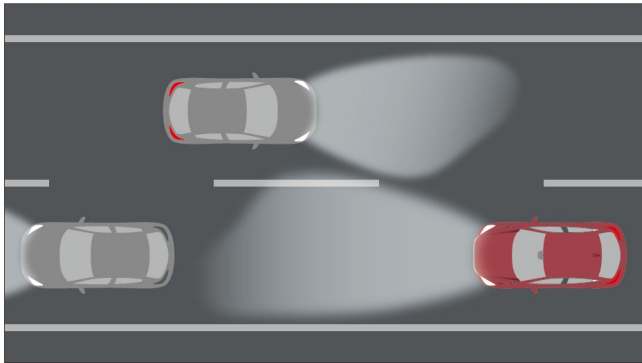


運転者の操作を優先する場合

- ハンドルを操作しているとき。
- 急なアクセルペダル操作をしているとき。
- ブレーキペダルを踏んでいるとき。
- セレクトレバーを操作しているとき。
- 方向指示器を操作しているとき。



- 前方車と部分的な接触の可能性があるとき。
(前方車が自車の正面にないとき。)
- 前方車が同程度の速度で走行しているとき。



- 前方車のテールランプ (尾灯/制動灯など) が消灯しているとき。
- 前方車のテールランプ (尾灯/制動灯など) が装備されていないとき。

スマート・ブレーキ・サポート (SBS)

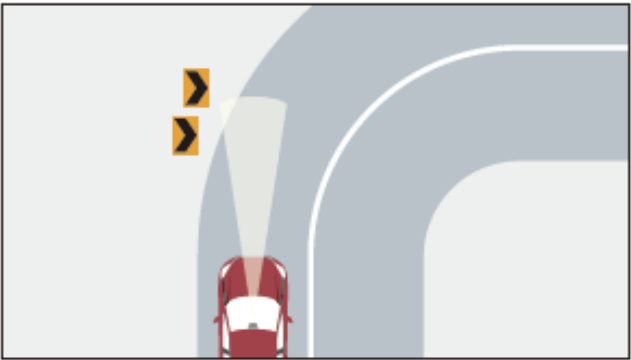
約15km/h以上の中/高速走行時に前方車を検知し、警告やブレーキを制御することで、衝突時の被害軽減や衝突の回避をサポートします。

以下のような場合には衝突の可能性がある判断し、システムが作動することがあります。



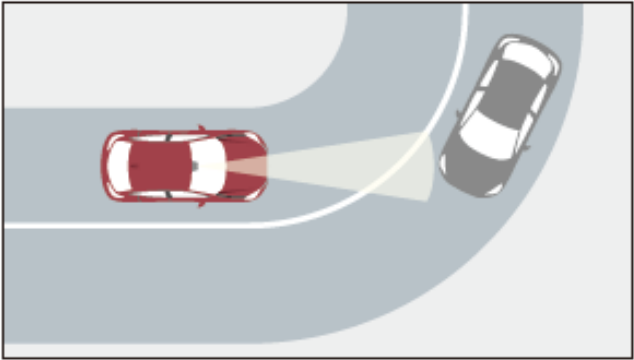
道路条件①

- ETCゲートを通過するとき。
(ETCバーを障害物と認識する場合があります。)
- 低いゲート、狭いゲートを通過するとき。



道路条件②

- カーブで対向車両とすれ違うとき。
- カーブ入り口路側物があるとき。
(カメラが対向車、路側物を検知し、衝突の可能性がある判断することがあります。)



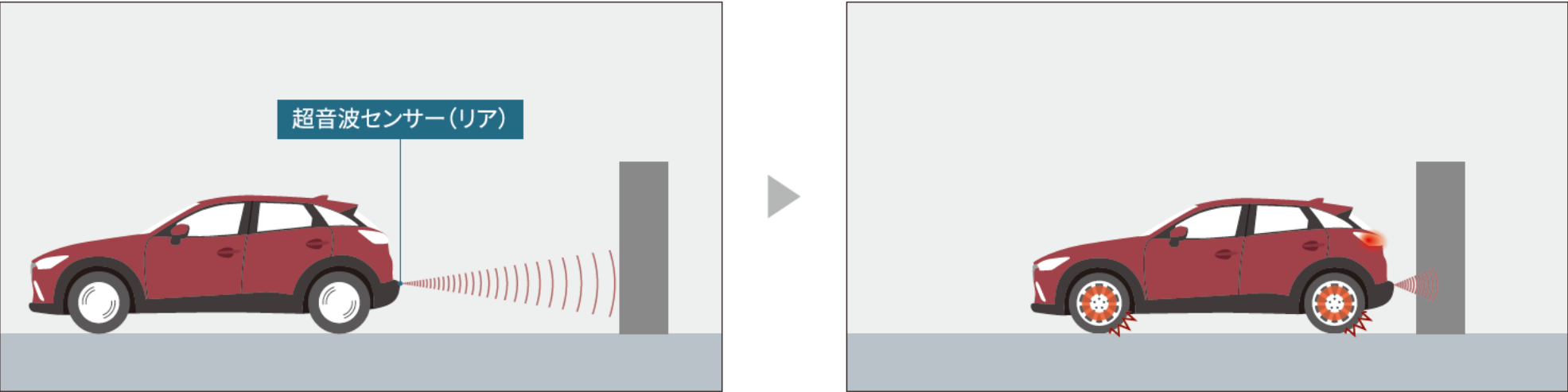
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)

後ろにある障害物を見落としてぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御し、衝突の被害を軽減します。

機能の概要

- リアバンパーに装着された超音波センサー(リア)で、後方の障害物を検知します。
- 障害物に近づいても運転者がブレーキ操作を行わず、衝突回避が不可能と判断すると、ブレーキ制御 (SCBSブレーキ)を行います。

作動イメージ



スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)

後ろにある障害物を見落としてぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御し、衝突の被害を軽減します。

作動条件	
○ 車速が約2km/h～約8km/hのとき。	

作動時の表示/警告音	
【作動時の表示】 ○ SCBSブレーキ作動中は、衝突警報音 (ピピピピピ・・・)が断続的に鳴ります。 ○ SCBSブレーキの作動により車両が停止した場合、ブレーキペダルを踏まないと約2秒後にチャイム(ピー)が鳴り、SCBSブレーキが自動的に解除されます。	
	被害軽減ブレーキ作動表示 【アクティブ・ドライビング・ディスプレイ】 SCBSブレーキ作動後に、 アクティブ・ドライビング・ディスプレイに 「緊急自動ブレーキ作動しました」と表示されます。 SCBS 自動ブレーキ作動 SCBSブレーキ作動後に、 マルチインフォメーションディスプレイに 「SCBS自動ブレーキ作動」と表示されます。

※ 警告灯の表示、表示場所は
車種によって異なります。
詳しくは取扱説明書をご確認ください。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)

後ろにある障害物を見落としてぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御し、衝突の被害を軽減します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

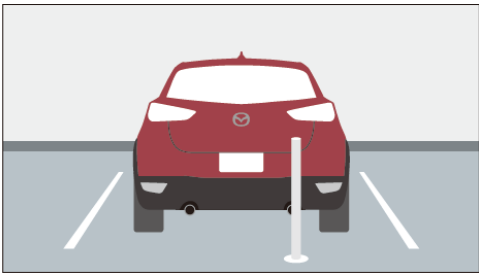
- 超音波センサー (リア)にステッカーなどを貼り付けないでください。センサーが機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 超音波センサー (リア)に強い水圧を与えたり、こすったりしないでください。

＊本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項 (p20～26) を併せてご確認ください。

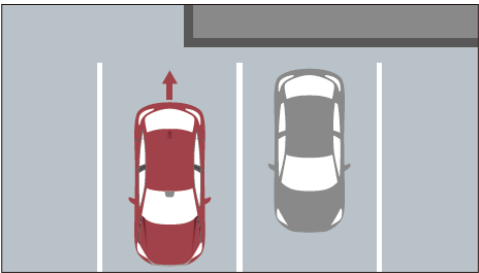
スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)

後ろにある障害物を見落としてぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御し、衝突の被害を軽減します。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



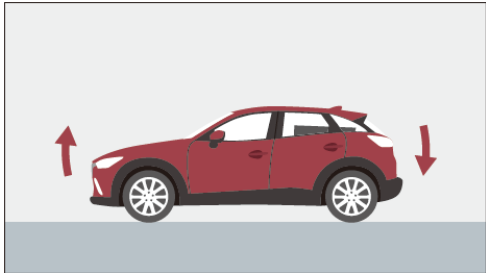
- 障害物の形状上検知できない場合**
- 標識のポールなど、障害物が細いとき。
 - 車両や壁のように、障害物が大きくないとき。
 - 障害物が凹凸のある形状をしているとき。
 - 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき。



- 障害物の位置の関係で検知できない場合**
- 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき。
 - 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき。
 - 障害物が極端に近いとき。



- 天候条件**
- 雨、雪、霧など天候が悪いとき。
 - 温度が低いとき、高いとき。
 - 湿度が低いとき、高いとき。
 - 風が強いとき。



- 車両の傾きがある場合、障害物を正しく認識しません。**
- 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき。

その他

- 道路条件**
- 走行路が平坦でないとき。
 - カーブ、坂道のとき。

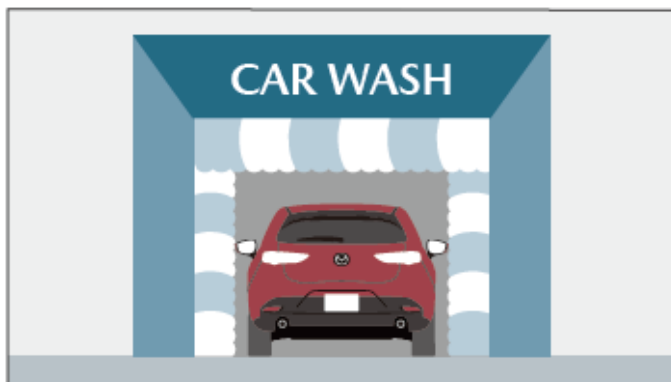
- 対象の車両の形状など**
- 荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき。
 - 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき。
 - キャリアカーなど、特殊な形状の車両。

- その他の要因**
- 超音波センサー付近に、無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき。
 - 他車のホーン、エンジン音、超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき。

スマート・シティ・ブレーキ・サポート [後退時] (SCBS R)

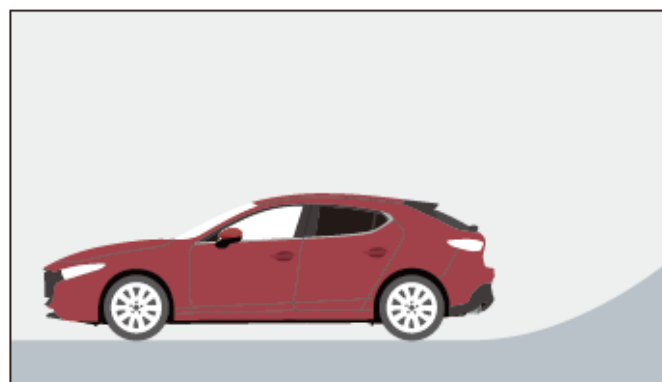
後ろにある障害物を見落としてぶつかりそうになったときに、ブレーキを制御し、衝突の被害を軽減します。

以下のような場合には衝突の可能性がある判断し、システムが作動することがあります。



道路条件①

- 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき。
(センサーがゲート等を障害物と認識する場合があります。)



道路条件②

- 急な登坂路があるとき。
(センサーが道路を障害物と認識することがあります。)
- 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに接近して走行しているとき。
(センサーの照射範囲に入った場合、障害物と認識することがあります。)
- 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき。

AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]

運転
支援機能

停止/
徐行時

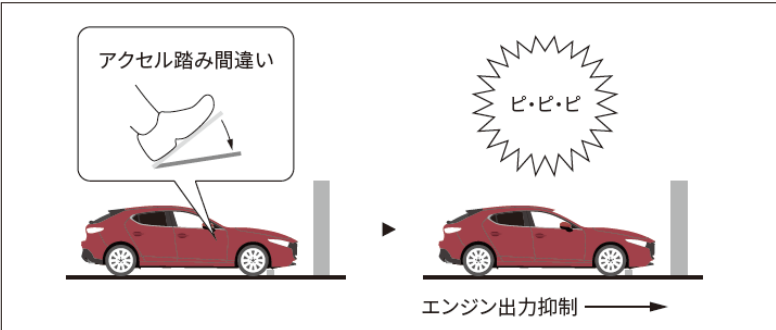
ペダルの踏み間違いなどで、障害物や歩行者がいるにも関わらずアクセルを強く踏み込んだときに、誤発進・急加速の抑制を図ります。

機能の概要

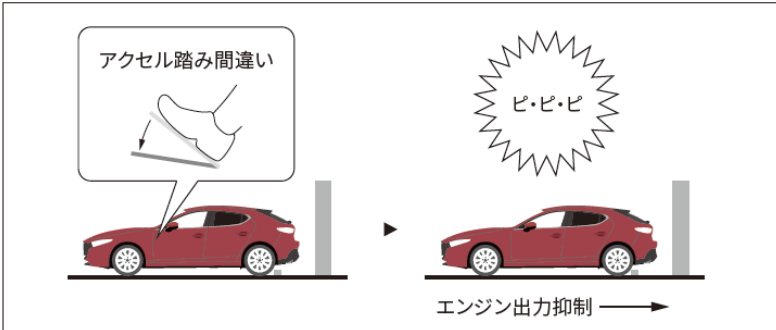
- 前進時はフォワードセンシングカメラ(FSC)と超音波センサー(フロント)により、後退時は超音波センサー(リア/リアコーナー/リアサイド)とリアカメラにより、歩行者や車・壁などの障害物を検知します(歩行者の検知機能は一部車種のみ)。
※一部車種は使用するカメラ、センサーが異なります。詳細は各車種の取扱説明書をご確認ください。
- 障害物を検知しているにも関わらず、必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたときに、アクセルペダルを踏み間違えたと判断し、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害軽減を図ります。
- 徐行中、停車時に前方/後方に壁や車などの障害物があるにも関わらず必要以上にアクセルが踏まれた場合、エンジン出力を抑制することで、衝突時の被害軽減を図ります。(駐車場の輪止めを越えない程度のエンジン出力に抑制します。)

一部車種では前進時については、さらに衝突を回避できないと判断したときに、AT誤発進抑制制御による衝突被害軽減ブレーキを作動させることで衝突時の被害軽減を図ります。

前進時作動イメージ



後退時作動イメージ



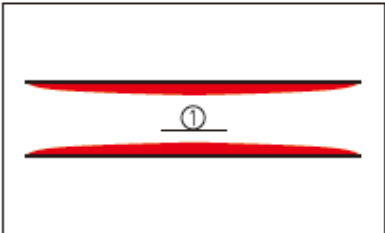
AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]

運転
支援機能

停止/
徐行時

ペダルの踏み間違いなどで、障害物や歩行者がいるにも関わらずアクセルを強く踏み込んだときに、誤発進・急加速の抑制を図ります。

作動条件	
【前進時】	
・対象が歩行者または前方車の場合：	○ Aタイプ：車速が約50km/h以下、方向指示灯を点けていないとき。
	○ Bタイプ：車速が約15km/h以下のとき。
	○ Cタイプ：車速が約10km/h以下のとき。
・対象がその他障害物の場合	：○ A/Bタイプ：車速が約15km/h以下のとき。
	○ Cタイプ：車速が約10km/h以下のとき。
【後退時】	
○ Aタイプ：車速が約15km/h以下のとき。	○ B/Cタイプ：車速が約10km/h以下のとき。

作動時の表示/警告音	
【作動時の表示】	
AT誤発進抑制制御が作動中は、警報音が鳴るのに加え、下記衝突警報が表示されます。	
マルチインフォメーションディスプレイ	アクティブ・ドライビング・ディスプレイ
	
※ ①に「ブレーキ!」と表示されます。 ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。	

AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]

運転
支援機能

停止/
徐行時

ペダルの踏み間違いなどで、障害物や歩行者がいるにも関わらずアクセルを強く踏み込んだときに、誤発進・急加速の抑制を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 停車状態を保ったり、発進を緩やかにするものではありません。
- 障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。
- このシステムはペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。
（事故被害の軽減を図るものであり、回避するものではありません。）
- 踏切内に閉じ込められた場合、遮断機を障害物と判断し、AT誤発進抑制制御が作動することがあります。遮断機を押しつけて進む場合、あわてずにアクセルを踏み続けるまたは、踏み直して脱出してください。脱出の場合、車両が急加速することがありますので、注意して運転してください。

＊ AT誤発進抑制制御[前進時]はFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

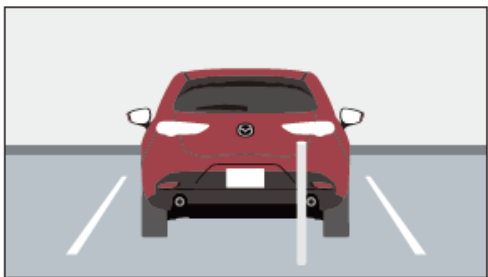
AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]

運転
支援機能

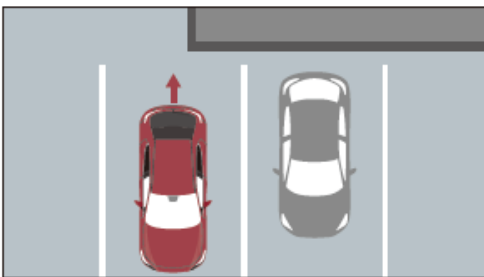
停止/
徐行時

ペダルの踏み間違いなどで、障害物や歩行者がいるにも関わらずアクセルを強く踏み込んだときに、誤発進・急加速の抑制を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



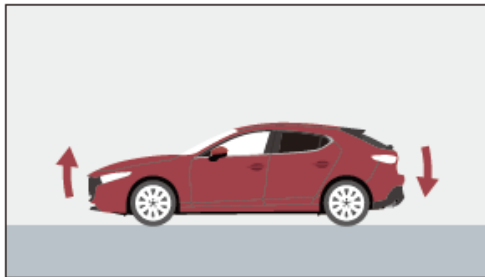
障害物の形状上検知できない場合
○ 標識のポールなど、障害物が細いとき。
○ 車両や壁のように、障害物が大きくないとき。
○ 障害物が凹凸のある形状をしているとき。
○ 垂れ幕や、雪が付着した車両など、障害物がやわらかいとき。



障害物の位置の関係で検知できない場合
○ 障害物が自車の中心から外れた位置にあるとき。
○ 障害物の面が自車に対して垂直に向いていないとき。
○ 障害物が極端に近いとき。



天候条件
○ 雨、雪、霧など天候が悪いとき。
○ 温度が低いとき、高いとき。
○ 湿度が低いとき、高いとき。
○ 風が強いとき。



車両の傾きがある場合、障害物を正しく認識しません。
○ 荷室やリアシートへ重い荷物をのせたとき。

その他

道路条件
○ 走行路が平坦でないとき。
○ カーブ、坂道のとき。

対象の車両の形状など
○ 荷台の低いトラックなど、障害物の高さが低いとき。
○ 荷台の高いトラックなど、障害物の高さが高いとき。
○ キャリアカーなど、特殊な形状の車両。

その他の要因
○ 超音波センサー付近に、無線アンテナ、フォグランプ、字光式ナンバープレートなどを取り付けたとき。
○ 他車のホーン、エンジン音、超音波センサーなど、他の音波の影響を受けたとき。

AT誤発進抑制制御[前進時/後退時]

運転
支援機能

停止/
徐行時

ペダルの踏み間違いなどで、障害物や歩行者がいるにも関わらずアクセルを強く踏み込んだときに、誤発進・急加速の抑制を図ります。

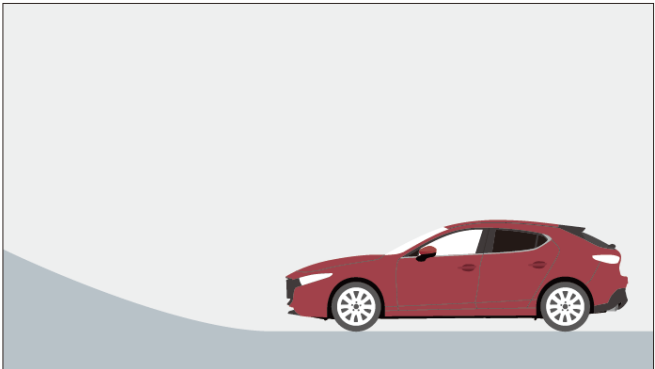
以下のような場合には衝突の可能性がある判断し、システムが作動することがあります。

言口



道路条件①

- ETCゲートや踏切、垂れ幕などを通行するとき。
- 低いゲート、狭いゲート、洗車機、トンネルなどを通行するとき。
- 輪留めがあるとき。
(カメラ/センサーが、ゲートや輪留めを障害物として 認識する場合があります。)



道路条件②

- 急な登坂路があるとき。
(センサーが、道路を障害物として認識する場合があります。)
- 道路沿いの草木、垣根、車両、壁、フェンスなどに 接近して走行しているとき。
- 草の生い茂った場所や、オフロードなど悪路を走行するとき。
(カメラ/センサーの照射範囲に入った場合。)

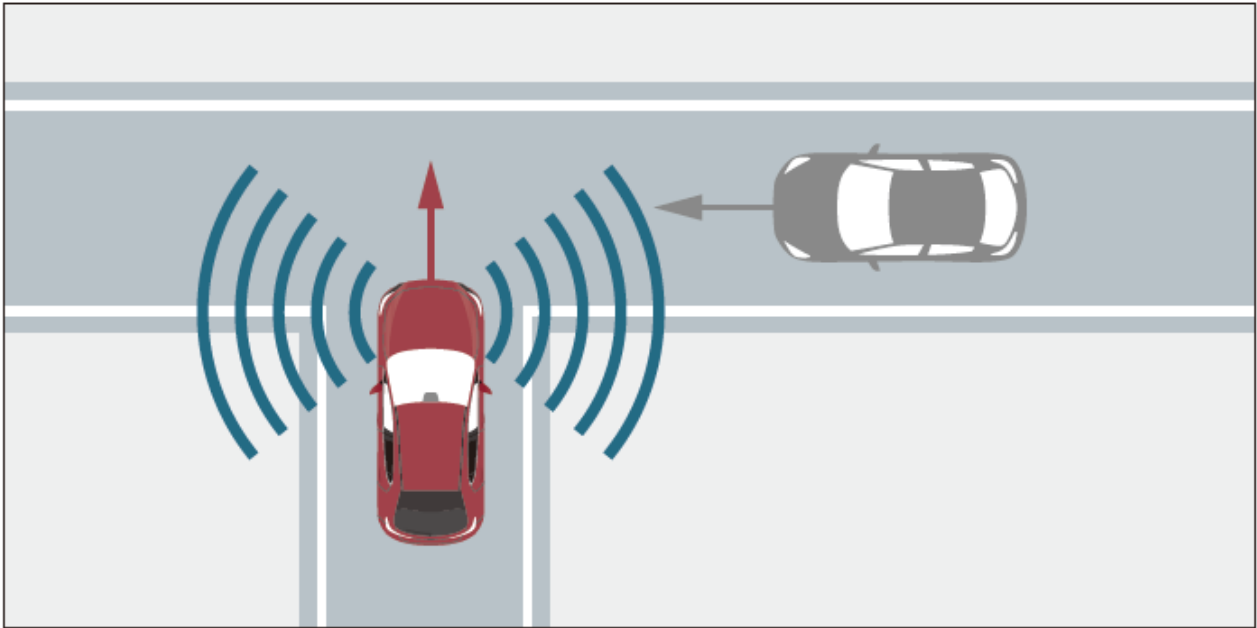
前側方接近車両検知(FCTA)

徐行時

交差点などで自車が発進するとき接近する車両を検知し、運転者に危険を知らせます。

機能の概要

- レーダーセンサー(フロントサイド)により、交差点などで自車が発進するとき前側方の死角から接近した車両を検知し、警告表示および警報音により運転者に危険を知らせます。



前側方接近車両検知(FCTA)

交差点などで自車が発進するとき接近する車両を検知し、運転者に危険を知らせます。

作動条件			
○ 車速が約10km/h以下のとき。 ○ 接近車両などが自車前側方から約5km/h以上で接近しているとき作動します。 【AT車】○セレクトレバーがDのとき。 【MT車】○チェンジレバーがR/N以外のとき。			
作動時の表示/警告音			
【作動時の表示】 自車が停止している場合、下記表示で車両の接近をお知らせします。 マルチインフォメーションディスプレイ アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 360°ビューモニター ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。			
自車が動いており、かつ前側方から車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、警報音が鳴り続け(鳴るのに加え)、下記衝突警報が表示されます。 マルチインフォメーションディスプレイ アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 360°ビューモニター			

徐行時

前側方接近車両検知(FCTA)

交差点などで自車が発進するとき接近する車両を検知し、運転者に危険を知らせます。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

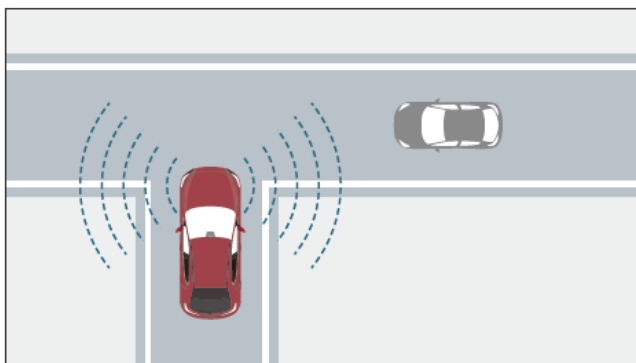
- 必ず目視にて周辺状況を確認してください。
- 作動には、各種の制約があります。死角から接近する車両が存在する場合でも、警告表示および警報音が遅れる場合があります。

前側方接近車両検知(FCTA)

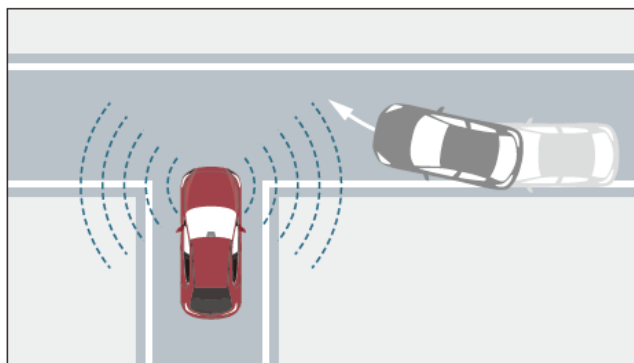
徐行時

交差点などで自車が発進するとき接近する車両を検知し、運転者に危険を知らせます。

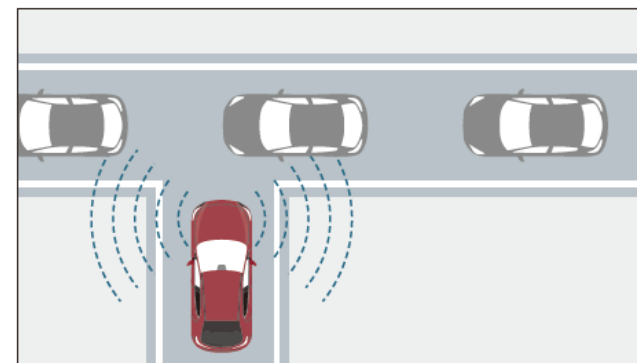
以下のような場合には検知しないもしくは検知しにくい、正常に作動しないことがあります。



- 接近車両が次のような形状をしているとき。
 - ・ 車両が非常に小さい。
 - ・ 車高が非常に低い/高い。
 - ・ 特殊車両など複雑な形状をしている。



- 停止していた車両などが突然動き始めた時。



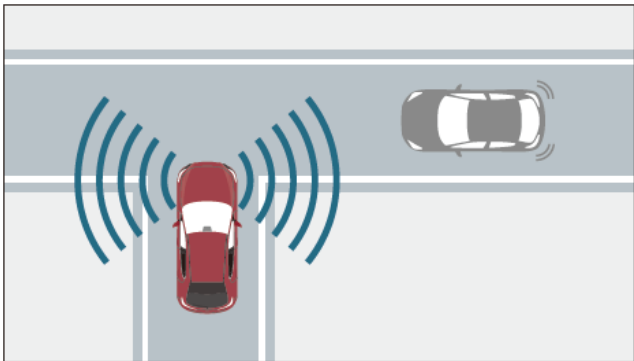
- 複数の物体が同時に移動しているとき。

前側方接近車両検知(FCTA)

徐行時

交差点などで自車が発進するとき接近する車両を検知し、運転者に危険を知らせます。

以下のような場合には車両が接近していなくてもFCTAが作動することがあります。



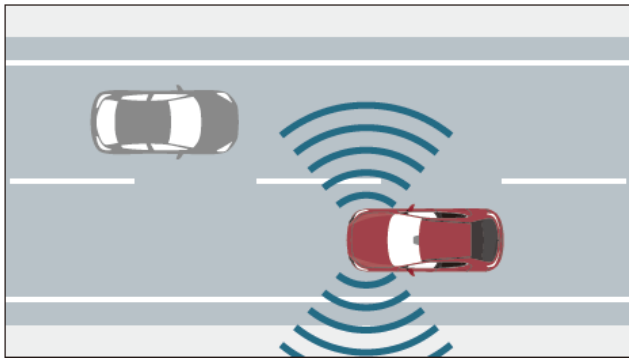
○ 自車の前方または側方から接近している車両が減速しているとき。



○ 自車の前方または右側から接近している車両が自車両の直前で右折したとき。



○ 車両や歩行者が自車周辺の駐車場や歩道などを移動しているとき。



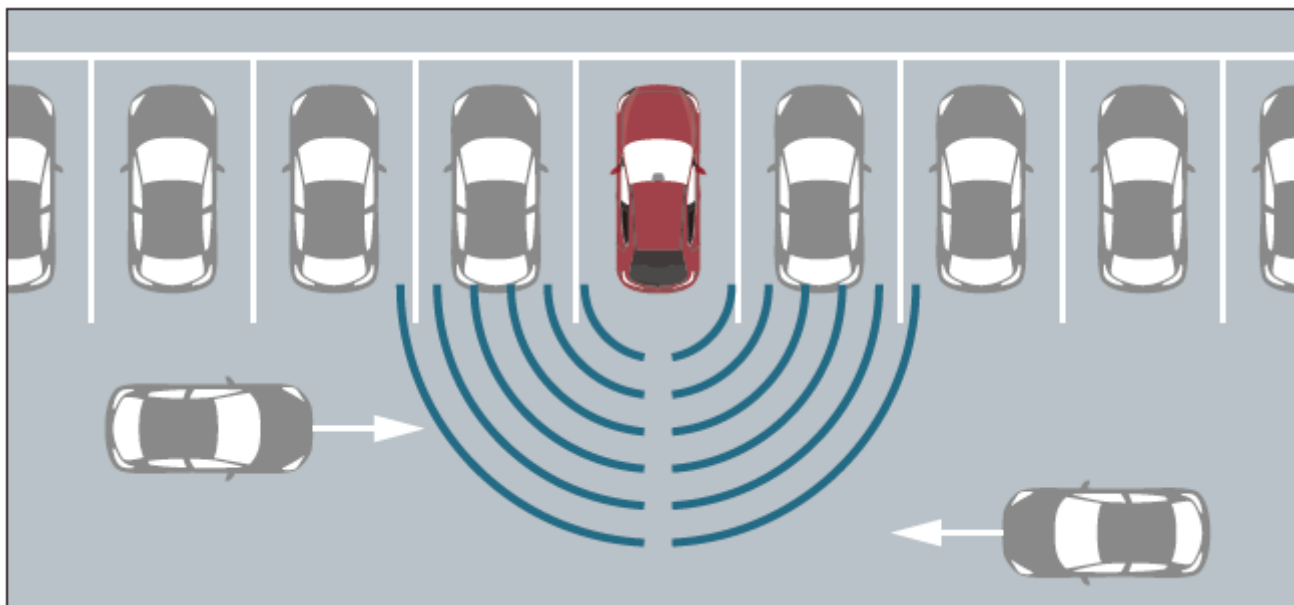
○ 対向車とすれ違うとき。

後側方接近車両検知(RCTA) / リア・クロス・トラフィック・アラート(RCTA)

駐車場からバックで出てくるときに、自車に接近してくる車両を検知して運転者に危険を知らせます。

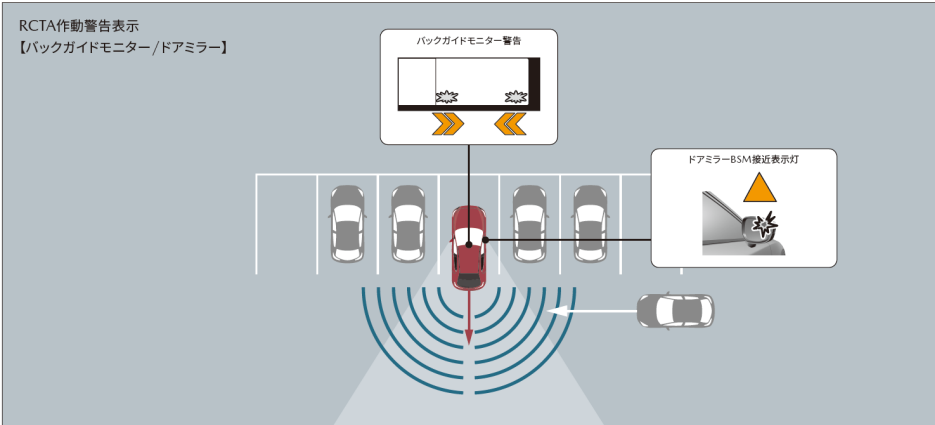
機能の概要

- レーダーセンサー(リアサイド)により、駐車場などから後退するときに後側方から接近した車両を検知し、警告表示および警報音により運転者に危険を知らせます。



後側方接近車両検知(RCTA) / リア・クロス・トラフィック・アラート(RCTA)

駐車場からバックで出てくるときに、自車に接近してくる車両を検知して運転者に危険を知らせます。

作動条件
【AT車】 ○ セレクトレバーをRの位置にしているとき 【MT車】 ○ チェンジレバーをRの位置にしているとき。
作動時の表示/警告音
○ 後側方から車両が接近し、自車と衝突の可能性がある場合、バックガイドモニターに警告が表示され、左右のドアミラーのブラインド・スポット・モニタリング(BSM)接近表示灯が点滅、同時に警報音が鳴ります。 RCTA作動警告表示 【バックガイドモニター/ドアミラー】  ※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。 詳しくは取扱説明書をご確認ください。

後側方接近車両検知(RCTA) / リア・クロス・トラフィック・アラート(RCTA)

駐車場からバックで出てくるときに、自車に接近してくる車両を検知して運転者に危険を知らせます。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

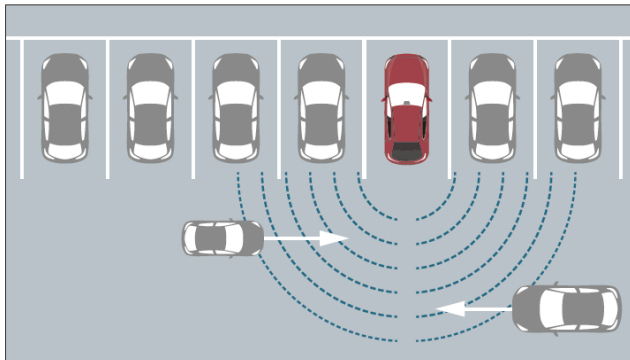
警告

- 実際の車両後退時には、必ず目視にて周辺状況を確認してください。
- 本システムは、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。本システムの作動には各種の制約があるため、自車後方に車両が存在する場合でも、BSM接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

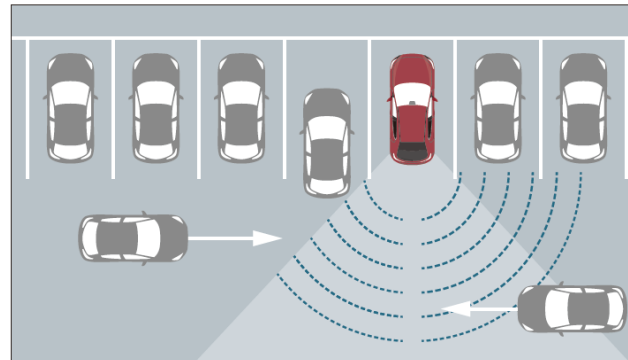
後側方接近車両検知(RCTA) / リア・クロス・トラフィック・アラート(RCTA)

駐車場からバックで出てくるときに、自車に接近してくる車両を検知して運転者に危険を知らせます。

以下のような場合にはシステムが作動しない、もしくは作動しにくいことがあります。



- 接近車両が次のような形状をしているとき。
 - ・ 車両が非常に小さい。
 - ・ 車高が非常に低い/高い。
 - ・ 特殊車両など複雑な形状をしている。

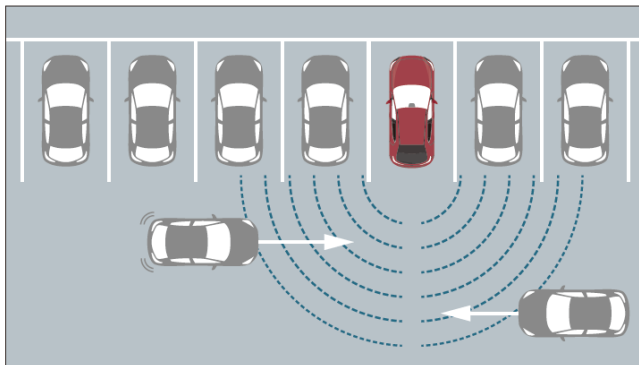


- 後退時の車速が約10km/h以上のとき。
- 隣接した壁や駐車車両によりレーダーセンサー(リアサイド)の検知エリアが妨げられているとき。
- 自車の真後ろから車両が接近してきたとき。
- 車両が斜めに駐車されているとき。

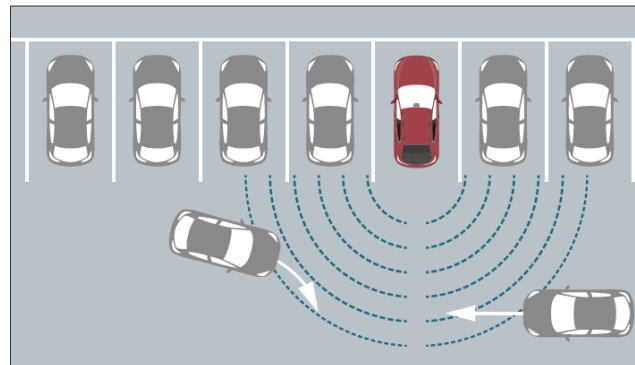
後側方接近車両検知(RCTA) / リア・クロス・トラフィック・アラート(RCTA)

駐車場からバックで出てくるときに、自車に接近してくる車両を検知して運転者に危険を知らせます。

以下のような場合には車両が接近していなくてもシステムが作動することがあります。



- 自車の後方から接近している車両が減速しているとき。



- 自車の後方または側方から接近している車両が、自車両の直前で右左折したとき。

360°ビュー・モニター

狭い場所での駐車、狭い道でのすれ違い、T字路への進入時など、目では直接確認しづらいエリアの安全確認をサポートします。

機能の概要

- 4つのカメラによる前後・左右・俯瞰（上から見下ろした状態）映像をセンターディスプレイに表示し、運転者からは見えない領域の危険認知をサポートするシステムです。
- 「サイドビュー」以外の、「フロントビュー」「リアビュー」「フロントワイドビュー」「リアワイドビュー」「フロントシースルービュー」「リアシースルービュー」は、トップビューと同時に表示されます（シースルービューは一部車種、グレードのみ）。各パターンの切り替えは、360°ビュー・モニター・スイッチで選択可能です。
- フロントパーキングセンサー作動時には、「フロントワイドビュー」もしくは「サイドビュー」が自動的に表示されます。
- 前進時・後退時ともにトップビュー選択時は車幅やステアリングと連動したタイヤの軌跡などをラインで表示。俯瞰映像と合わせて、状況認識をしやすくしています。
- 駐車時や徐行時の危険認知をサポートするアイテムです。車速が約15km/hを超えると画面が消える設定としています。

360°ビュー・モニター

狭い場所での駐車、狭い道でのすれ違い、T字路への進入時など、目では直接確認しづらいエリアの安全確認をサポートします。

表示パターンの映像

「トップビュー&フロント/リアビュー」表示

① 前方車両との接触の不安
② 後方車両との接触の不安

①バックで駐車枠内に進入 → ②切り返して前進

「サイドビュー」表示

対向車との接触の不安

縁石と左前輪との接触の不安

「フロントワイドビュー」表示

目視では見えにくい車両

ドライバー視野

カメラ視野(左右各約25m)

自車による死角

目視では見えにくい二輪車

カメラ視角(約177°)

「リアワイドビュー」表示

カメラ視角(約177°)

目視では見えにくい死角への不安

※ 映像の表示方法は車種によって異なります。

360°ビュー・モニター

狭い場所での駐車、狭い道でのすれ違い、T字路への進入時など、目では直接確認しづらいエリアの安全確認をサポートします。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

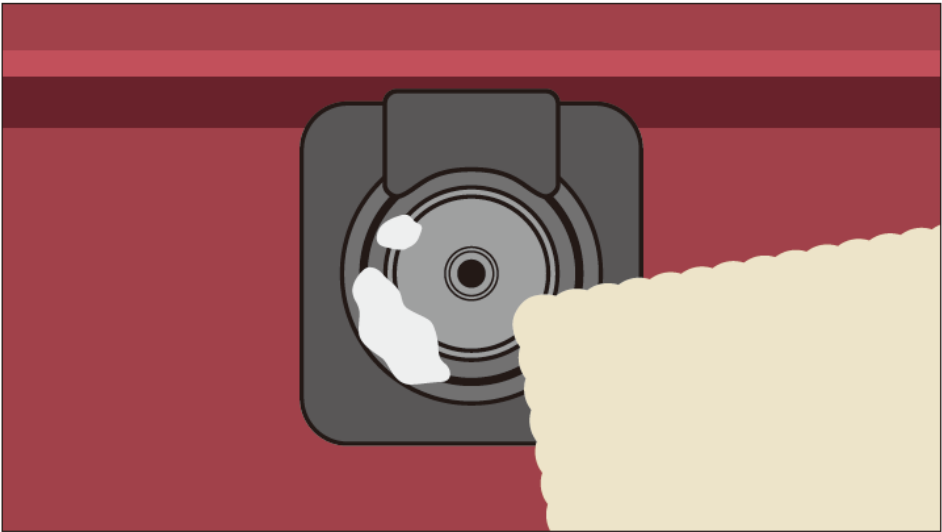
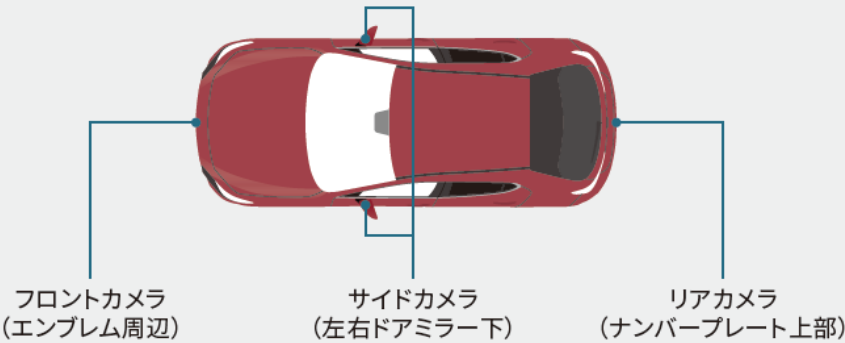
- 必ず車両周辺の安全をミラーや目視で直接確認しながら運転してください。
- 360°ビュー・モニターはあくまでも車両周辺の安全を確認するための補助装置です。
- カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。
- ガイド線はあくまで目安であり、また画面に映し出している映像は、実際の画像とは異なる場合があります。

360°ビュー・モニター

狭い場所での駐車、狭い道でのすれ違い、T字路への進入時など、目では直接確認しづらいエリアの安全確認をサポートします。

360°ビュー・モニターを使用する際の注意事項と必ず守っていただきたいこと。

カメラの装着位置



- カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤・有機溶剤・ワックス・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときには、すぐに柔らかい布などでふき取ってください。
- カメラのレンズを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどで磨いたりしないでください。カメラのレンズが傷つき、映像に悪影響を及ぼすおそれがあります。
- サスペンションの改造を行わないでください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行うときは、マツダの販売店にご相談ください。

360°ビュー・モニター

狭い場所での駐車、狭い道でのすれ違い、T字路への進入時など、目では直接確認しづらいエリアの安全確認をサポートします。

以下のような状況では画面が見えにくくなることがありますが、故障ではありません。



- レンズ付近の温度が高い/低いとき。
- 雨天時など、カメラに水滴がついたときや湿度が高いとき。
- カメラ付近に泥などの異物がついたとき。
- 太陽やヘッドランプなどの高輝度な光がカメラのレンズに直接当たったとき。

カメラの特性上の注意点。



トップビューカメラ

フロントビューカメラ

- 障害物がカメラの死角に重なった場合モニターには表示されない場合があります。(フロントビューカメラには表示。)
- 前後の死角は、カメラとバンパーの物理的な制約により、カメラで捉えきれない範囲があるため生じます。
- 360°ビュー・モニターのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感覚は実際の距離と異なります。
- 路上の線が映像のつなぎ目でずれて表示されることがあります。
- 人や障害物などが実際と異なって表示されることがあります。
(倒れているように表示されたり、実際より長く、または大きく表示されることがあります。)
- いずれかのカメラで色味のあるものを広い範囲で映すと、画面全体が影響を受け、その色で表示されることがあります。
- シースルビューでは地面および立体物が湾曲して表示されることがあります。

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)

面倒な操作なしに夜でも前方の見やすい状況をつくり出します。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ (FSC) により、夜間走行時に前方車や対向車を検知します。
- ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を制御することで、前方車や対向車を眩惑することなく運転者の視界確保を支援します。

〈ALHが作動するシチュエーションとメリット〉

シチュエーション	ALH機能	作動速度	メーター内表示灯		作動と得られるメリット
			アダプティブ・LED・ヘッドライト表示灯	ヘッドライト上向き表示灯	
前方車 対向車がいる状況	グレアフリー (防眩) ハイビーム	約30km/h～ 約40km/h※1	○	○	前方車、対向車の部分のみ減光して照射することで、 相手ドライバーを眩しくさせることなく、 明るい視界確保を支援します。
市街地を低速で 走行している状況	ワイド配光 ロービーム	～約40km/h	○	×	照射範囲を側方へ拡大することにより、 前側方の歩行者や自転車を認知しやすくなり、 右左折時により安心して運転することを支援します。
高速走行時	ハイウェイモード	約95km/h～	○	×	ヘッドランプの照射角度を上により、 遠くの状況や標識等の認知を支援します。
歩行者がいる状況	マーキングライト※2	約20km/h～ 約80km/h	○	○	自転車と衝突する可能性がある歩行者を 強調照射することにより、運転者の認知を支援します。

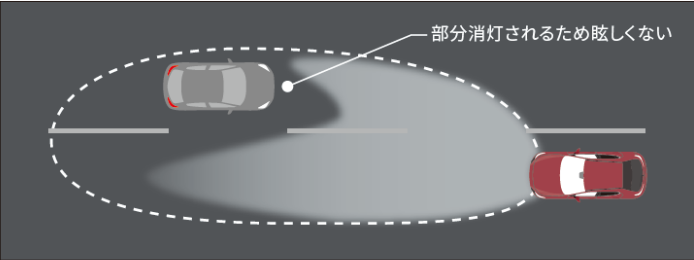
※1 車種によって作動速度が異なります。 ※2 マーキングライトは一部車種のみです。

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)

面倒な操作なしに夜でも前方の見やすい状況をつくり出します。

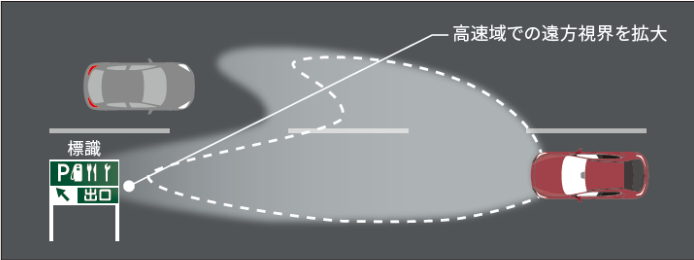
ALH機能についての作動イメージ

グレアフリー (防眩) ハイビーム



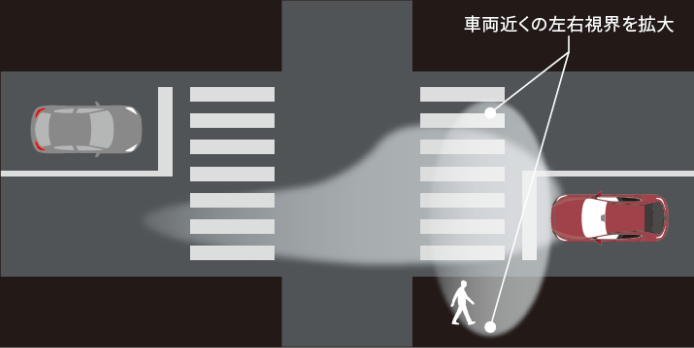
車速約30km/h、または約40km/h以上の走行時、前方車や対向車が眩しくないように複数に分割したLEDで部分消灯しながら、ハイビームで良好な視界確保を支援します。

ハイウェイモード



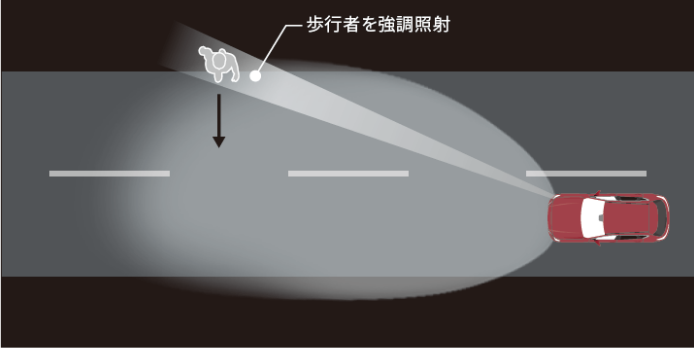
高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方向へ移動して照射します。

ワイド配光ロービーム



車速約40km/h未満で走行中に、ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大して照射します。

マーキングライト



車速が約20km/h～約80km/hのとき、自車と衝突する可能性がある歩行者をシステムが検知。ヘッドランプがロービームの時はハイビームで照射。

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)

面倒な操作なしに夜でも前方の見やすい状況をつくり出します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

以下のような場合には、ALHが正常に作動しない場合があります。

- 周囲に街灯、電光掲示、信号機などの光源があるとき。
- 雨、雪、霧などで視界が悪いとき。
- カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき。
- 前方車が水を巻き上げて走行するなど、前方の視覚状況が悪いとき。

*本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)

面倒な操作なしに夜でも前方の見やすい状況をつくり出します。

対向車、前方車がいる状況でALHが作動するケース

前方車・対向車の状態	照射パターン	メーター表示
前方車と対向車が複数台いる場合 (道路全体が明るいとき)		ヘッドランプ上向き表示灯 ALHメーター内表示灯 非点灯状態 ロービームのみ点灯。
① 前方車がいる場合		ヘッドランプ上向き表示灯 ALHメーター内表示灯 前方車周辺を減光し、ハイビーム照射。
② 対向車がいる場合		ヘッドランプ上向き表示灯 ALHメーター内表示灯 対向車周辺を減光し、ハイビーム照射。
③ 前方車と対向車が複数台いる場合		ヘッドランプ上向き表示灯 ALHメーター内表示灯 前方車・対向車周辺を減光し、ハイビーム照射。

○ ALHの作動中は前方車や対向車に眩しい思いをさせることなく走行できます。

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)

ヘッドランプの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)を自動で切り替え。上向き(ハイビーム)での走行機会を増やすことで、夜間の前方視界確保をサポートします。

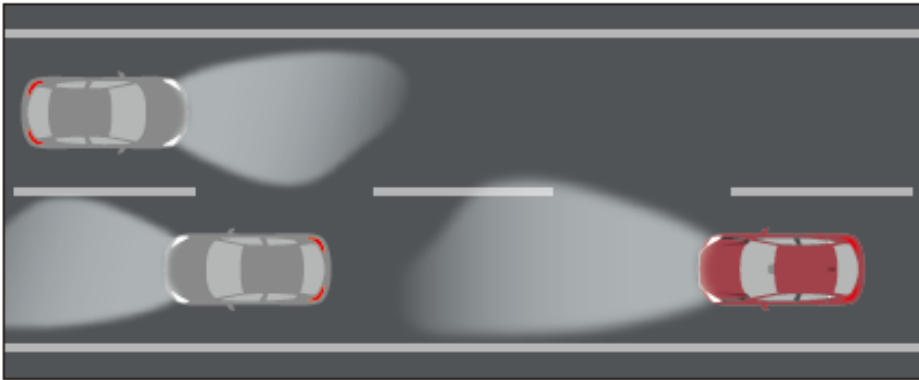
機能の概要

- フォワードセンシングカメラ (FSC) を使用することにより夜間走行時に前方の状況を判断し、ヘッドランプの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)を自動的に切り替えるシステムです。

ハイビーム/ロービーム切り替えイメージ



前方車や対向車がないときはハイビームに切り替わります。

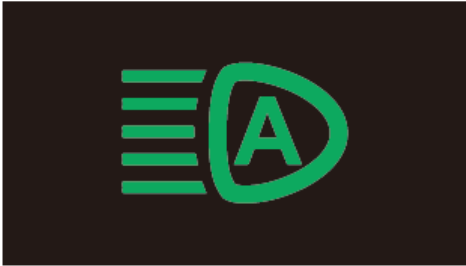
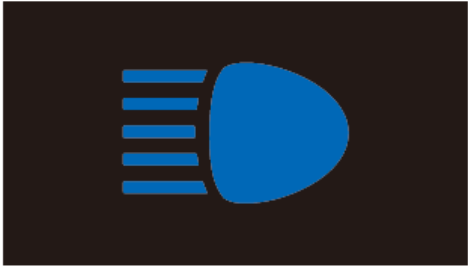


前方車や対向車を検知すると自動でロービームに切り替えます。

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)

ヘッドランプの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)を自動で切り替え。上向き(ハイビーム)での走行機会を増やすことで、夜間の前方視界確保をサポートします。

作動条件
○ 車速約30km/h以上で走行中に、前方に前方車や対向車がないときは、ヘッドランプは上向き(ハイビーム)に切り替わります。 次の場合は、ヘッドランプは下向き(ロービーム)に切り替わります。 ＊前方に前方車や対向車のランプ類を検知したとき。 ＊街灯が並んでいるエリアや、路面の明るい街中を走行しているとき。 ＊車速が約20km/h未満のとき。

作動時の表示/警告音
【知識】 ○ 電源ポジションがONの状態ランプスイッチが「AUTO」の位置のときにヘッドランプを上向き(ハイビーム)にすると作動します。 ○ ヘッドランプが点灯するとメーター内のHBC表示灯(緑)が点灯します。 ○ 周囲の明るさからHBCが夜と判断すると作動します。 ○ ランプスイッチを「AUTO」の位置以外にするか、下向き(ロービーム)またはパッシングにすると解除します。 ※HBCが対象物を認識できる距離は、周囲の状況により異なります。 ＊本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。 HBCメーター内表示灯  ヘッドランプ上向き表示灯 

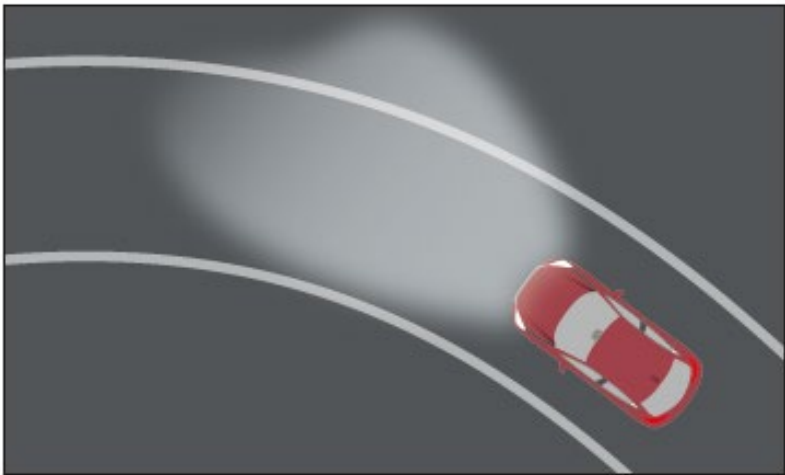
アダプティブ・フロントライティング・システム (AFS)

夜間のカーブ走行時、車速とステアリング舵角を検知して進行方向を照射。カーブに応じた視界を確保します。

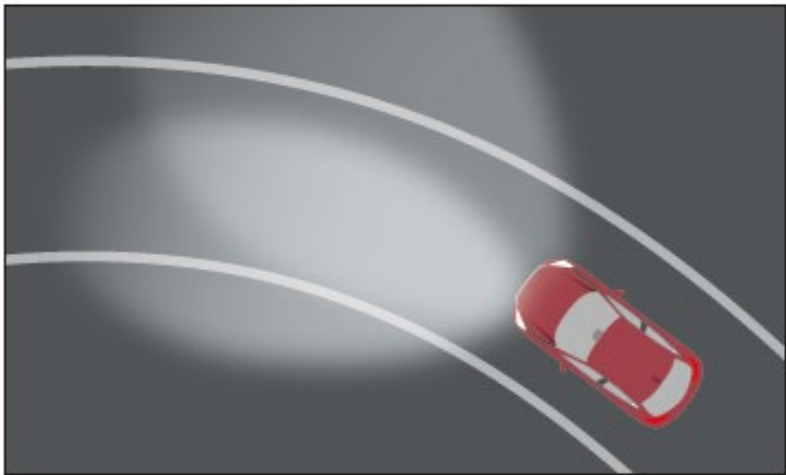
機能の概要

○ AFSは、ハンドルの操作に合わせてヘッドランプの照らす方向を左右に自動で調整するシステムです。

AFS照射イメージ図



AFS非装着車



AFS装着車

レーンキープ・アシスト・システム (LAS)

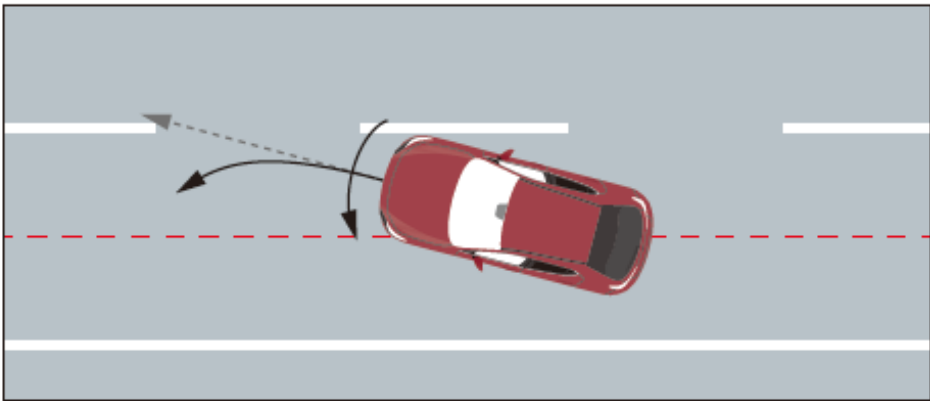
運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線からの逸脱回避をサポートします。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ (FSC) により、車線を検知します。
- 自車が車線から逸脱する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることにより車線からの逸脱回避をサポートするシステムです。



レーンキープ・アシスト・システム (LAS)

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線からの逸脱回避をサポートします。

作動条件
○ 車速が約60km/h以上のとき。 ○ 車線の白線(黄線)を検知しているとき。

レーンキープ・アシスト・システム (LAS)

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線からの逸脱回避をサポートします。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 前方不注意を補助するものではないため、システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- レーンキープ・アシスト・システムの機能には限界があります。常にハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。
- 左右どちらか一方の車線の白線(黄線)が検知できない場合、検知できていない方向への逸脱に対しては作動しません。

＊本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

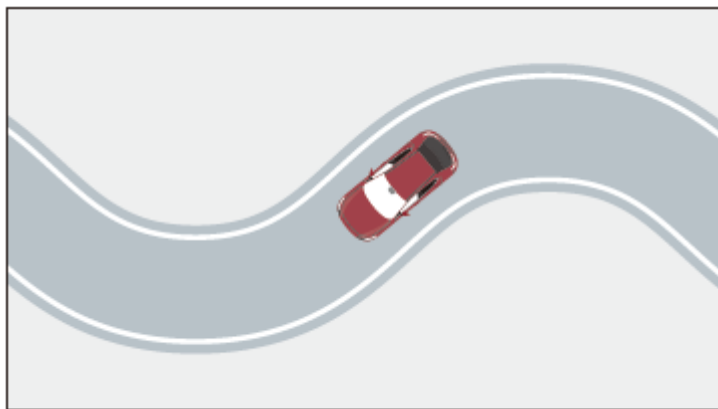
レーンキープ・アシスト・システム(LAS)

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線からの逸脱回避をサポートします。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



- 白線(黄線)がかすれや汚れなどにより見えにくいとき。
- 天候(雨、霧、雪のときなど)により、白線(黄線)が見えにくいとき。
- 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、白線(黄線)と紛らわしい線が見えるとき。
- トンネルの出入り口など、周囲の明るさが急に変わるとき。
- 逆光を浴びて路面が光っているとき。
- 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき。
- 車線の幅が狭いとき。
- 急カーブのとき。
- 道路がうねっているとき。
- 前方車が白線(黄線)の近くを走行していて、白線(黄線)が見えにくいとき。
- 前方から強い光を受けているとき(太陽光や対向車のヘッドランプ(ハイビーム)など)。

レーンキープ・アシスト・システム (LAS)

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線からの逸脱回避をサポートします。

以下のような場合にはアシストが一時的に解除されることがあります。

- 白線(黄線)を検知できないとき。
- 車速が約60km/h未満になったとき。
- 方向指示器を操作したとき。
- 急なアクセル操作をしたとき。
- 急なハンドル操作をしたとき。
- ブレーキ操作をしたとき。

車線逸脱警報システム (LDWS) *LDWS: Lane Departure Warning System

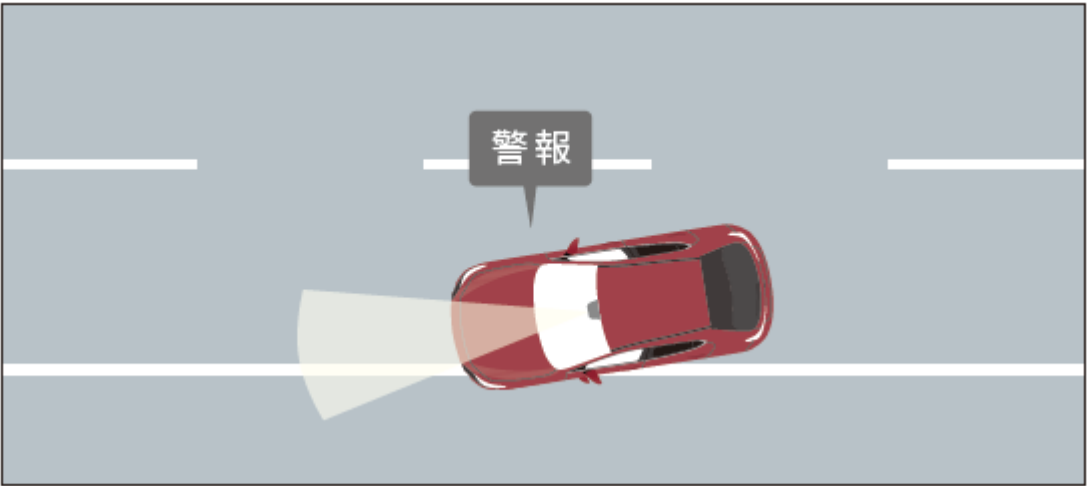
運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、運転者に警告します。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ (FSC) により、車線を検知します。
- 自車が車線から逸脱する可能性があるとき、車線逸脱警報により運転者にお知らせします。



車線逸脱警報システム (LDWS) *LDWS: Lane Departure Warning System

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、運転者に警告します。

作動条件
○ 車速が約45km/h以上もしくは約60km/hのとき(作動車速は車種によって異なります)。 ○ 車線の白線(黄線)を検知しているとき。

車線逸脱警報システム (LDWS) *LDWS: Lane Departure Warning System

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、運転者に警告します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 前方不注意を補助するものではないため、システムを過信しすぎると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報システムの機能には限界があります。常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

*本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

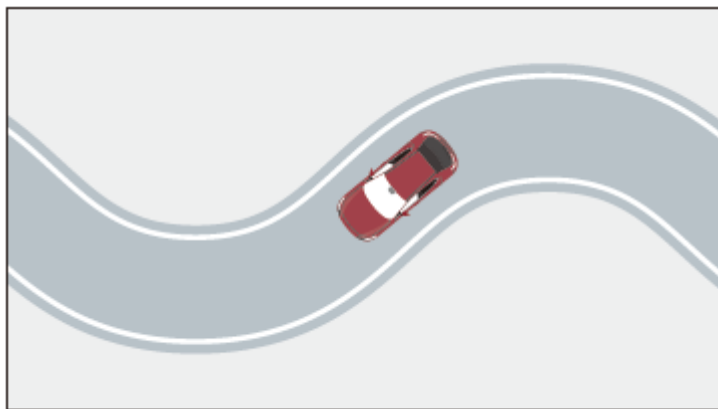
車線逸脱警報システム(LDWS) *LDWS: Lane Departure Warning System

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、運転者に警告します。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。



- 白線(黄線)がかすれや汚れなどにより見えにくいとき。
- 天候(雨、霧、雪のときなど)により、白線(黄線)が見えにくいとき。
- 道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど、白線(黄線)と紛らわしい線が見えるとき。
- トンネルの出入り口など、周囲の明るさが急に変わるとき。
- 逆光を浴びて路面が光っているとき。
- 雨あがりなどで、路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき。
- 車線の幅が狭いとき。
- 急カーブのとき。
- 道路がうねっているとき。
- 前方車が白線(黄線)の近くを走行していて、白線(黄線)が見えにくいとき。
- 前方から強い光を受けているとき(太陽光や対向車のヘッドランプ(ハイビーム)など)。

車線逸脱警報システム (LDWS) *LDWS: Lane Departure Warning System

運転
支援機能

中/高速域

車線から逸脱する可能性があるとき、運転者に警告します。

以下のような場合にはアシストが一時的に解除されることがあります。

- 白線(黄線)を検知できないとき。
- 車速が約60km/h未満になったとき。
- 方向指示器を操作したとき。
- 急なアクセル操作をしたとき。
- 急なハンドル操作をしたとき。
- ブレーキ操作をしたとき。

緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

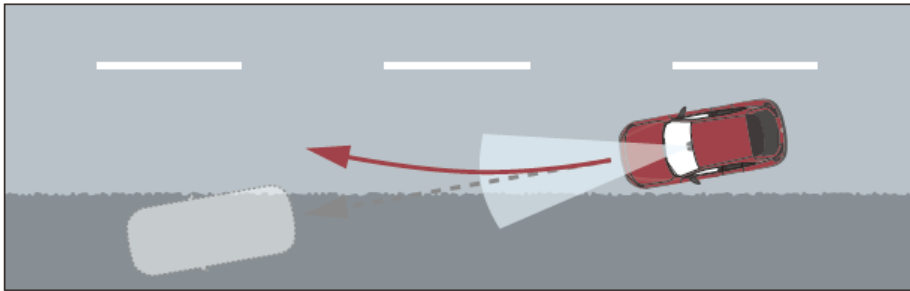
運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

機能の概要〈ロードキープアシスト機能〉

- フォワードセンシングカメラ(FSC)により、路外を認識します。
- 路外へ逸脱する可能性があると判断したとき、ハンドル操作をアシストすることにより路外への逸脱回避をサポートする機能です。



緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

作動条件<ロードキープアシスト機能>

- 車速が約60km/h以上のとき。
- 直線または緩やかなカーブを走行しているとき。
- 対象物(砂利、芝生、側溝、縁石、ガードレール、側壁など)を検知することで、路外を認識しているとき。
- クルージングトラフィックサポート(CTS)のステアリングアシスト機能が作動していないとき。

作動時の表示/警告音<ロードキープアシスト機能>

【作動時の表示】路外へ逸脱する可能性があると判断したとき、ハンドル操作アシストが作動し、下記表示でお知らせします。さらに逸脱する可能性が高まった場合、下記表示と同時に警報音で危険をお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ
(基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ
(i-ACTIVSENSE表示)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



【衝突警報】路外へ逸脱する可能性が高まった場合、警報音が鳴ると同時に衝突回避のために必要なハンドル操作方向を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



※ 警告灯の表示、表示場所は
車種によって異なります。
詳しくは取扱説明書をご確認ください。

緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。

- 対象物が見えにくいとき(縁石が低い、路内と路外に明暗差がない、前方車で隠れるなど)。
- 対象物と紛らわしい線が見えるとき(道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど)。
- 道路の幅が狭いとき。
- 段差などにより、自車が大きく揺れたとき。
- 左右どちらか一方の対象物を検知できていない場合、検知できていない方向への逸脱に対しては作動しません。

以下のような場合にはロードキープアシスト機能が一時的に作動しないことがあります。

- 対象物を検知できないとき。
- 車速が約60km/h未満になったとき。
- 方向指示器を操作したとき。
- 急なアクセル操作をしたとき。
- 急なハンドル操作をしたとき。
- ブレーキ操作をしたとき。

緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

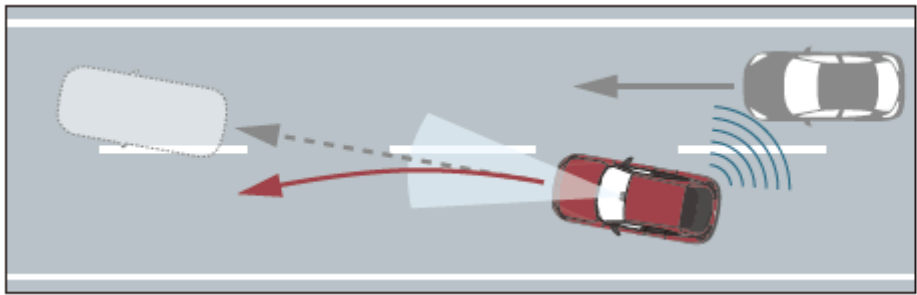
運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

機能の概要<側方危険回避アシスト機能>

- フォワードセンシングカメラ(FSC)により、車線の白線(黄線)を検知し、レーダーセンサー(リアサイド)により、隣接車線の車両を検知します。
- 自車が車線変更または車線逸脱によって隣接車線の車両と衝突する可能性があると判断したとき、もとの車線に戻るようハンドル操作をアシストする機能です。



緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

作動条件<側方危険回避アシスト機能>

- 車速が約60km/h以上のとき。 ※ ○ 直線または緩やかなカーブを走行しているとき。
 - 車線の両側の白線(黄線)を検知しているとき。 ○ 後側方に車両がいるとき。
 - クルージングトラフィックサポート(CTS)のステアリングアシスト機能が作動していないとき。
- ※ 一部車種は作動車速が異なります。詳しくは取扱説明書をご確認ください。

作動時の表示/警告音<側方危険回避アシスト機能>

【作動時の表示】隣接車線の車両と衝突する可能性がある場合、ハンドル操作アシストが作動し、警報音と下記表示でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ
(基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ
(i-ACTIVSENSE表示)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



【衝突警報】隣接車線の車両と衝突する可能性が高まった場合、警報音が鳴ると同時に衝突回避のために必要なハンドル操作方向を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



※ 警告灯の表示、表示場所は
車種によって異なります。
詳しくは取扱説明書をご確認ください。

緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。

- 隣接車線の車両が見えにくいとき。
- 隣接車線の車両が高速走行で急接近してきたとき。
- 隣接車線の車両が次のような形状をしているとき。・車両が非常に小さい。・車高が非常に高い/低い。・特殊車両など複雑な形状をしている。
- 白線(黄線)が見えにくいとき(かすれ、汚れ、前方車で隠れるなど)。
- 白線(黄線)が複数引かれていたり、途切れたりしているとき。
- 白線(黄線)と紛らわしい線が見えるとき(道路補修の消し残り線、影、残雪、雨のたまったわだちなど)。
- 車線の幅が狭いとき、または広いとき。
- 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行しているとき。
- 段差などにより、自車が大きく揺れたとき。
- 分岐路や合流路を走行しているとき。

以下のような場合には側方危険回避アシスト機能が一時的に作動しないことがあります。

- 黄線を検知できないとき
- 急なアクセル操作をしたとき。
- 急なハンドル操作をしたとき。
- TCS/DSCが作動しているとき
- 自車付近の検知エリアを、複数の車両が走行しているとき。
- 車速が60km/h未満になったとき

緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

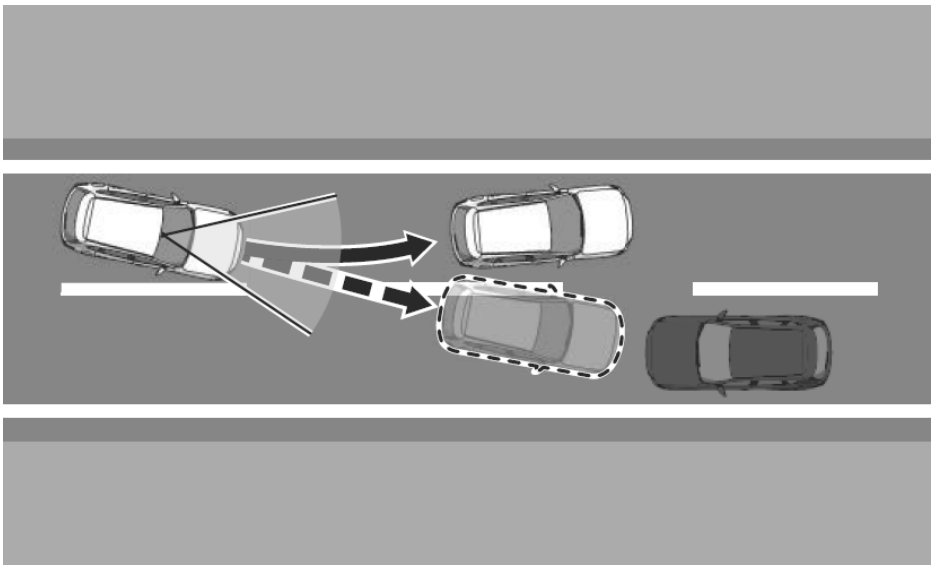
運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

機能の概要<対向車衝突回避アシスト機能>

- レーダーセンサー(フロント)およびフォワードセンシングカメラ(FSC)が自車の車線逸脱により対向車線の車両と衝突する可能性があると判断した時に、もとの車線に戻るようハンドル操作をアシストします。
- また、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。



緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

作動条件<対向車衝突回避アシスト機能>

- 車速が60km/h以上のとき。
 - 車線の両側の白線(黄線)を検知しているとき。
 - 隣接車両に対向車がいるとき。
- 直線または緩やかなカーブを走行しているとき。
 - クルージングトラフィックサポート(CTS)のステアリングアシスト機能が作動していないとき。

作動時の表示/警告音<対向車衝突回避アシスト機能>

【作動時の表示】対向車両と衝突する可能性がある場合、ハンドル操作アシストが作動し、警報音と下記表示でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ
(基本画面)



マルチインフォメーションディスプレイ
(i-ACTIVSENSE表示)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

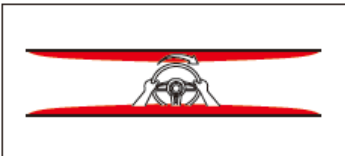


【衝突警報】対向車両と衝突する可能性が高まった場合、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。画面表示に従ってハンドル表示をしてください。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

以下のような場合にはシステムが作動しないことがあります。

- 車線の幅が狭いとき、または広いとき。
- 分岐路や合流路を走行しているとき。
- 隣接車両の対向車との相対速度差が大きいとき
- 白線(黄線)が見えにくいとき(かすれ、汚れ、前方車で隠れるなど)
- 白線(黄線)が複数引かれていたり、途切れていたりしているとき。
- 白線(黄線)と紛らわしい線が見えるとき(道路補修の消し残り線、影、残雪、雨の溜まったわだちなど)
- 段差などにより、自車が大きく揺れたとき。
- 工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行しているとき。
- 隣接車両の対向車が見えにくいとき。
- 隣接車両の対向車が次のような形状をしているとき。・特殊車両など複雑な形状をしている。

以下のような場合には対向車衝突回避アシスト機能が一時的に作動しないことがあります。

- 急なアクセル操作をしたとき。
- 急なハンドル操作をしたとき。
- TCS/DSCが作動しているとき
- 自車付近の検知エリアを、複数の車両が走行しているとき。
- 車速が60km/h未満になったとき

緊急時車線維持支援[ロードキープアシスト機能/側方危険回避アシスト機能/対向車衝突回避アシスト機能](ELK)

運転
支援機能

中/高速域

路外へ逸脱する可能性があるとき、また隣接車線の車両と衝突する可能性があるとき、対向車線の車両と衝突する可能性があるとき、ハンドル操作をアシストすることで車線を維持し、危険回避を図ります。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- ELKには限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- ELKは自動運転システムではありません。システムを過信すると思わぬ事故につながる恐れがあります。
- カメラおよびセンサーの検知範囲には限界があります。自車付近の二輪車などを検知できないままハンドル操作アシストが作動すると思わぬ事故につながる恐れがあります。

*本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

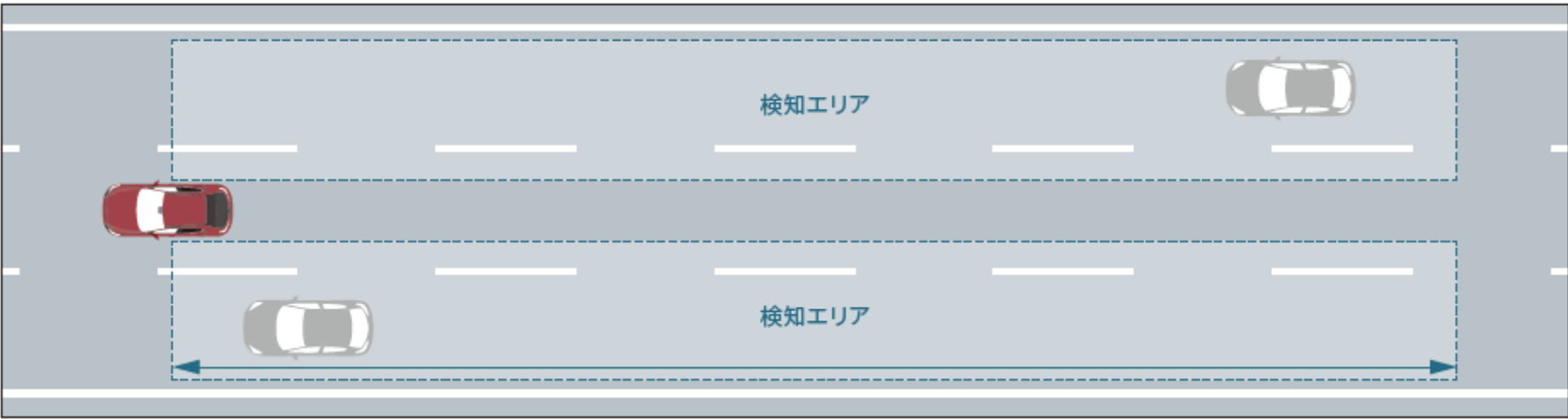
ブラインド・スポット・モニタリング(BSM)

ななめ後ろの死角にいるクルマの存在を知らせて、後方確認をサポートするシステムです。

機能の概要

- 走行中にレーダーセンサー(リアサイド)により、自車の後方から接近する車両を検知します。
- 接近状態に応じてドアミラーに設置した接近表示灯を点灯させます。
- 一部車種、グレードには降車時における運転者の後方確認を支援する機能がついています。

BSM検知エリア



ブラインド・スポット・モニタリング(BSM)

ななめ後ろの死角にいるクルマの存在を知らせて、後方確認をサポートするシステムです。

作動条件
○ 車速が15km/h以上のとき。 ○ 車両検知エリアは自車のフロントドア後端から自車の後方約50mまでです。 降車時警告機能付 ○ 自車が停止しているとき。 ○ 車両の電源がONのとき、または車両の電源がOFFになってから3分以内。 ○ システムが接近車両を検知しているとき。

ブラインド・スポット・モニタリング(BSM)

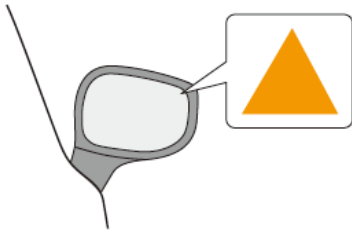
ななめ後ろの死角にいるクルマの存在を知らせて、後方確認をサポートするシステムです。

作動時の表示/警告音

- 後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置したBSM接近表示灯が点灯します。
また、BSM接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側に方向指示器のレバーを操作すると、BSM接近表示灯が点滅、同時に警告音が鳴ります。

降車時警告機能付

- 駐車時に後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてドアミラーに設置したBSM接近表示灯が点灯します。また、BSM接近表示灯が点灯した状態で、その点灯した側のドアを開けるとBSM接近表示灯が点滅、同時に警告音が鳴ります。

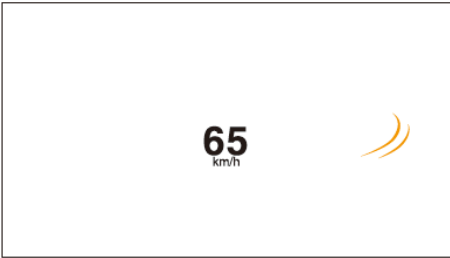


- 【知識】
- 前進時、後方からの接近車両を検知して、その接近状態に応じてマルチインフォメーションディスプレイまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警告を表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



※ 警告灯の表示、表示場所は車種によって異なります。
詳しくは取扱説明書をご確認ください。

ブラインド・スポット・モニタリング(BSM)

ななめ後ろの死角にいるクルマの存在を知らせて、後方確認をサポートするシステムです。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

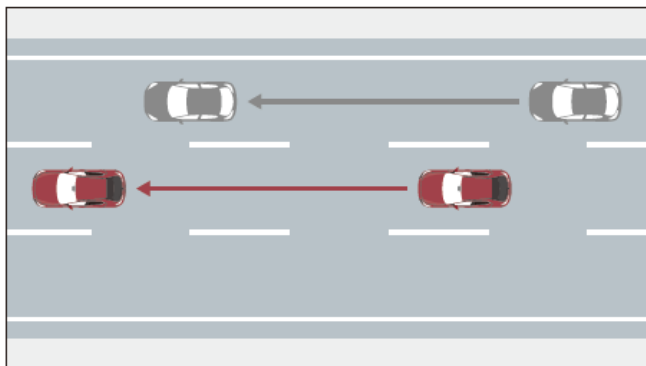
警告

- 実際の車線変更時には、必ず目視にて周辺状況を確認してください。
- 本システムは車線変更時の後方確認を支援するシステムです。
本システムの作動には各種の制限があるため、隣接車線に車両が存在する場合でもBSM接近表示灯が点灯しなかったり、点灯が遅れる場合があります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

ブラインド・スポット・モニタリング(BSM)

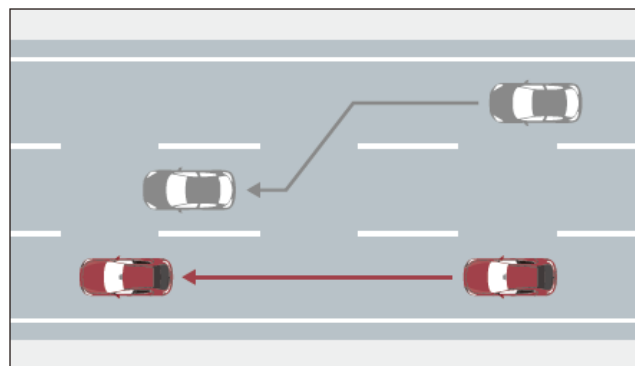
ななめ後ろの死角にいるクルマの存在を知らせて、後方確認をサポートするシステムです。

以下のような場合にはシステムが作動しない、もしくは作動しにくいことがあります。



走行状況によって検知ができない車両

- 隣車線後方の検知エリアにいても、自車に接近してこない車両。
(自車とほとんど速度差なく長い時間並走している車両など。)
- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両。



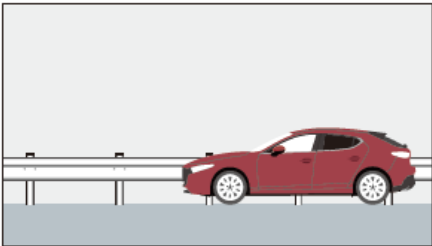
検知エリア外や道路状況による場合

- 車両が2つ離れた車線から隣接車線に車線変更してきたとき。
- 道路幅が極端に広い場合の隣接車線の車両。
*レーダーセンサー(リアサイド)の検知エリアは、高速道路の道路幅に対して設定してあります。
- 急勾配を走行しているとき。

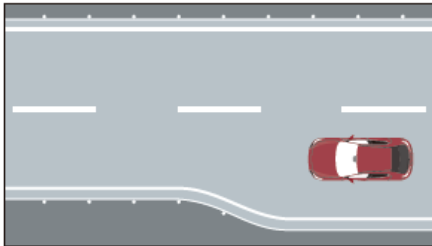
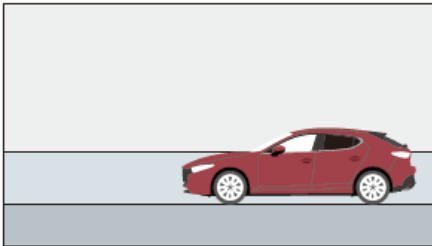
ブラインド・スポット・モニタリング(BSM)

ななめ後ろの死角にいるクルマの存在を知らせて、後方確認をサポートするシステムです。

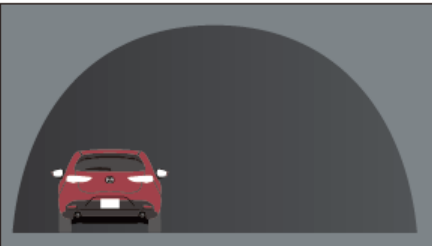
以下のような場合には接近する車両がいなくても、システムが作動することがあります。



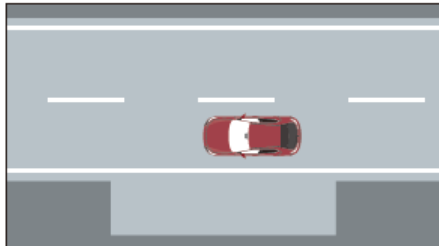
ガードレール、コンクリート壁等が並行している場合



ガードレールや側壁の幅が狭くなっているところ



トンネルの出入口やトンネル内の側壁、待避所



○ 道路上および道路端の停止物（ガードレール、トンネル、側壁、駐車車両など）に対してBSM接近表示灯が点灯し、警告を表示する場合があります。

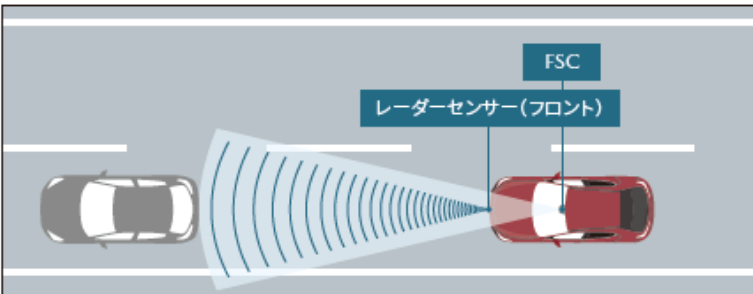
マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

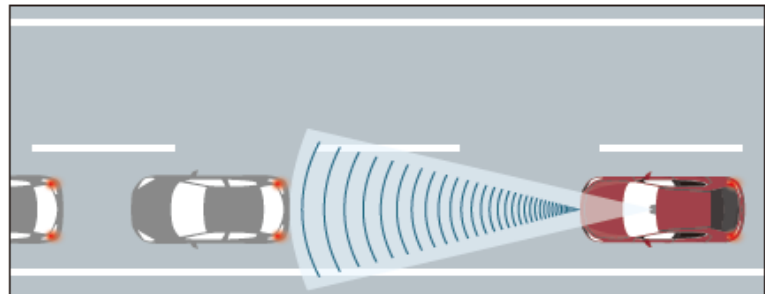
高速道路や自動車専用道路走行時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つよう、車速のコントロールを支援します。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ (FSC) とレーダーセンサー (フロント) により、前方車を検知します。前方車を検知することで、アクセルやブレーキの操作を支援し、設定した速度での定速走行や、設定した車間距離を保つよう、追従走行を支援します。
- 追従走行時に前方車が急ブレーキをかけたときなど、前方車に接近したときは、警報音と同時にディスプレイに警告を表示し、車間距離を十分確保するようお知らせします。
- 一部車種、グレードには速度標識連動機能がついています。



設定した車間距離を保ちながら追従走行を支援します。



前方車が減速した場合、エンジンブレーキによる被害軽減を図ります。
→MRCCによりブレーキ操作の支援を行い、
車間距離を保ちながら減速する支援をします。(車間距離は設定できます。)

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路走行時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つよう、車速のコントロールを支援します。

作動条件
○ MRCCスイッチを押し、MRCCがONのとき。 【AT車】○ 車速:0km/h～高速域のとき。 ○ セレクトレバーがD/Mのとき。 【MT車】○ 車速:約30km/h～高速域のとき。 ○ チェンジレバーがR/N以外 のとき。 ○ クラッチペダルを踏んでいないとき。 速度標識連動機能 ○ ナビゲーションシステムのSDカードの挿入が必要です。 ○ 30km/h未満の速度では標識を表示しません。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

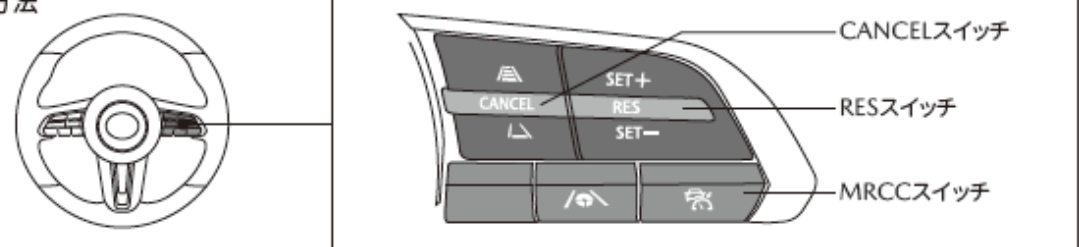
AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路走行時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つよう、車速のコントロールを支援します。

作動方法/作動時の表示/警告音

【知識】○ MRCCの設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイ、またはアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。

操作方法



- MRCCをセットするには、
- ①MRCCのスイッチを1回押す。
 - ②アクセルペダルの操作で設定したい速度に調整し、RESスイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-) と定速走行の支援を始めます。
 - 短押し: 1km/h
 - 長押し: 10km/h
 - ③CANCELスイッチを押し上げる、または押し下げることで、車間距離を設定します。

作動時の表示

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

前方車表示

55 km/h

80 - MRCC設定速度

マルチインフォメーションディスプレイ (基本画面)

前方車表示

55 km/h

D

80 - MRCC設定速度

【速度標識連動機能】
速度標識セット表示RESが点灯している時にRESスイッチを押す。



※ 操作方法や作動時の表示は車種によって異なります。詳しくは取扱説明書をご確認ください。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路走行時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つよう、車速のコントロールを支援します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 定速走行機能を使用しないときは、必ずOFFにする。
常に使用できる状態にしておくと、誤って定速走行機能を作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような場所では使用しないでください。
 - － 自動車専用道以外の一般道。(自動車専用道の本線以外も含む。)
 - － 急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路。
 - － 長い下り坂。(車間距離を保つため自動的にブレーキを踏み続け、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。)
- 前方車の種類や状態、天候状況、道路状況によっては、前方車の検知に限界があります。周囲の状況を確認して、ブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後方車との車間距離を十分に確保し安全運転を心がけてください。

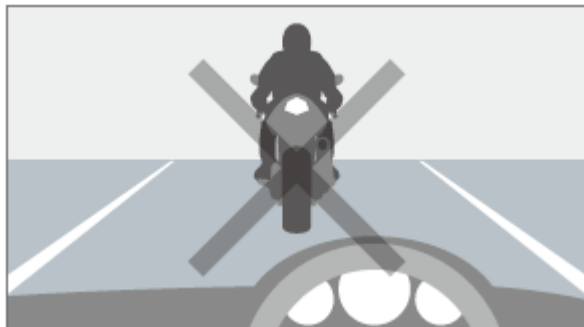
*本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20～26)を併せてご確認ください。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路走行時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つよう、車速のコントロールを支援します。

以下の点にご注意ください。



前方車の設定

- 次の対象物については、対象物として検知しません。
・ 対向車両・歩行者・静止物（停車車両、障害物など）
- 前方車が極低速のときは、前方車を正しく検知できないことがあります。
- バイク、自転車などの2輪車は前方車として設定しないでください。

ブレーキランプについて

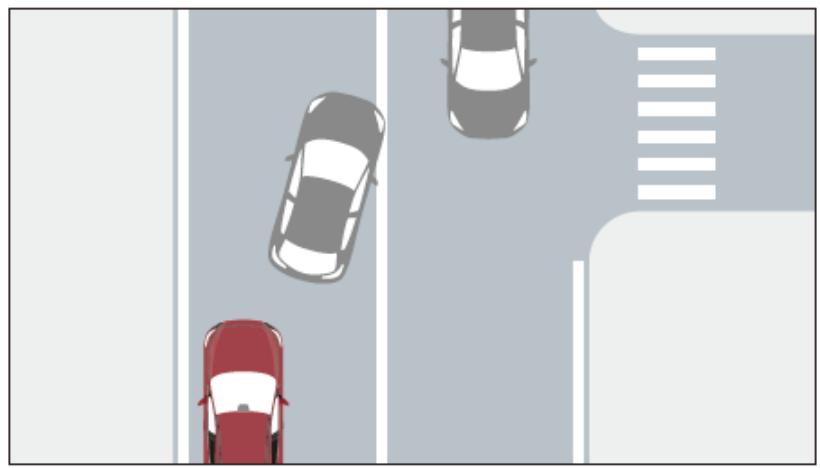
MRCC制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯しますが、下り坂を設定車速、または前方車に追従して一定車速で走行中はブレーキランプが点灯しないことがあります。（エンジンブレーキ作動時）

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路走行時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つよう、車速のコントロールを支援します。

以下のような場合には、**思わぬ事故につながるおそれがあるため、使用しないでください。**



- 自動車専用道路以外の一般道。
- 急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や頻繁に加減速を繰り返すような道路。
- 高速道路などでインターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するなど本線から出るとき。
(本線上で追従走行をしていたときは、自車が本線から出ることにより前方車がいなくなり、設定された速度まで加速する場合があります。)
- 長い下り坂。
(車間距離を保つため自動的にブレーキを踏み続け、ブレーキが利かなくなるおそれがあります。)

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路走行時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つよう、車速のコントロールを支援します。

以下のような場合にはシステムが一時的に解除されます。

同時にMRCCセット表示(緑色)からMRCCスタンバイ表示(白色)に変わります。

- CANCELスイッチを1回押したとき。
- ブレーキペダルを踏んだとき。
- 【AT車】 ○ セレクトレバーがP/N/Rレンジになったとき。
- 【MT車】 ○ チェンジレバーがRになったとき。

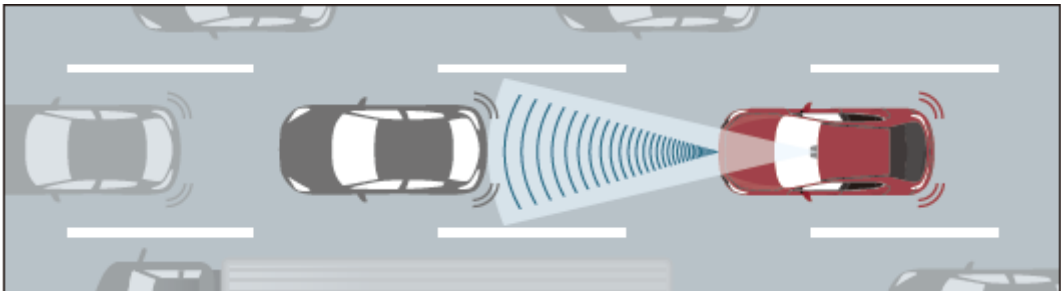
クルージング&トラフィック・サポート (CTS)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

機能の概要

- フォワードセンシングカメラ (FSC) とレーダーセンサー (フロント) により、前方車と車線を検知します。
- 前方車を検知することで、アクセルやブレーキ操作を支援し、設定した速度での定速走行や、設定した車間距離を保つよう、追従走行を支援します。(追従走行機能はMRCCと同一機能です。)
- ステアリングアシスト機能で車線を検知すると、車線に沿った走行をアシストします。車線を検知していない場合は、前方車の走行軌跡に沿った走行をアシストします。
- 走行車線内の中央付近を走行できるようにハンドル操作をアシストします。
- 一部車種、グレードには速度標識連動機能がついています。



クルージング&トラフィック・サポート (CTS)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

作動条件		
○ CTSスイッチを押し、CTSがONのとき。 追従走行機能 【AT車】○ 車速:0km/h~高速域のとき。 ○ セレクトレバーがD/Mのとき。 【MT車】○ 車速:約30km/h~高速域のとき。 ○ チェンジレバーがR/N以外のとき。 ○ クラッチペダルを踏んでいないとき。 <tr><td> ステアリングアシスト機能 ○ 追従走行機能が作動しているとき、かつ、以下条件を満たすとき。 【AT車】○ 両側の白線(黄線)を検知して走行(車速:0km/h~高速域のとき)、 もしくは前方車を検知して走行(車速:0~50km/hのとき) 【MT車】○ 両側の白線(黄線)を検知して走行(車速:30km/h~高速域のとき)、 もしくは前方車を検知して走行(車速:30~50km/hのとき) </td></tr> <tr><td> 速度標識連動機能 ○ ナビゲーションシステムのSDカードの挿入が必要です。 ○ 30km/h未満の速度では標識を表示しません。 </td></tr>	ステアリングアシスト機能 ○ 追従走行機能が作動しているとき、かつ、以下条件を満たすとき。 【AT車】○ 両側の白線(黄線)を検知して走行(車速:0km/h~高速域のとき)、 もしくは前方車を検知して走行(車速:0~50km/hのとき) 【MT車】○ 両側の白線(黄線)を検知して走行(車速:30km/h~高速域のとき)、 もしくは前方車を検知して走行(車速:30~50km/hのとき)	速度標識連動機能 ○ ナビゲーションシステムのSDカードの挿入が必要です。 ○ 30km/h未満の速度では標識を表示しません。
ステアリングアシスト機能 ○ 追従走行機能が作動しているとき、かつ、以下条件を満たすとき。 【AT車】○ 両側の白線(黄線)を検知して走行(車速:0km/h~高速域のとき)、 もしくは前方車を検知して走行(車速:0~50km/hのとき) 【MT車】○ 両側の白線(黄線)を検知して走行(車速:30km/h~高速域のとき)、 もしくは前方車を検知して走行(車速:30~50km/hのとき)		
速度標識連動機能 ○ ナビゲーションシステムのSDカードの挿入が必要です。 ○ 30km/h未満の速度では標識を表示しません。		

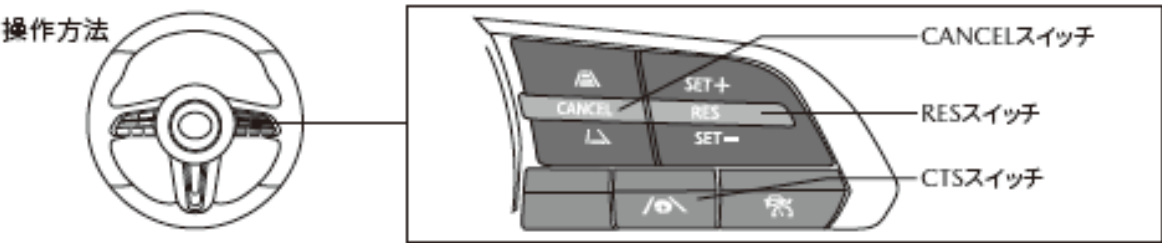
クルージング&トラフィック・サポート (CTS)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

作動方法/作動時の表示/警告音

【知識】○ CTSの設定状況および作動状況をマルチインフォメーションディスプレイ、またはアクティブ・ドライビング・ディスプレイでお知らせします。



作動時の表示



- CTSをセットするには、
- ① CTSのスイッチを1回押す。
 - ② アクセルペダルの操作で設定したい速度に調整し、RESスイッチを押し上げる (SET+) または押し下げる (SET-) と定速走行の支援を始めます。
 - 短押し: 1km/h
 - 長押し: 10km/h
 - ③ CANCELスイッチを押し上げる、または押し下げることで、車間距離を設定します。

【速度標識連動機能】

速度標識セット表示RESが点灯している時にRESスイッチを押す。



※ 操作方法や作動時の表示は車種によって異なります。詳しくは取扱説明書をご確認ください。

クルージング&トラフィック・サポート (CTS)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- 機能には限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正し、安全運転に心がけてください。
- (ドライバー異常時対応システム搭載車のみ) CTS作動中にハンドルから手を離した状態、または緩く握った状態が一定時間続いたとき、メーター等にハンドル手放しに対する警告が表示され、警報音が開始します。その状態が解除されないまま一定時間継続すると、ドライバー異常時対応システム (DEA) が作動します。(詳細はP00~00をご確認ください)
- CTSを使用しないときは、必ずOFFにする。
常に使用できる状態にしておく、誤ってCTSを作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 前方車の種類や状態、天候状況、道路状況によっては、前方車の検知に限界があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の状況を確認して、ブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、前方車や後方車との車間距離を十分に確保し安全運転を心がけてください。

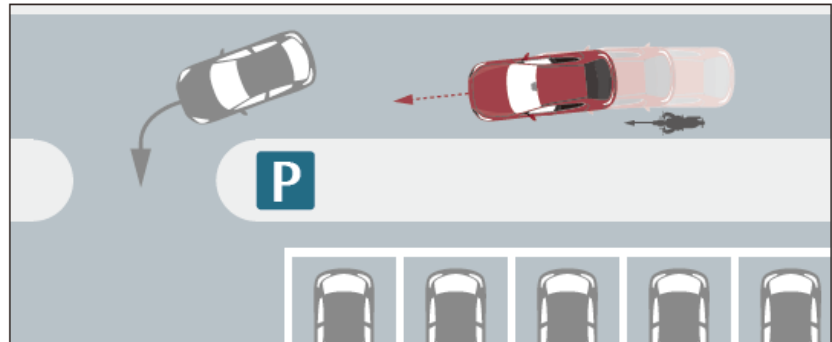
*本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項 (p20~26) を併せてご確認ください。
*CTSの追従走行機能は、MRCCと同一機能です。追従走行機能についての注意事項 (p144~150) を併せてご確認ください。

クルージング&トラフィック・サポート (CTS)

	MT車	AT車
運転支援機能	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

以下のような場合には、**思わぬ事故につながるおそれがあるため、使用しないでください。**



自動車専用道以外の一般道で、CTSを使用しないでください。
急なカーブ、交通量が多く車間距離が十分に取れない道路や
頻繁に加減速を繰り返すような道路に合わせた走行ができないため、
思わぬ事故につながるおそれがあります。

前方車の走行軌跡に沿った走行をアシストしている際に、前方車が
右左折すると、運転者の意図しない走行をする可能性がありますので、
一般道では使用しないでください。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

以下のような場合にはシステムが一時的に解除されます。

追従走行機能

次の操作をおこなうと、CTSが一時的に解除され、同時にCTSセット表示(緑色)がCTSスタンバイ表示(白色)に変わります。

- CANCELスイッチを1回押したとき。
- ブレーキペダルを踏んだとき。
- 【AT車】 ○ セレクトレバーがP/N/Rレンジになったとき。
- 【MT車】 ○ チェンジレバーがRになったとき。

ステアリングアシスト機能

次のような状態になったとき、ステアリングアシスト機能が一時的に解除されます。

- 追従走行機能が解除されたとき。
- 白線(黄線)を検知できない、または前方車を認識できないとき。
- 急なカーブを走行したとき。
- 方向指示器を操作したとき。
- 急なハンドル操作をしたとき。
- 運転者がハンドルから手を放したとき。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

以下のような場合にはご注意ください。

ステアリングアシスト機能

- 走行車線内の中央付近を走行できるようにハンドル操作をアシストしますが、カーブの形状、路面の傾斜や起伏、車速等によっては、中央付近を走行できない場合があります。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

	MT車	AT車
運転 支援機能	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

CTS作動中にハンドルから手を放した状態、または緩く握った状態が一定時間続いたとき、DEAが作動することがあります。

作動時の表示



解除方法



- ドライバーのハンドル操作を検出できない状態が続くと、ハンドルから手を放した状態であるとシステムが判断し、警告画面が表示されると共に警報音が鳴ります。その状態が約20秒継続するとDEAが作動します。その際に、ハンドルを強く握るだけでは、ハンドルから手を放した状態が続いているとシステムが認識する場合があります。その場合、ハンドルを左、もしくは右に数ミリ程度軽く操作するとハンドル手放しに対する警報を解除することができ、DEA作動に至りません。
- ハンドル手放しに対する警報が解除された後も、CTSを一時的に解除する操作(CANCELスイッチ/ブレーキペダルの操作)を行わない限り、CTSは継続します。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

CTS作動中にハンドルから手を放した状態、ハンドルを軽く握った状態、または前方不注意を検知し、それに対する警報が一定時間解除されない場合は、**緊急停止支援機能が作動することがあります。**(一部車種・グレードが対象)

- ドライバーのハンドル操作を検出できない状態が続くと、ハンドルから手を放した状態であるとシステムが判断し、警告画面が表示されると共に警報音が鳴り緩い減速が行われます。その状態が一定時間継続すると緊急停止支援機能が作動します。
- ドライバーモニタリングが運転者の前方不注意を検知した場合、警告画面が表示されると共に警報音が鳴り緩い減速が行われます。その状態が一定時間継続すると緊急停止支援機能が作動します。

緊急停止支援機能が作動するまでの警告表示

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)緊急停止支援機能付(ドライバー・モニタリング連動)で異常を検知した際、運転介入(減速開始)前に3段階(前方不注意検知時は2段階)で警報を発します。

異常検知状態	STEP1		STEP2		STEP3	
ハンドル非把持	表示		表示+音①		表示+音③+弱減速	
前方不注意	-		表示+音②			

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

CTS作動中にハンドルから手を放した状態、ハンドルを軽く握った状態、または前方不注意を検知し、それに対する警報が一定時間解除されない場合は、**緊急停止支援機能が作動することがあります。**(一部車種・グレードが対象)

- 緊急停止支援機能が作動した場合、以下のような挙動が発生します。
 - ・緊急停止機能が車両減速・停止を開始すると非常点滅灯・ブレーキランプが点灯・点滅するとともに、ホーンが吹鳴します。
 - ・状況によって以下のように減速・停止を支援します。
 - 高速道路または自動車専用道路において第一走行車線や登坂車線など路肩に隣接する車線を時速60km/h以上で走行している場合、可能な範囲で路肩に寄せながら維持しながら減速・停止を支援します。※
 - 上記以外の場合、可能な範囲で、自車が車線から逸脱しないように維持しながら減速・停止を支援します。
- ※ 路肩に寄って停車する条件
 - ・ドライバー異常時対応システム(DEA)が装着されていること
 - ・ナビゲーションシステムのSDカードが挿入されているとき。 ・高速道路または自動車専用道路を走行しているとき。
 - ・路肩に隣接する車線を走行しているとき。 ・路肩に停車可能なスペースがあり、自車の進入ルートに障害物などがいないとき。
 - ・自車の左側方および左後側方に接近車両を検知していないとき。 ・キャンピングトレーラーなどを牽引していないとき。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転 支援機能	MT車	AT車
	30km/h~ 高速域	0km/h~ 高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

CTS作動中にハンドルから手を放した状態、ハンドルを軽く握った状態、または前方不注意を検知し、それに対する警報が一定時間解除されない場合は、**緊急停止支援機能が作動することがあります。**(一部車種・グレードが対象)

- 以下のような場合は路肩に寄らずに停車します。
- ・ブレーキペダルを踏んだとき。 ・セレクトレバーをD以外の位置にしたとき。 ・運転席のシートベルトを外したとき。
 - ・いずれかのドアを開けたとき。 ・スマート・ブレーキ・サポート(SBS)が作動したとき。 ・エアバッグが作動したとき。
 - ・車線の幅が極端に狭いときまたは異常に広いとき。 ・一定時間内に路肩に寄れる条件が揃わなかったとき。
 - ・高速道路の合流または離脱を検知したとき。
- 緊急停止支援機能によって自車が停止した後は、次のことが自動的に行われます。
- ・パーキングブレーキがかかります。
 - ・全てのドアが解錠されます。
 - ・マツダエマージェンシーコールが行われます。
- ※ エマージェンシーコールを使用するにはコネクティッドサービスを契約する必要があります。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

CTS緊急停止支援機能のキャンセル・解除方法

CTS作動時に状態異常に対する警報、もしくは緊急停止機能が作動したが、ドライバーに異常がなく、警報/緊急停止機能をキャンセル・解除したい場合は落ち着いて以下の操作を行ってください。

○ 警報表示・警報音が鳴った場合の解除方法

ハンドルを左、もしくは右に数ミリ程度操作することで警報が解除されます。

・警報が解除された後も、CTSを一時的に解除する操作(CANCELスイッチ/ブレーキペダル操作)を行わない限りCTSは継続します。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

CTS緊急停止支援機能のキャンセル・解除方法

- 減速(緊急停止支援機能)が開始された場合の解除方法
ハンドルを左、もしくは右に数ミリ程度操作することで減速(緊急停止支援機能)が解除されます。
他にも以下操作を行うことでドライバーの意図的な操作と認識し解除されます。
 - ・CTSスイッチまたはCANCELスイッチを1回押したとき。
 - ・ハンドルを握った状態でペダル操作をして加速するなど意図的な運転操作をしたとき。
 - ・アクセルペダルを3回踏み込んだとき。
 - ・緊急停止支援機能が解除された場合はCTSに復帰しません。RESスイッチを押すと一時的に解除される前の設定速度で定速/追従走行機能が作動します。

クルージング&トラフィック・サポート(CTS)

運転
支援機能

MT車
30km/h~
高速域

AT車
0km/h~
高速域

高速道路や自動車専用道路で渋滞した時にアクセルやブレーキ操作を支援し、前方車との車間距離を保つように追従走行する支援をします。加えて、ステアリングアシスト機能により、車線に沿った走行、もしくは前方車の走行軌跡に沿った走行を支援します。

CTS緊急停止支援機能のキャンセル・解除方法

- 車両が停止した後の緊急停止支援機能解除方法
緊急停止支援機能によって車両が停車した後は、アクセル操作をしても発車できません。
次のどれかを行うことで緊急停止支援機能が解除され、再度発車することができます。
 - ・ブレーキペダルを踏んだ状態でパーキングブレーキを解除する。
 - ・シフトレバーをPに入れる。
 - ・車両の電源をOFFにする。上記の方法で緊急停止支援機能を解除したとき、ブレーキランプの点滅とホーンは停止しますが、非常点滅灯は止まりませんので点滅を停止するにはハザードスイッチを押下する必要があります。

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

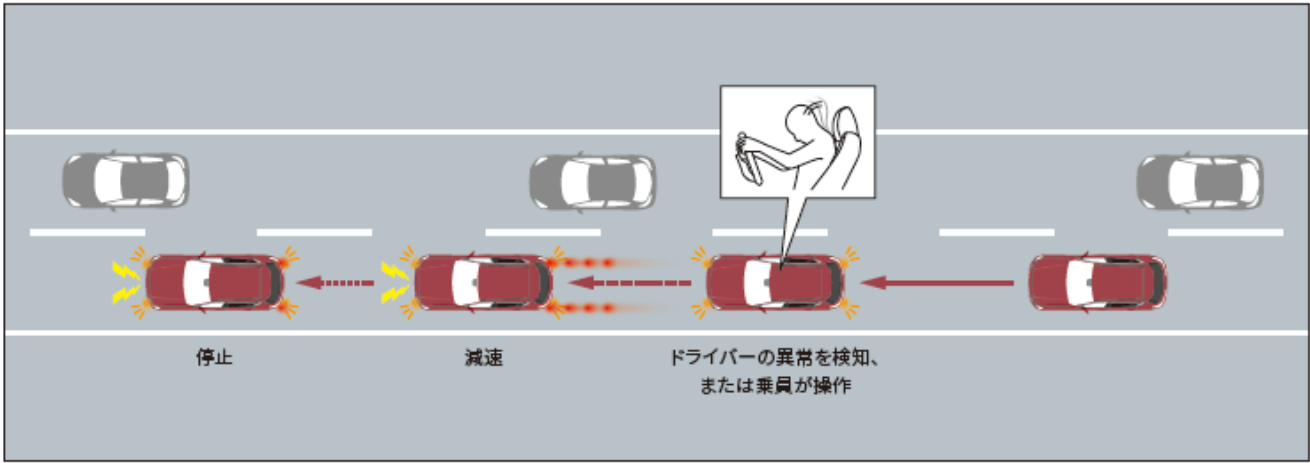
運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

機能の概要

- DEAは、運転者の異常を検知、または乗員が操作することにより作動します。
- DEAが作動すると非常点滅表示灯の点滅を開始し、間もなく緊急停車することを乗員に報知しながら、運転者の正常/異常判定を行います。
- 運転者が通常運転状態に復帰せずDEAがキャンセルされない場合には、非常点滅表示灯に加え、ブレーキランプの点滅とホーンの吹鳴を開始し、車両を減速・停止させます。



ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

作動条件
○ 高速道/自動車専用道路/一般道を5km/h以上で一定時間走行を継続しているとき。 ○ 運転者に異常が起きているとDEAが検知したとき。 ※乗員による操作によってもDEAを作動させることができます。 SOSスイッチ操作後、センターディスプレイの表示内容に従い、EPBスイッチを引き上げることでDEAが作動します。 次のいずれかの条件を満たしている場合に、DEAは運転者に異常が起きていると判断します。 ○ ドライバー・モニタリングにより急病検知したとき。 ○ 高速道路または自動車専用道路を60km/h以上で走行中、ドライバー・モニタリングによる居眠り検知が一定時間続いたとき。 ○ クルージング&トラフィック・サポート (CTS) 作動中に、ハンドルから手を放した状態または緩く握った状態が一定時間続き、その状態に対する警報が解除されないとき。

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

作動条件
【急病検知機能】 急病検知機能は、運転者の異常姿勢を検知した場合に急病が起きていると判断します。 運転者の急病を検知すると、DEAが作動します。 ※急病検知機能が作動するとき：次の条件を満たしている場合に、急病検知機能が作動します。 ● 運転姿勢の崩れがあるとき。 ● ハンドルから手を離れた状態、または緩く握った状態が一定時間続いたとき。 ● ブレーキ操作がないとき。 【居眠り検知機能】 居眠り検知機能は、運転者に強い眠気が続いている場合に居眠りをしていると判断します。 運転者の居眠りを検知すると、DEAが作動します。 ※居眠り検知機能が作動するとき：次の条件をすべて満たしている場合に、居眠り検知機能が作動します。 ● 車両を約20分以上走行させたとき。 ● 運転者の強い眠気が一定時間続いたとき。 ● 運転者ナビゲーションシステム用SDカードが挿入されているとき（高速道路判定ができる状態にあるとき）。

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

作動条件

【CTS作動中のハンドル手放し検知】

CTS作動中にハンドルから手を放した状態、または緩く握った状態が一定時間続いた場合、ハンドルから手を放した状態であるとシステムが判断し警告画面が表示され、警報音が鳴ります。

- ※ ハンドル手放しに対する警報が解除されない状態が約20秒継続するとDEAが作動します。
- ※ 警報画面が表示されてからDEAが作動するまでの間、ハンドルを左、もしくは右に数ミリ程度操作するとハンドル手放しに対する警報を解除することができ、DEA作動に至りません。

作動時の表示



解除方法



ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

作動時の挙動/作動時の表示

【DEA作動直後の車両の状態】

- DEAが作動すると、システムによる車両減速・停止の待機状態であることがセンターディスプレイおよびメーターに表示され、警報音が鳴り始めます。
- DEAが作動すると、スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が自動的に有効化されます。
- DEAが作動するとアクセルペダル操作による加速ができません。また非常点滅表示灯が点滅します。
- DEAが作動すると、自車が車線から逸脱しないよう支援する機能と、前方車との車間距離確保を支援する機能が作動します。
- DEAが作動すると、エンジンブレーキ相当の微減速が発生します。

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

作動時の挙動/作動時の表示

【DEA作動から一定時間が経過した時の挙動】

- その後、一定時間※1にキャンセル操作（ハザードスイッチ操作等）が行われない場合は、車両減速・停止を開始します。
- DEAが車両減速・停止を開始するとブレーキランプが点滅するとともに、ホーンが吹鳴します。
- 状況によって、以下のように減速・停止します。
 - 高速道路または自動車専用道路において第一走行車線や登坂車線など路肩に隣接する車線を時速60km/h以上で走行している場合、可能な範囲で路肩に寄せながら、減速・停止します。※2
 - 上記以外の場合、可能な範囲で、自車が車線から逸脱しないように維持しながら、減速・停止します。

※1 DEAが作動してから、車両減速・停止が開始するまでの時間：

- 急病検知、CTS作動中のハンドル手放し検知、乗員による操作が起因の場合は約5秒
- 居眠り検知が起因の場合は約13秒

※2 路肩に寄って停車する条件：

- ナビゲーションシステムのSDカードが挿入されているとき。 ● 高速道路または自動車専用道路を走行しているとき。
- 路肩に隣接する車線を走行しているとき。 ● 路肩に停車可能なスペースがあり、自車の侵入ルートに障害物などがいないとき。
- 自車の左側方および左後側方に、接近車両を検知していないとき。 ● キャンピングトレーラーなどをけん引していないとき。

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

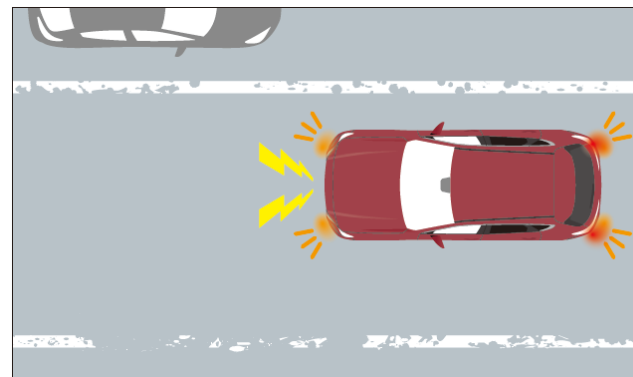
5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

作動時の挙動/作動時の表示

以下のような場合には路肩に寄らずに停車します。

- ブレーキペダルを踏んだとき。
- セレクトレバーをD以外の位置にしたとき。
- 運転席のシートベルトを外したとき。
- いずれかのドアを開けたとき。
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき。
- エアバッグが作動したとき。
- 車線を維持して走行できなくなったとき。
- 車線の幅が極端に狭いとき、または極端に広いとき。
- 一定時間内に路肩に寄れる条件が整わなかったとき。
- 高速道路の合流または離脱の標識を検知したとき。



ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

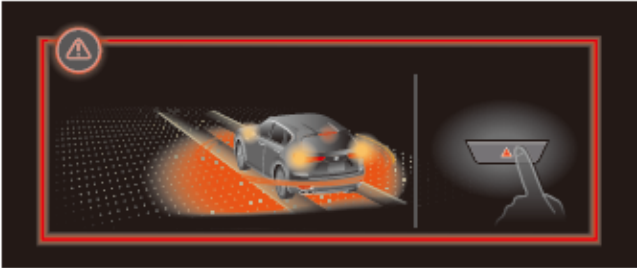
高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

作動時の挙動/作動時の表示

【DEAによる緊急停止に伴う作動】

- システム制御によって自車が停車した後は、パーキングブレーキが自動的にかかり、すべてのドアが自動的に解除されます。停車後のシステム制御の詳細はセンターディスプレイに表示されます。
- また、システム自動検知によるDEA作動の場合には、エマージェンシーコールを行います。
- ※エマージェンシーコールを使用するには、コネクティッドサービスを契約する必要があります。
- また、乗員の操作によってDEAが作動した場合、エマージェンシーコールは行いません。

センターディスプレイ〈DEA作動時〉



〈DEAによる緊急停止時〉



ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

警告

- DEAは、現在利用可能な技術を用い、運転者に異常が起き運転の継続が困難になった場合、それを周囲に知らせながら速やかに車両を減速・停止させることで、車両がそのまま走行を続けることにより発生しうる衝突事故やその被害の軽減に寄与することを目的とするものです。
- DEAは運転者に異常が起きて運転の継続が困難になった場合を対象とするものであり、自動運転システムではありません。
- DEAは万一の際に速やかに減速・停止を行うことで事故の回避や被害の軽減を図るものであり、その機能には限界があり、その効果はさまざまな条件により変わります。
- 運転者には安全運転をする義務があり、DEA作動にともなう責任者は運転者にあります。
DEAの特性を十分ご理解いただき使用をお願いいたします。
- DEAは体調が優れない場合の運転を対象とするものではないため、体調が優れない場合は運転しないでください。
- 運転者に異常がない場合は、意図的にDEAを作動させないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

* 本システムはFSCを使用しています。FSCについての注意事項(p20~26)を併せてご確認ください。

* 本システムはドライバーモニタリングカメラを使用しています。ドライバーモニタリングカメラについての注意事項(p27~29)を併せてご確認ください。

[車種やグレードによって、設定されない場合があります。搭載車種については、こちらをご覧ください。](#)

[機能一覧に戻る](#)

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

i-ACTIVSENSEについて、より深くご理解いただくために注意していただきたいこと。

注意事項

- 次の条件のいずれかを満たす場合は、誤作動を防ぐためにDEAの自動的な作動を停止するとともに、乗員の操作による意図的なDEA作動を行わないでください。
 - トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりするとき。
 - 草の生い茂った場所やオフロードなどの悪路を走行するとき。
- サスペンションを改造しないでください。
- タイヤは4輪ともすべて指定されたサイズで、同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンのものを使用してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、DEAが正常に作動しなくなるおそれがあります。

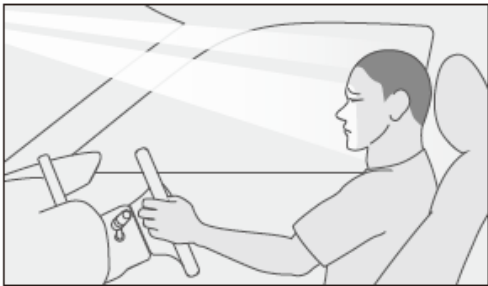
ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

強い日差しで目を細める、といった場合にドライバーの表情から状態を正しく認識できず、システムが急病や居眠りと判定し、DEAが作動することがあります。



- 運転に支障が無い場合は、キャンセル操作(ハザードスイッチ操作)を行ってください。

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

DEAのキャンセル・解除方法

※DEAキャンセル後の車両挙動について

- 急な加速を防ぐため、数秒間はアクセルを踏んでも通常より緩やかな加速となります。
- ハザードスイッチを押下する以外の方法でDEAをキャンセルした場合、ブレーキランプの点滅とホーンは停止しますが非常点滅表示灯の点滅はとまりませんので、点滅を停止するにはハザードスイッチを押下する必要があります。
- DEAのキャンセル後、CTSには復帰しません (DEAが作動した時点でCTSは解除されます)。CTSを継続して使用したい場合は、改めてCTSをセットする必要があります (詳細はp151～164をご確認ください)。
- 停車後の解除方法
DEAによって車両が停車した後は、アクセル操作をしても発車できません。次のどれかを行うことでDEAが解除され、再度発車することができます。
 - ブレーキペダルを踏んだ状態でパーキングブレーキを解除する。
 - シフトレバーをPに入れる。
 - 車両の電源をOFFにする。上記の方法でDEAを解除したとき、ブレーキランプの点滅とホーンは停止しますが、非常点滅表示灯の点滅はとまりませんので、点滅を停止するにはハザードスイッチを押下する必要があります。

ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

DEAの機能すべてを使用するには**以下が必要となります。**

■ **コネクティッドサービスの契約**

システムの自動検知によって自車が停止した後に、マツダエマージェンシーコールを作動させるためには、コネクティッドサービスの契約が必要になります。

■ **ナビゲーションシステム用SDカード**

以下の機能には、ナビゲーションシステムのSDカードが挿入されていることが必要になります。

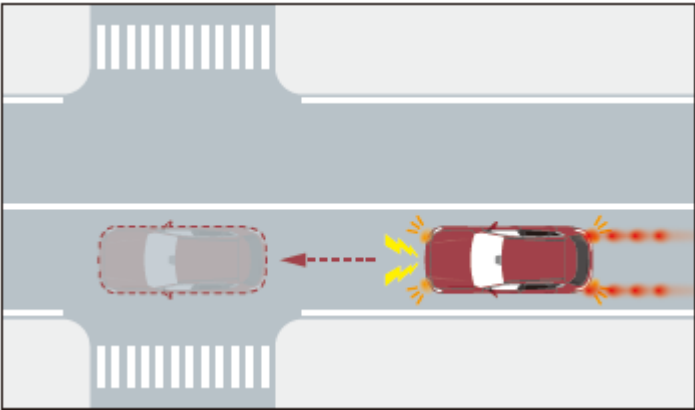
ドライバー異常時対応システム (DEA) * DEA: Driver Emergency Assist

運転
支援機能

5km/h~
高速域

高速道路、自動車専用道路および一般道を問わず、運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に、車両を減速・停止させることで、衝突事故やその被害の軽減に寄与します。

以下のような場合にはご注意ください。



DEAにより車両が減速・停止する際に停止場所を選ぶことができないため、
思わぬ場所で車両が停止する可能性があります
(交差点や踏切内で止まる場合もあります)。